

ルニ由リ、待中武官ノ一名ヲ以テ海軍ニ屬セシメ、日耳曼帝國海軍大佐タル「ヘンリー」親王殿下ニ隨從セシムルナリ。

地方所在ノ宮内榮官

一 地方ニ於テハ世運ノ變遷政治ノ沿革等ニ依リ現今ノ普漏西并ニ日耳曼ノ朝ニ關係ナキ宮内榮官ヲ帶ル者アリ。然リト雖、普漏西朝ニ於テハ其貴族ノ特種タルヲ認定シ、之ヲ保護ス。當今ハ是等ノ地方モ多クハ普漏西國王ニ屬シ、那翁戰亂其他近來ノ戰爭前ニ在テハ其地方ノ所有主ハ邦土小ナリト雖、同等ノ國主權ヲ有セリ。前ノ國主權ヲ有シタル國王族ニハ日耳曼國法ニ於テ現今歐羅巴ノ王室ト結婚上同等ノ權ヲ保ツ事ヲ認定ス。其臣下前ニ於テ世襲ノ宮内榮譽ヲ有シタルモノハ實際ノ利益又ハ收入金ナシト雖、其家族ノ榮譽トシテ之ヲ保有ス。普漏西朝并政府ニ於テ其榮官ヲ認定スルニ於テハ戶主タルモノ席次ノ名簿中ニ位地ヲ有シ、又或ル場合ニ於テハ大禮服ヲ着用スル事ヲ得。是ヲ以テ古ヨリ傳來セル貴族ノ標章トシテ大ニ之ヲ貴重ス。

一 前ニ述ベタル所ヨリ異ナル宮内ノ榮官四名ハ現今普漏西王國ノ名稱ヲ襲傳シタル普漏西洲ニ屬ス。其榮官ハ之ヲ有スル者死去スルニ當リ其地方ニ屬スル所ノ貴族ヲ以テ皇帝陛下ヨリ之ニ任ズ。此榮官ニ任ゼラル、者ハ普漏西ニ於テ大ニ名譽トシ又其榮官ニ對シ閣下ノ稱號ヲ有ス。其官名ハ即チ左ノ如シ。

- 一 ランドホフマイスター・オフ・ゼ・キングダム・オフ・プロシヤ
 - 二 オベルマーサル・オフ・ゼ・キングダム・オフ・プロシヤ
 - 三 カンスラー・オフ・ゼ・キングダム・オフ・プロシヤ（此官ニ任ズルハ普漏西州ノ貴族トス。而シテ常ニ普漏西州「カニツダスボルグ」府ノ裁判所ノ總長トナル）
 - 四 オベルボルググラフ・オフ・ゼ・キングダム・オフ・プロシヤ
- 第一、第二、第四ノ榮官ヲ有スルモノハ總テ土地所有ノ貴族ニシテ、普漏西王ノ戴冠式ノ外其職務ニ從事スル事ナシ。今日迄ハ「カニツクスボルグ」府ニ於テ其式ヲ執行セリ。前ノ四名ハ戴冠式ニ於テ王統傳來ノ寶器ヲ奉持ス。即チ當皇帝即位ノ例ニ據レバ「ラストホフマイスター」ハ地球儀ヲ奉持シ「オベルマーサル」ハ劍ヲ奉持シ「カンスラー」ハ玉璽ヲ奉持シ「オベルボルググラフ」ハ笏ヲ奉持セリ。

普漏西王兼日耳曼皇后陛下ノ宮殿

一 皇后陛下ノ宮中ニ於テハ女官長ヲ以テ頭職トス。女官長ハ未亡人或ハ既婚ノ婦人ニシテ交際上高等ノ位地ヲ有シ又宮中ノ事務ニ經驗アルヲ要ス。此婦人ノ位地ハ普漏西王國ノ皇

族ヲ除キ其他婦人中ノ上位ニシテ、亦外國全權大使ノ夫人ヨリモ上席トス。凡ソ此官ハ年長ノ人多ク其職ニ任ゼラル、モノトス。現今日耳曼ニ於テハ伯爵夫人ベルボンチエール閣下、露西亞ニ於テハ公爵夫人コツチョバイ閣下等其任ニアリ。女官長ハ常ニ皇帝ヨリ與フル所ノ邸宅ニ居住ス。女官長ハ皇后陛下ヘ敬意ヲ表セントスル婦人ヲ毎日或ハ日ヲ期シ其時間ヲ定メテ尋問ヲ受ク。而シテ女官長ハ其婦人ノ願意ヲ皇后陛下ヘ奏聞ス。

一 女官長ノ夜會ニハ外國交際官及宮内官ヲ招待シ、又皇族モ隨時臨場セラル、コトアリ。女官長ノ所望ニヨリ時アリテ徽章服所有ノ從僕及銀器等ニ至ル迄皇室ヨリ之ヲ貸與スル事アルベシ。

一 女官長ハ皇后陛下ノ皇帝陛下ニ扶助セラレ出御ノ時ハ皇后陛下ノ右側ノ後ニ扈從ス。若シ兩陛下出御ノ時ハ皇后陛下皇帝ノ左側ニ立タセラル、ニヨリ女官長モ亦其左側ノ後ニ侍立ス。

一 女官長ノ次ニ祇候女官ヲ置ク。其官等ハ本邦ノ勅任官ニシテ其内閣下ノ稱號ヲ有スル者ト有セザルモノトアリ。本官ノ職務ニ於テハ要用ナルモノト、又ハ交際的及裝飾的ノモノアリ。宮中祇候女官二人ノ内一人ハ非常ニ交際上ノ才力ヲ有シ、廣ク社會ニ關係ヲ有ス。皇后陛下ノ宮殿ニ於テ貴紳ノ宴會ヲ催サル、時ハ常ニ執掌シテ之ヲ輔佐ス。他ノ一人ハ事

務調理ノ才力アリテ皇后陛下司官トナリ、保護セラル、所ノ學校、病院其他慈善ニ關スル會社ノ事件ニ付執掌ス。此祇候女官ハ前條ニ掲グル場所ニ尋問シ、又右等ノ會社ニ關シ事務上ノ爲メ或ハ協議ノ爲メ、或ハ指揮ヲ受クル爲メ宮中ヘ出頭スル者ヲ宮中ニ在ル自己ノ部屋ニ於テ之ニ應接ス。又皇后陛下是等ノ場所ヘ臨啓ノ節ハ扈從ス。同女官ハ既ニ五十年來其職ニ在リテ大ニ皇后陛下ノ信用ヲ蒙リ、亦諸會社等ノ事件ニ關シ大ニ勢力ヲ有ス。此祇候女官二名皇后陛下ノ御列中ニ扈從スル時ハ女官長ハ其前ニ扈從ス。祇候女官ハ未婚ノ者ナリ。

一 女官ノ員數ハ四名ニシテ通常土地所有ノ貴族門地アル者ヨリ任ゼラル、右女官ニ任ゼラル、若年婦ハ伯爵ノ家ヨリ常ニ選拔ス。此女官四名ノ内二名ハ交代シテ常ニ宮中ニ住居シ、馬車并食事及徽章服所有ノ從僕等ハ皇室ヨリ給與ス。此他豫備トシテ女官二名アリ、當務ノ女官支障ノ事故アル時ハ之ニ代リテ勤務ス。(但一ヶ月ヲ以テ交代トス)

一 前條ノ女官疾病其他ノ事故ニ依リ支障ヲ生ジタル時ハ、其増員トシテ女官長ヨリ地方ノ良家ヨリ臨時ニ若年婦ヲ召集スル事アルベシ。女官ノ職務ハ交際ニ關スル事件ニシテ、皇后陛下行啓ノ節及宮中ノ謁見ニ扈從シ、其他宮中ノ舞踏會、夜會、晚餐會ニ陪席シ大ニ榮譽ヲ社會ニ有ス。其位地ニヨリ既婚ノ婦人ト同様ノ待遇ヲ受ク。且特名ノ案内ヲ受ケ保護

者ナクシテ社會ニ莅ミ又宮中ニ於テモ貴紳ノ尋問ヲ受クル事ヲ得、其行爲ハ他ノ若年婦ノ模範トナルベキモノトス。

一 皇后陛下ニ於テ女官ノ事ニ關シ頗ル心ヲ用ヒラレ、殆ド我所生ノ如ク薰陶セラル、ナリ。皇后陛下ニ奉仕スル爲メ、女官長ノ命ニ依リ地方ヨリ召集セラル、ハ一段ノ名譽ナリト貴ビ、或ル家ニ於テハ我女ヲ其選ニ充ツルヲ希望ス。又或ル家ニ於テハ獨立ノ氣風ヲ有シ、此選ニ充ツルヲ深クハ希望セズ、宮中ニ奉仕スルニ際シテハ其女兩親ノ家ヨリ四週間程去ラザルベカラズ。然レドモ伯林ニ於テ斯ク宴會ニ招待セラレ其他既婚ノ婦人ノ如ク鄭重ノ待遇ヲ受クルニヨリ、女官ニ充テラル、ハ榮譽トシテ厭苦セズ、尤結婚スルノ場合ニ於テハ女官ノ職ヲ辭スルナリ。

一 皇后附事務總長ハ貴族ヲ以テ之ニ任ズ、現今ハ土地所有ノ財產家伯爵「ネツセルロード」ニシテ三十年來陛下ノ知遇ヲ蒙ル者ナリ。總長ハ皇后陛下ノ宮殿ニ於テ男官員ノ頭ニシテ常ニ宮中ニ住居シ、馬車及徽章服所有ノ從僕二名皇室ヨリ附與セラル。貴紳ノ皇后陛下ヘ敬意ヲ表スルノ尋問ヲ受ケ、其名簿ヲ調製シテ奏上ス。又謁見ノ日時ヲ稟定シテ之ヲ其本人ニ通知シ亦其名ヲ披露ス。總長ハ儀式上ニ於テ皇后陛下ヘ扈從ス。夏季ニ至レバ公暇ヲ乞フテ地方ニ歸住ス。

一 侍從二名ノ職務ハ皇后附事務總長指揮スル所ニシテ二週間ニテ交代ス。其都度女官長ノ輔佐ヲ以テ皇后陛下地方在留ノ侍從人名簿ヨリ更ニ選定ス。皇后附事務總長ハ其交代前ニ地方在留ノ侍從ニ照會シテ何日伯林ニ出府シ宮中ノ事務ニ從事スル旨ヲ通達ス。且總長ハ一ケ年中勤番ノ侍從人名簿ヲ調製シテ其允許ヲ得ル爲メニ皇后陛下ヘ奉呈ス。

一 侍從ハ皇后附事務總長ニ從ヒテ宮中ノ謁見、晚餐、夜會等ニ於テ來賓ニ接スルコトヲ輔ク。又皇后陛下、學校、病院、寺院等ヘ行啓ノ節ハ扈從シ、晚餐會ニ於テ來賓ノ接待ヲ爲ス時ハ、扈從モ常ニ其席ニ召サル。斯ル場合ニ於テハ食卓ノ兩側ニ高官着席セルニヨリ侍從ハ其兩端ニ着席ス。

一 地方ニ於テハ他ノ高等宮内官アラザルヲ以テ侍從ノ職務トシテ晚餐會ノ節ハ皇后陛下ノ前面ニ着席ス。又地方ニ於テ晚餐ノ節ハ來賓ノ席次ヲ調査シ、其他儀式上ノ事ニ從事ス。

皇后陛下ヘ尋問トシテ皇族來訪ノ時ハ停車場ニ到リ之ニ接遇ス。又貴紳ヨリノ尋問ヲ受ク。

一 伯林ニ於テハ侍從宮中ニ住居セズト雖、皇后陛下定額ノ内ヨリ日々費用トシテ若干ノ手當ヲ受領ス。(獨逸貨幣三十マルク、又侍從出府ノ節ハ徽章服所有ノ從僕ヲ從ハシム)

一 皇后陛下英國皇室ノ法則ニ倣ヒ此規則ヲ制定セラレタルハ、侍從ヲシテ獨逸國內各地方ヲ視セシムル機會アルニ由ルナリ。其他皇太子等ノ宮殿ニ於テハ侍從ノ交代ナクシテ終年

勤績ス。

一 内豎二名ハ儀式ニ關スル祝祭宴會ノ外容易ニ宮中ニ出仕スル事ナシ。皇后陛下斯ル場合ニ於テ著用セラル、裳裾^{ツレ}ハ内豎之ヲ奉持ス。若シ二名ニシテ足ラザル時ハ四名ヲ召集ス。儀式上皇后陛下出御ノ節ハ内豎扈從シテ階段アル玉座ノ後側又ハ著椅ノ後ニ於テ一列ニ侍立ス。

一 皇后陛下ノ祕書官又ハ參贊官ハ公務上ノ書記官ニシテ祕書局ニ關係ノ事務ヲ日々皇后陛下へ奏上ス。其祕書局及住居ハ宮中ニ在リ祕書官ハ主計ノ管理スル皇后陛下ノ歳入及祕書局ニ關係セル書記ノ往復淨書等ヲ監督ス。皇后陛下ニ宛タル諸公文及電信等ノ回答ハ祕書官起草シテ皇后陛下ノ記名ヲ乞フ。又皇后陛下ノ命ニ依リ自ラ之ヲ回答ス。

一 祕書官ノ事務ハ多端ニシテ其位地タル須要ナリ。屢々事務上ノ問題或ハ美術及文學上ノ事ニ關シ諮詢ヲ蒙ル。祕書官ノ職掌トシテ常ニ皇后陛下へ新聞紙ヲ侍讀ス。又皇后陛下地方へ旅行ノ節ハ祕書官扈從ス。其事務所ハ御住所内ニ在リ、主計、書記ハ扈從セズシテ伯林ニ在留ス。祕書官ノ位地ハ數種ニシテ着用ノ大禮服ニ由リテ之ヲ區別ス。其内文官或ハ武官ハ其模様ニ因テ之ヲ別ツ。

一 皇后陛下ノ侍醫ハ二名ニシテ都府或ハ地方トモ交代ヲ以テ一名ツ、扈從シテ其職務ニ奉仕ス。

一 御衣掛ハ二名ニシテ年中常ニ其職ニ從事ス。皇后陛下ニ關スル御服裝飾品ハ二名中ノ上席者注文ス。其勘定書ハ祕書局ヨリ支拂前之ニ記名ス。

一 御衣掛ハ服商人ヲ熟知シ御服ヲ選ブ。又其地合ヲ命ジ、之ヲ御服ニ製シ皇后陛下着用ノ節之ニ奉仕ス。皇后陛下ノ都府或ハ地方ニ住居ノ時ト雖モ、常侍シテ御側ヲ離ル、事ナシ、屢々内密ノ往復ヲ掌ル。但其身分貴族ナリト雖宴會ノ席ニ陪從スル事ナシ。

一 侍女二名ハ良家ノ者ヲ要スト雖、必ズシモ貴族ニ限ラズ、或ハ中等ニ位スル商人ノ家ヨリモ採用スルコトアリ侍女ハ御衣掛ノ職務ヲ補助ス。

皇太子殿下ノ宮殿

一 皇太子附事務組長ハ宮殿ノ事務ヲ總掌ス。近來ニ至リ總長不在ノ節ハ代理者之ヲ補助ス。

一 傳令使二名ハ陸軍少佐又ハ大尉ニシテ、日々其勤務ニ從事ス。皇太子へ謁見ヲ乞ハントスルモノハ傳令使ニ照會ス。又傳令使ハ皇太子ノ命令ヲ以テ謁見ノ日時ヲ通知ス。當直傳令使ハ他ニ命令アルニアラザレバ皇太子ノ馬車ニテ外出又ハ徒歩ノ節之ニ扈從ス。謁見並晚餐ニ於テハ、招待ヲ蒙ルノ外其席ニ扈從スルヲ要セズ。又皇太子ハ軍務ニ從事セラル、

ニ由リ軍隊檢閲ノ節ハ之ニ扈從ス。

一 祕書官ハ傳令使ノ内ヨリ兼任スルニアラザレバ、其位地侍從ニ同ジ。祕書官ハ皇太子ノ公文ニ關スル諸往復並私有財産ノ事ヲ掌リ、宮殿ノ諸費用ニ至テハ其出入ヲ掌理セズ。皇太子附事務總長之ヲ支辨ス。皇太子附ノ祕書官ハ主計、並書記ト事務所ヲ宮殿ニ有ス。皇太子ノ從僕、馭者等ニ至テハ總テ總長ノ直轄トス。

一 事務總長、傳令使、及祕書官ハ伯林ニ於テハ宮殿ニ住居セズ。然レドモ皇太子ボスダムニ成ラセラル、時ハ俱ニ離宮内ニ住居ス。

皇太子妃殿下ノ宮殿

一 現今女官長ハ缺員ニシテ祇候女官一名女官二名ヲ以テ組織ス。女官二名ノ内大抵一名宛皇太子妃殿下ニ扈從ス。皇太子妃ニ謁見ヲ乞ハントスル者ハ祇候、女官へ照會ス。其祇候女官ハ女官同様宮中ニ住居ス。謁見晚餐ニ於テハ招待ヲ蒙ル時ノ外其席ニ扈從スルニ及バズ。然レドモ盛大ナル宴會ニ於テハ常ニ其席ニ扈從ス。

一 侍從ハ祕書官ヲ兼ヌ。皇太子妃殿下ハ美術ヲ嗜好セラル、ニ由リ、音樂、文學、美術等ノ社會ニ知友多シ。隨テ侍從ハ貴族ノ産ナルハ勿論、博學多識ニシテ世務ニ通曉セザルベ

カラズ。

一 皇太子妃ハ英國ノ皇女ニシテ自ラ英國ノ請謁ヲ受ケラル、ゴト多キニヨリ、其國語ニ通ズルヲ必要トス。公文並美術ニ關スル一切ノ往復ハ侍從兼祕書官之ヲ掌リ、又皇太子妃私有財産ノ收入並油畫及美術ニ關スル諸品ヲ主管ス。祕書官ハ宮中ニ住居ス。

一 内豎二名ハ儀式ノ場合ヲ除ク外容易ニ宮殿ニ出仕スル事ナシ。一體皇太子妃ノ宮殿ハ諸事簡易ニシテ皇后陛下ノ宮殿ノ如ク嚴重ニ儀式體裁ヲ張ルコトナシ。

一 皇太子妃未婚ノ女王ハ勿論宮殿ニ同居シ、其膝下ニ發育セラル。

皇孫ウキルヘルム殿下ノ宮殿

一 殿下ハ皇太子ノ長子ニシテ現今ボスザルス、近衛隊ノ大佐ナリ。皇孫附事務總長、傳令使、主計兼書記（社會ニ地位ヲ有セズ）ト家僕等ヲ以テ組織ス。皇孫殿下ハ軍人ナルヲ以テ宮殿ハ自ラ其氣風ヲ帶ブ。殿下ハ伯林ニ於テハ邸宅ナシ。殿下ノ聯隊所在ノボスダムニ於テ住所並離宮ヲ有セラル。殿下附諸員ノ職務ハ皇太子附ニ同ジ。

皇孫妃殿下ノ宮殿

普瀾西王兼日耳曼皇帝陛下ノ宮内官制說明書

- 一 女官長一名(未亡人)女官二名侍従、侍醫各一名ヲ以テ組織シ、秘書官ヲ置カズ、殿下ハ四人ノ子アリ。其教育ニ關シテ特ニ意ヲ用キラル。
- 一 皇孫妃殿下ハ冬季ニ至リ其配偶者皇孫殿下ト伯林ニ來リ宮城ニ住居セラレ、屢々宮中ノ宴會ニ蒞マル。皇孫妃殿下ハ伯林ノ全社會ニ於テ大ニ敬愛ノ望アリ、又舞踏其他ノ遊興ノ席ニ蒞マル。

皇孫女ヅキクトリヤ・ソヒヤ・マガレットノ宮殿

- 一 同宮殿ハ女太傅一女ニシテ其位地ハ女官ニ同ジ、常ニ皇太子ノ宮殿ニ住居シ數名ノ女傅教師等ヲ直轄ス。

皇太后陛下ノ宮殿

- 一 現今ハ普漏西ニ於テ其設ナシト雖、前ノ皇太后陛下ハ不幸ニシテ千八百七十三年崩ゼラレ、當時ノ組織ハ女官長一名アリシガ、皇太后ニ先ダテ死去シタリ。
- 一 女官二名、皇太后附事務總長一名、侍従二名(交代ナシ)秘書官一名ニシテ皇太后陛下ノ慈惠ノ爲メ設置セラレタル學校、病院等ヲ直轄ス。皇太后陛下崩御ノ後女官二名ハ恩給

ヲ受領シ、在伯林ノ宮城内ニ住居ス。同陛下附事務總長及二名ノ侍従ハ勲等ニ叙セラレ、又秘書官ハ内務省ノ參事官ニ任ジ、前ノ皇太后陛下ノ設置セラレタル所ノ學校病院ノ長トナリ一ヶ年一回是等ノ事ニ關シ皇后陛下ヘ奏上ス。

普漏西王兼日耳曼皇帝陛下ノ宮内官制

侍從總長
大臣官房附庶務總監

大臣官房附庶務總監

一名

參事傳

三名

主計

七名

書記

七名

第一族姓局

長官 一名 式部長官之任ズ

參事官

二名

第二皇室記録局

長官 一名

參事官

二名

第三書記

長官 一名

參事官

二名

御料

御料

局

僚屬
ト一ネジルーボソ

諸局
テ
フイ
セ
ス

長官 一名

參事官

八名

主計 二名

書記

七名

第五皇族御料

御料

局

該事物ハ宮内大臣官房附庶務總監之ヲ處理ス所屬必要ノ官吏ハ各地方ニ在勤ス

普漏西王兼日耳曼皇帝陛下ノ最高等皇内官

第一侍從總長 第二儀典總長(現今ハ名ノミヲ存ス大禮儀式ノ金額頭ノ杖ヲ携テ先帝ノ先導ヲナスナリ) 第三薦酒總長(皇室ノ結婚式或ハ大禮ノ食饌ニ蒞ミ

献酒ヲ掌ルノ職ニシテ平常ハ大抵其名ノミヲ存スルナリ) 第四司饌總長(前同様

ノ節ハ肉ヲ切り供進スルノ職ニシテ平常ハ大抵其名ノミヲ存スルナリ) 第五狩

獵總長

普漏西王兼日耳曼皇帝陛下ノ高等官内官

第一宮園事務長 第二式部部長官 第三皇宮

事務總長 第四皇厩事務長 第五掌衣長(現今ハ名

ノミヲ存ス) 第六皇室附音樂事務長 第七皇室附演劇事務

普漏西王兼日耳曼皇帝陛下ノ官内官制

長 第八 宮 園 事務 次長 第九 式 部 次 官 (外國交 際官ノ紹介者) 第十 皇 廐 事務 次長

普漏西王兼日耳曼皇帝陛下ノ宮内官

第一 宮 園 官 十名 第二 式 部 官 十名 第三 守 城 官 十名 第四 狩 獵 官 十名 第五 各 地 方 所 在 ノ 侍 從 二 百 名 第六 侍 從 試 補 二十名

普漏西王兼日耳曼皇帝陛下ノ宮内官僚

侍醫 皇 帝 附 書 記 官 一名 主計 一名 官講 (當今名ノミヲ存ス)

事務所

第一 皇 宮 事 務 局

皇宮事務總長 一名 皇宮事務次長 一名 内 豎 長 (現今其名ノミヲ存ス)

第一 課 參 事 官 五名 主計 四名 書記 四名

第二 課 大 匠 師 一名 參 事 官 四名 法 律 師 一名 書 籍 掛 二名

醫 師 七名 監 查 官 二名

第一課第二課僚屬 帝 僕 四名 配 膳 五名 庖 宰 三名 掌

酒 四名 咖啡并庖厨掛 一名 司 器 器 器 並 陶 器 等 三名 司 布 洗

濯掛婦人 五名 都 府 并 地 方 官 城 取 締 廿五名 木 材 薪

炭 掛 二名

第二 宮 園 事 務 局

宮園事務長 一名 宮園事務次長 一名 參 事 官 四名 庭 園 師 廿三名

第三 式 部 局

式部長官 一名 式部次官 一名 式 部 官 一名

第四 皇 廐 事 務 局

皇廐事務長 一名 皇廐事務次長 一名 乘 馬 員 十二名 (馬

ヲ訓練シ馭者等ヲ訓習スル職ナリ) 主計 二名 書記 三名

第五 狩 獵 局

狩獵總長 一名 地 方 在 勤 狩 獵 官 五名 狩 獵 吏 廿一名

第六 皇 室 附 音 樂 事 務 局

皇室附音樂事務長 一名 音 樂 師 七名 唱 歌 師 并 管 絃 師 七名

第七 皇 室 附 演 劇 事 務 局

普漏西王兼日耳曼皇帝陛下ノ宮内官制

皇室附演劇事務長 一名 參事官 四名 主計 八名 書記 一名
 法律師 一名 醫員 一名 樂 監 廿三名

所轄第一 演劇 男女 俳 優 三十六名

同 第二 謠曲 唱歌師 二十名 音樂師 五名 音樂教師 六名

同 第三 舞蹈 舞蹈教師 一名 幹事 一名 舞蹈員 廿四名

皇帝陛下ノ侍中武官

侍中武官長 一名 (陸軍大中將ヲ以テ之ニ任ズ) 扈從將官 五名 (陸軍少將)

侍中武官 十六名 (内騎兵中佐或ハ少佐八名歩兵中佐或ハ少佐八名)

皇帝陛下ノ文事 樞密局

樞密參事官長 一名 樞密參事官 一名 書記官 二名 書記 七名 (但樞要

ノ機務ニ關シ内閣諸大臣直奏ノ外通常ノ行政事務ニ係リ御批ヲ乞フモノハ總テ當局ヲ經由

ス)

皇帝陛下ノ武事 樞密局

武事樞密長官 (侍中武官長之ニ任ズ) 參事官 五名 (陸軍武官) 書記官 五名

書記 七名

此他ニ地方所在ノ豪族中世襲宮内ノ榮職ヲ帶ビ皇室ニ出仕スル時ハ其榮職ニ對スル大禮服ヲ着用シテ參内ス或ハ皇帝皇后兩陛下其地方ニ旅行ノ節榮職ヲ帶ビタル地方ノ豪族ハ之ニ對スル大禮服ヲ着用シテ兩陛下ヲ慰勸ニ待遇ス

女官長 一名 祇候女官 (レーデス、インウエイデング) 二名 女官 四名

名 (其他ハ各地方ヨリ召集ス但四週間交代) 皇后附事務總長 一名 侍從 二名

(但地方ヨリ召集四ヶ月交代) 内監 二名 祕書 一名 主計 一名

名 書記 一名 侍醫 二名 御衣掛 二名 侍女 二名 給

仕 三名

皇太子殿下ノ宮殿

皇太子附事務總長 一名 傳令使 二名 (少佐若クハ大尉) 内監 二名 祕

書 官 一名 書記 一名 侍醫 二名 法律師 一名 司馬 官 一名

僕長 給仕 配膳 掌 酒 合八名

皇太子妃殿下ノ宮殿

女官長 (缺員) 祇候女官 一名 女官 二名 侍從 兼 祕

普瀧西王兼日耳曼皇帝陛下ノ宮内官制

書官一名 主計一名 書記二名 内豎二名 侍醫一名 侍

女二名 給仕二名

皇孫ウキルヘルム殿下ノ宮殿

皇孫附事務總長一名 傳令使二名(大尉) 主計兼書記一名 侍醫二名

皇孫 妃殿下ノ宮殿

女官長一名 女官二名 侍從一名 内豎二名 侍女

二名 給仕一名

皇孫女ウイクトリヤ、ソヒヤ、マーガレット殿下ノ宮殿

女大傳一名

前ノ皇太后陛下ノ宮殿

皇太后エリザベス陛下ハフレデリツキ、ウイルヘルム第四世ノ未亡人ニシテ一千八百七十三年薨去セラレタリ

女官長(缺員)一名 女官二名 皇太后附事務總長 侍從

二名 内豎二名 祕書官一名 侍醫一名 御衣掛二名 給仕

歐羅巴家門法歷史上ノ沿革及其法制ノ系統 第一

〔第二〕人民移居時ニ當テ始テ立チシ事

抑歐洲ノ家門法ナルモノノ起源ヲ繹スルニ、蓋其舊法ノ總テ人民移居時ト稱スル時ニ始メテ發生シ、乃チ今ヲ距ルコト約千五百年ノ以前ニ起レルナリ。

當時、獨逸民種族ハ全歐洲ニ移居占據シタリ、而シテ其民種ハ即チ軍人ニシテ一ノ王アリテ之ヲ統率シタリ。其移居占據スルニ方テヤ必ズ從來ノ法律上習慣即チ所謂ユル邦法ヲ固持シ、以テ之ヲ到處ニ於テ恪遵シタリ。其邦法タルヤ〔第一〕相續法及親屬法〔第二〕土地所有法ニ關シ規定セラル、所ノモノナリ○其始テ占據スル時ハ各々自己ノ生活ニ必要トスル分ニ應ジテ土地ヲ分配所有シ、其分有セザル土地ハ悉皆王ノ領地ニ歸シタリ。又其移民ノ相遵奉スル法律ハ即チ王ノ法律ナリキ。而シテ王ノ領地ハ其幾分ハ以テ寺院又ハ宗教上ノ目的ノ爲メニ供用セラレ、其幾分ハ以テ王家ニ左袒シ或ハ王ニ從軍セシメンガ爲メ強盛ナル屬隸ニ分與セラレタリ

其軍人が各々割據シタル土地ヲ稱シテ「アールロート」(自由所有ノ義)ト呼ビタリ。

是軍人ハ其邦ノ最高等貴族タル位地ヲ占メ、又其家族ニ係ル法規ハ王族ノ家族法ニ同クシテ即チ遂ニ王家ニ門法ノ基礎ヲ爲セルモノナリ。

此家門法ノ獨逸法制ニ據テ成レル根源法六種アリ。此他尙ホ夙カニ後代ニ至リ發生シタル匈牙利法〔第九世紀〕及第十五世紀ノ中葉ニ成立タル都兒古法モ亦茲ニ之ヲ舉載スベキナリ。

蓋匈牙利國ニ於テハ獨逸種族ヨリ出デ其王祚ヲ踐ミタル者多キヲ以テ自ラ其固有ノ家門法ヲ實行シタリ。而シテ都兒古ニ在テハ其「ソウルタン」(國皇)ノ家門法ハ國教宗旨ト相密著シタルナリ。

〔第二〕封建時代

封建時代ト稱スル時期ニ於テ現時在位ノ君家ハ初テ發達シタルナリ。而シテ現時在位ノ君家タルヤ其小數ハ往古以來ノ王家ナレドモ、其多數即チ幾ンド全般ニ當時王家ニ屬隸セル將師ニシテ遂ニ邦君タル門族ニ陞リタル者トス。

當時王ナル者ハ親ラ所謂ユル裁判公廷ナルモノヲ開キ、以テ裁判ノ宣告ヲ爲セリ。即チ王ハ最高等ノ裁判官タリシ。

又諸邦ヲ部下ニ分與セズシテ王ノ私領ト爲シタル土地ハ其臣僚「即チ日本ノ「サムライ」(士)是レ王ハ第一等ノ大名ナレバナリ」ヲシテ之ヲ管理セシメタリ。而シテ全國ニ分置スル土地管理ノ臣僚ヲ稱シテ「ガラフ」職(伯)ト云ヒ、其他王ノ領土ニシテ稍廣大ナル邦土及民種ノ首長トシテハ「ランド」スヘルツオグ」國侯(即チ大名)ナル者ヲ置キ、以テ王ハ此侯伯ノ二職員ヲシテ裁判宣告ノコトヲ代理攝行セシメタリ。又此二職員ハ王ノ爲メ軍務ニ服從スルノ義務ヲ負ヒタリ。蓋王ノ群僚ニ於ケル關係ハ即チ王ハ或ル一定部分ノ君主權力ヲ其臣僚ニ課シテ之ヲ攝行セシメ、還タ其臣僚ハ之ニ報答スルニ軍事服役ノ義務ヲ負擔シタリ。之ヲ名テ「レイン」(封土制)ト稱セリ。

又其封土建國ノ方法タルヤ、當初王ハ臣僚ヲ選抜任命スルニ任意ノ指定ヲ爲スヲ得タリシモ、漸ク遂ニ一定ノ門族ニ限り選任スルノ習慣ヲ爲シ、即チ該臣僚ノ毅然タル世襲權ノ如キ風ヲ養成スルニ至リ、此門族ヲ指テ王ノ「レイン」スヒユルスト」(世襲侯)ト稱ス。即チ現今獨逸ノ各君家ノ宗家ヲ成セシ所ノ者是ナリ。

更ニ此沿革ニ關シテハ即チ後來遂ニ法朗西、獨逸ノ二國ニ分立シタル所ノ舊法朗堅國ノ歴史ヲ略叙スルハ蓋有益ナルベシ。

〔第一〕抑舊法朗堅國史ノ第一期ニ於テハ閔位ノ執權者ニ付キ附載スベキモノアリテ、而シテ

此事況タルヤ恰モ日本將軍制ノ霸府史ニ頗ル類尙セルモノナリ。乃チ當時法朗堅朝ニ於テハ亦王ノ總理代官トシテ「マヨルドウモス」(總管領)ナル職員アリテ、諸侯伯ヲ統率シ、且萬機ヲ攝理シタリ。後第八世紀ニ至リ「ビツピン、デル、カライネ」ノ時終ニ從來ノ「メロウエングル」王家ハ滅亡シ、猶日本ニ於テ天皇ガ寺院ニ隱棲シ玉ヒシガ如ク、歐羅巴ニ於テモ亦當時廢土ハ寺堂ニ幽セラレタリ。即チ其寡王妃等ハ各家郷ニ歸リタリ。「ビツピン」ノ子ハ當時雷名ヲ轟カセシ其主トナリシ「カル、大皇」即チ是ナリ。「ビツピン」ハ當時ノ法皇即チ羅馬加督利基宗教ノ總長即チ人界ニ於ケル天神ノ代表人ヲシテ自己ノ王位ヲ公認セシメ、且「天佑」ヲ享有スル君主」ノ稱ヲ允サシメテ以テ正統王家タルニ至リタリ。即チ是レ日本ノ將軍又ハ大君ニ於テ見ル所ト一般ナル歷史上ノ出來事ト云フベシ。唯其相異ナル所ハ日本ニ於テハ舊來ノ皇家ハ恒ニ總管領ノ上位ニ立チ(何ントナレバ此皇位ハ獨リ蒼天ノミ之ヲ廢立シ得ベキガ故ナリ)且教會ノ總長ハ俗門首長ノ兼帶スル所「譯者曰政教一致ノ義乎」ニ在リ、之ニ反シ歐洲ニテハ法皇ハ單ニ宗教ノ總長ニシテ政事外ニ在ル者ナリ。

〔第二〕カル、大皇ノ承位者ノ時ニ方テ、其兄弟ハ「約ネ千年前」法朗西、獨逸ノ分立ヲ爲スニ至リ、而シテ其狀況タルヤ二國全ク相對スル所ナリシ。即チ

(甲) 法朗西 ノ王ハ慧猾ナル政策ヲ施シ、以テ漸次臣僚ノ勢力ヲ減殺シタリ。乃チ或ハ僚

臣ノ子弟ヲ内豎又ハ侍童ニ任用シテ巴里ノ王宮ニ招集シ、或ハ濫ニ兵力ヲ以テ臣僚ヲ伐チ、或ハ暴ニ之ヲ幽囚シ之ヲ誅シタリキ。右ノ政略ハ大凡四百年以前「ルウドウイヒ王」第十一世ノ朝ニ於テ漸ク其目的ヲ達スルヲ得タリ。

而シテ「ルウドウイヒ王」第十四世ハ復タ臣僚ニ財政上ノ困弊ヲ釀成セシメテ以テ其勢力ヲ奪ヒタリ。乃チ王ハ宮中ニ於テ盛ニ奢侈華麗ノ風ヲ用ヒ、從テ各臣僚ハ止ヲ得ズ高價ナル時樣衣冠ヲ着テ其他無用ノ豪華ヲ競ヒ以テ非常ノ浪費ヲ促ガシ、又悉ク首都タル巴里府ニ集合セシメタリ。是レ恰モ日本武家大名ヲ要シテ公家ノ華奢風流ニ倣ハシメ、又將軍ガ大名ヲ大江戶ニ參觀セシメタルト一般タリ。是ニ於テ衆貴族ハ自己ノ私領ヲ抵當トシテ負債ヲ起シ、又王モ私債證券ヲ發シテ多額ノ負債ヲ募リタリ。

庶民ハ愈々益々過重ノ負擔ヲ苛歛セラル、ニ至リ、終ニ叛亂革命ノ反動力ヲ興起シ(千七百九十三年)乃チ貴族ハ放逐セラレ、王族ハ誅戮ノ辱ヲ被ルノ極度ニ達シタリ。

(乙) 獨逸國 ニ於テハ法國ト相反スルノ鐵路ヲ進行シタリ。乃チ舊來ノ大名即チ王ノ臣僚ノ多數ハ世襲邦君ト爲リ、各々自己ノ家門法ヲ固有スルヲ得タリ、之ニ反シ王位ハ即チ公選王位タルヲ以テ、王位承續法及家門法ナルモノハ固トヨリ之アル可ラザリシ。此世襲邦君中當初ハ七名、後年九名ノ司選侯タル職名ヲ冒シタル輩ハ獨逸王ヲ選立スルノ任職ヲ帶ビタリ。此獨

逸王ハ先ヅ王位ニ即クノ後更ニ法皇ヲシテ帝位戴冠ノ大禮ヲ舉行セシメテ以テ「羅馬、獨逸帝」ノ尊號ヲ稱スルヲ常例トセリ。

又新王ヲ選立スルニ就テノ中間時ハ司選侯ノ首座ヲ占ムル「ライン」部地方ノ「ブアルツ、ガラフ」(鎮守伯)君主權ノ攝行ヲ奉ジタリ。

其新立王ハ新ニ選立セラル、毎ニ必ズ更ニ全國各侯伯ノ獨立ヲ認可セザルベカラザリシ。此認可或ハ變ジテ終ニ確定不變ノ「即位宣誓」ナル重要ノ公式タルニ至レリ。

當時ノ侯伯ハ自己ノ獨立上ニ利益ヲ計ル爲メ、最勢力ノ弱キ者ヲ選立スルヲ以テ常トセリ。而シテ推定セラレタル王ハ是ガ爲メ同時間位ニ在ル王ニ向ヒ、戰鬥ニ訴ヘテ其位地ヲ固クセザルベカラザル者往々ニシテ然ル所ナリ。

其レ如此ク勢力薄弱ナル者ニシテ帝位ニ選立セラレタル最終ノ人ハ即チ瑞西ノ一「ガラフ」(伯)ヨリ出デ、遂ニ「ハブスボウルグ」家ノ開祖ニ至リタル「ルウドルフ」第一世皇是ナリ
〔第十三世紀ノ中葉〕

此皇ノ家門法ハ固トヨリ後年ニ於テ漸ク成立チタルモノニシテ、即チ屢々改正ヲ經テ終ニ彼「保安法規」ナルモノニ依テ初テ其體裁ヲ保全スルヲ得タリ。(千七百十三年)
蓋獨逸國ノ侯伯ノ間ハ宛モ日本ノ大名間ニ於ケル如ク多クハ其君位世襲ノ問題ニ付キ不和ヲ

生ズルコト數々ナリシ。

マツキス皇第一世〔四百年前〕ガ所謂ユル「内閣保安」十條規ヲ宣布スルニ依テ漸ク右ノ不和ヲ停止スルヲ得タリ。

又獨逸ノ各小侯伯ハ亦猶ホ法朗西國ルウドウイヒ第十四世朝ノ貴族ニ於ケルガ如ク、各々奢侈ヲ事トシ、且其貴族臣僚ヲシテ宮中ニ於ケル體裁ヲ一ニ法朗西ニ模倣セシメント努メ、且其財政困難ナルニ因テ庶民〔平民〕ヲ壓制シ、商賣上恒ニ租稅ヲ苛徵シ、加之侯伯等ハ亦目下ノ貧窮ヲ救護センガ爲メ自邦ノ士民ヲ兵卒トナシ帑幣ニ代ヘテ之ヲ英吉利人ニ貸付スルノ極ニ達セリ。(ヘツセン國ウエルテムベルグ國)亦終ニ革命ノ基礎ヲ作シタリ。

法朗西國ニ於テ其革命ノ爲メ「ナポレオン第一世」ガ遂ニ法國ノ帝位ニ即キ、又獨逸國侯伯ノ若干ハ其實獨逸帝國ノ仇敵タル「ナポレオン」ニ同盟シ、而シテ當時ノ獨逸帝「フランツ」第二世ハ帝位ヲ失フノ時機ニ乘ジ、獨逸ノ各邦君ハ全權不羈ノ君主トナリ、乃チ他ノ總テノ君主國ニ於ケルト等シク完全不可侵ノ主權者トシテ其家門法ヲ邦國ノ建創ニ密着セシメ、且「天佑享受」ノ君主タルニ至レリ。

此沿革ハ即チ遂ニ第三時期ナル君主專裁制ヲ開創セシモノナリ。

〔第三〕 君主專制

蓋上ニ叙述スル君主專裁判ノ開始ヲ説ク時ハ則チ自身ハ國家ト同體ナルモノト考定シタル法朗西王ルウドウイヒ第十四世ヲ指名セザルモノハ蓋稀ナリ。乃チ彼ノ「國家即朕也」トノ有名ナル言ハ此「ルウドウイヒ」王ノ述べタル所ナルナリ。然リ而シテ如此封建制モ終ニハ火藥ノ發明ニ因テ其迹ヲ歛ムルニ至レリ。

乃チ當時軍裝ヲ自辨セル「リットル」(武士族)及自ラ兵卒ヲ養フ封土ノ侯伯(即日本ノ大名ガ「サムライ」(武士)ヲ養ヒタルニ一般)ハ今ヤ戰場ニ於テ銃彈ニ向テ抗拒シ能ハザル所ノ全ク價值ナキモノタルニ陥リ、即チ當時ハ「リットル」及軍人族ハ一ニ無用ノ長物タルニ過ギズシテ、反テ軍裝自辨ニ係ラザル一規律ノ下ニ練習セル兵隊ヲ必要トスルニ至レリ。

是ニ至テ即チ傭役兵ナルモノハ發生セリ。乃チ相當ノ給料ヲ受クレバ則チ肯テ其戰鬥ニ從事スル兵卒是ナリ。

此ノ戰鬥外ノ部分ヲ觀レバ又富裕ト商賣トニ因縁スベキ工商業上ノ生活ハ即チ其國家及君主ノ勢力及威嚴ノ得表上ニ關係スル切要事項トハナリシ。

(子) 君冕 爾來君主ノ勢力ハ必ズ其臣僚及受封者ニ依テ消長ヲ爲スニ非ラズシテ反テ君主ノ

貧富及其邦ノ財政如何ニ隨伴スルニ至レリ。此事蹟タルヤ即チ家門法ノ歷史上ニ大ナル影響ヲ與フル他ノ發達ト相關聯スルハ亦實ニ驚クニ堪タシ所ナリ。

抑舊封土ノ管理者ハ漸ク變ジテ獨立君主ト爲リ、則チ歐洲ハ漸ク多數ノ弱小君主國ニ分裂シ、殊ニ獨逸國ハ然ルナリ、又受封者〔大名〕ハ其家族ヲ率テ一家門ノ君主族ヲ成セリ、而シテ獨逸帝タル者ハ各受封者ノ統領タル事ヲ表スル爲メ、繼續スル傳位寶ハ(第一)帝冕是レ舊羅馬帝ハ人界君主タルノ標記ニシテ、即チ其承位者タルヲ表章スルモノ(第二)寶球是レ其帝ノ領知掌握スル國土ヲ表スルノ標記(第三)笏子乃チ是レ侯伯ヲ封ズルノ指揮杖ヲ表スルモノナリ。而シテ各侯伯ハ漸次獨立ヲ爲シ得ルニ從テ、亦其君主タリ且統領タルノ標章トシテ公冠若クハ王冕ヲ戴クヲ得タリ。

封土ノ管知權ヲ子孫相世傳シ得タルニ至リ、及他邦ニ於ケル既得ノ世傳承繼權ヲ有スルニ從テ、其承繼者ノ權利ハ即チ該君主族ノ相續權トシテ其君冕ト爲リ、始テ踐位スル家門法ハ即チ永ク其君冕〔君位〕ト密著シテ相離ルベカラザルニ至レリ。

是ニ於テ乎君冕及此君冕ニ歷史上相附隨スル家門法就中君位相續權ハ即チ歐洲各國ノ獨立及一致ノ爲メ缺クベカラザル切要ナル基礎ヲ成シ、即チ又歐洲君主國ノ立憲法ニ於テ最必要ト爲スニ至レルモノナリ。

(尹) 君家 爰ニ判別セザル可カラザルモノアリ。即チ君主族及君家ノ差異是ナリ。蓋歐
 洲君家ノ多數ハ各邦ニ君主族ヲ有ス、而シテ此族タルヤ先ヅ其君家一般ノ家門法ニ從屬セザル
 ベカラズト雖モ、然カモ該邦法ニ依レバ即チ必ズ其保有スル君冕ニ附隨スル所ノ家門法ヲ恪遵
 セザルベカラザルモノ比々之アルナリ。〔例ヘバ丁抹君家ニシテ丁抹王ノ希臘國ニ於ケル字漏生
 ノ「ルウメリア」及侯爵「ホヘンツオルレルン」家ニ於ケル葡兒牙ノ「ブラシル」ニ於ケル其
 他舊時ノ法朗西王家ノ西班牙ニ於ケル是ナリ〕

君冕ニ屬スル家門法ハ其君家ノ一門舉族ニ通用スベキ法規ニ相違スル事アルハ敢テ寡シトセ
 ズ、而シテ二個相異ナル邦國ノ君冕ガ一ノ君家ノ君主族ニ相合併セラル、モノ往々之アリ。然
 レドモ又其二君冕ニ屬スル家門法ハ各相異シアルガ故ニ再ビ分離セラル、事モ之アルナリ。例
 之ハ「ハンノブル」ト英吉利ノ君冕ノ如キ是レ「ゲオルグ」王ノ時曾テ之ヲ合併セラレタリシ
 モ、英吉利君家ノ家門法ニ依レバ女子承位ヲ許シ「ハンノブル」ニテハ之ヲ許サバル所ヨリ復
 タ再ビ分離シタリ。又以テ徵スベキナリ。

又從來公然承位權ヲ自カラ拋棄シタルニ原因シテ多クノ他ノ君冕ガ一ノ君家所屬ノ一族ニ歸
 シタル場合ニハ、其自棄シタル家ノ女子ノ結婚ヲ爲スニ當リ、復タ其承位權ヲ生ズルコトヲ防
 ガント努メタル事數々ナリシト雖モ、若シ如此キ時機アルニ逢ヘバ、則チ却テ相續權ヲ固有スル

者ニシテ其請求ヲ爲ストキハ之ヲ是認セシナリ畢竟此主義トシテ採ル所ハ、即チ假令母ト雖モ
 男子ノ爲メ男子ガ生レナガラ獲得シアル世襲權相續權ヲ自ラ拋棄シ得ザルベシト云フニ在リ、

〔正統資格ヲ參觀セヨ〕

(寅) 君家ノ權力 抑此君家權力タルヤ、全ク相反對セル主義有リテ發生シタルモノナリ。乃
 チ一ノ君家ニ不羈自立ノ君冕ヲ有スル多數ノ君主族ヲ合併セシムルヨリ、寧ロ多數ノ君冕ヲ其
 同家ノ一君主族ニ合併スルハ則チ君家權力ヲ増スノ政策タルナリ。此政策ハ多ク獨逸國ニ實行
 セラレタリ、乃チ獨逸帝ハ公選君主ナルヲ以テ、固トヨリ勢力ヲ有セズ、是ニ於テ各帝ハ自己
 ノ位地ニ籍リテ以テ多クノ君冕ヲ自己ノ親族ニ合併セシメント努メタリ。

乃チ斯ノ慧猾ナル政策ヲ施シ、或ハ結婚ニ依リ或ハ戰鬪ニ頼リテ以テ幸ニ君家權力ノ基礎ヲ
 強固ナラシメ得タル者ハ、即チ從來薄弱ナル一ノ「ガラフ」職員ニシテ第十三世紀ノ中葉以來
 多クノ君冕ヲ自己ノ親族ニ合併セシメタル彼ノ「ハブスボウルグ」家はナリトス。

蓋「保安法規」ナルモノハ「ハブスボウルグ」家ノ最終ニ作レル最重ノ家門法タリ。而シ
 テ此法律ハ合併セラレタル凡テノ君冕ニモ應用セラレ、又「ハブスボウルグ」自家ノ家門法タ
 リ。此法ノ主義ハ即チ各君家ノ君冕毎ニ一君主族ヲ立テシメンヨリハ、寧ロ數君冕ヲ一ノ家族
 中ニ結合シテ其君主族ト爲スニ在リ。而シテ此主義ハ初テ遂ニ立法上ノ要旨ヲ爲スニ至レリ。

此多數ノ君冕ハ幾ント遺スナク之ヲ世襲シタリ。故ニ仍チ埃國ニハ世襲國又ハ君冕國ノ名稱ヲ用フ。

又埃國ハ此保安法規ノ爲メ數邦ヲ相合置スルヲ得タリ。是ニ於テ此法規ハ埃國ニ於テハ即チ其本來ノ趣旨ノ外尙ホ皇室ノ原法タリ。又埃國政府ニ對スル根基憲法タルナリ。

而シテ該法規ノ要旨ニ依レバ、若シ男子ノ相續人ナキ場合ニハ女子承位ヲ許セリ。是故ニ最終ノ「ハブスボウルグ」家ノ君主タル「カル」、皇第六世ノ女子「マリア」、テレシア」大皇ハ帝位ヲ承ギタルナリ。此他該法規中ノ要點ハ所謂ユル世襲國ト君冕國トハ承世必ズ相分離スベカラザル事ヲ定メアリ。

夫レ歐洲ノ歷史上古來間斷ナカリシ君冕世襲ニ關スル戰爭ハ漸ク前世紀ノ末葉ニ至リ其迹ヲ絶ツニ至レリ。而シテ孛國「フリドリヒ」大王ノ埃國「マリア」、テレシア」女皇ニ對スル最終ノ最大ナル一戰即チ「七ヶ年戰爭」モ亦此保安法規ニ關シテ起レルモノナリ。

抑此戰爭ニ付キテハ如何ナル兵力ヲ用テ戰ヒタルヤノ疑問ナキニ非ザルベシ。乃チ火藥ノ發明アリテヨリ從來ノ軍裝自辨「リットル」制ヲ廢シテ方今ノ如ク一規律ノ下ニ養成シタル兵卒ヲ用ヒ、又步騎砲ノ三類ニ大別セザルベカラザル時運ニ進ミタルニ從テ更ニ左ノ顯象ヲ呈シタリ。即チ

(第一) 役夫兵 一ノ隊長ノ指揮ニ屬スベキ者ニシテ即チ國君ヨリ一定ノ賃錢ヲ獲テ國君ニ傭役セラル、事恰モ工夫ノ如ク然ルナリ。故ニ當時營業兵ト呼ビタリ。又給金兵卒トモ稱シタリ。故ニ富饒ナル君主ハ必ズ強勢ナル事ヲ得タリ。而シテ如此キ兵ヲ以テ彼ノ世襲權ニ關スル戰爭ヲナシタリシ。

(第二) 其後三十ヶ年戰爭ノ時「約二百五十年前」ニ方テハ擊鼓シテ市街ヲ徘徊セシメ任意兵ヲ傭ヒ之ヲ編隊シタリ。當時「ウアルレンスタイン」氏ハ此徵募兵ヲ習練セシメテ上等ノ兵力ニ養成シ得タリ。

當時ニテハ依然軍資ハ一切君主ニ於テ之ヲ自辨セザルベカラザリシナリ。

(第三) フリドリヒ」大王以來「百五十年前」初テ常備兵ナルモノヲ編制シタリ。是レ只内國民ノ爲メニノミ戰フベキモノニシテ、其兵卒モ亦内國民ニ限レリ。是ニ於テ國民ハ亦其費用ヲ負擔セザル可ラザリシ。從テ彼ノ世襲權ニ關シテ起レル戰爭ノ如キ猶リ該邦君室一己ノ計利ノ爲メニハ固トヨリ敢テセズ、必ズ公安公利ヲ期スル戰爭ニシテ初テ戰フベキナリ。乃チ此兵隊ハ七ヶ年戰爭ニ於テ初テ創制セラレタリ。必竟此戰爭ハ最終ノ世襲權ニ係ル私戰ノ如キモノト雖モ、亦彼我二國民間ニ起レル最始ノ公戰ト云フベキナリ。

(第四) 後年即チ立憲政時期ニ至テ初テ民兵及普通徵兵義務ナルモノハ發生シタリ。

而シテ軍事ニ係ル費資ハ他ノ國家經費ト同ク之ヲ豫算科目ノ一ニ舉ゲ、又武器及家屋ハ官有物ニ定ムルニ至レリ。

〔第四〕 民主々義ノ立君制正統資格

方今中部歐洲ニ存スル民主々義立君制ノ大革命時期ハ即チ法朗西國大革命時、千七百九十三年乃至千八百四十八年ニ在リト云フテ可ナリ。

蓋民主制立君國ノ君主ハ依然其家門法ヲ維持セザルニ非ラズ。然レドモ其體裁及位地ニ於テハ全ク昔日ニ異ナレリ。

乃チ共和政ノ主義ハ立君制ノ主義ト相對立シアリテ、今ヤ君主權ハ其君冕權ニ付キ其權ノ認否ヲ以テ相爭フ他ノ君家ニ對シ自防スルヲ要セズ、必ズ國民ノ意思ニ向テ自衛セザルベカラザルナリ。

抑君主ガ民意ニ對シテ主張シ得ル君冕上ノ權ハ即チ正統君主ノ資格是ナリ。

而シテ其民意ニ對シ其權ヲ主張スルニ付キ以テ根基ト爲スベキ正當ノ口實ハ即チ天意ヲ奉ジテ君位ニ立ツト云フ所是ナリ。此天意ハ國民モ亦之ニ遵ハザル可ラザルモノナリ。如此ナルヲ以テ現ニ二種ノ君主權ヲ爲セリ。

〔甲〕古來ノ歷史上ノ權利ニ因據シテ「天佑享受」ノ詞冠ヲ冒スモノ、即チ埃國、英國等是ナリ。

〔乙〕輒今憲法制定後ニ於テ建創セシ者、法朗西帝朝、獨逸帝、伊太利、西班牙、葡士牙等「天佑ヲ享受シ及民意ヲ體シ」ノ冠詞ヲ冒ス君主即チ是ナリ。

其以テ尤モ著ク證スベキ所ハ即チ法朗西正統ノ王ハ皆其君冕ヲ邦國ト相密着セシメタリシヲ以テ、「法朗西國王」ト稱セシモ「ナポレオン」帝ハ國民ノ意思ニ依テ位ニ立テタルヲ以テ「法朗西國民ノ皇帝」ト稱セル所以ナリ。

國家ノ紛爭 君主族タル資格ヲ始テ國民意思ノ上ニ措キタルモ亦「ナポレオン」第一世ナリ。而シテ帝ハ如此クシテ只國民ノ力ニ藉テ埃國ガ世襲權ニ依リ其家權ヲ固フシタル所ノモノヲ獲ント欲シタリ。

乃チ帝ハ全ク新國ヲ建創シ、之ニ君冕ヲ加ヘ、且己レノ兄弟姻親ヲ舉テ其君主ト爲シタリ。又帝ハ其軍事上ノ勢力ヲ以テ常ニ君主選定ノ爲メニスル選舉者ノ多數ヲシテ自己ヲ選舉セシムルコトヲ容易ニ爲シ得タリ。然リ而シテ「ナポレオン」第一世ガ行ヒタル所ノ蹤ヲ逐フテ「ナポレオン」第三世モ後チ千八百五十二年ニ於テ之ヲ實行シタリ。乃チ第三世ハ第三回共和政ノ大統領トシテ暴威ヲ逞フシテ反對黨ヲ逮捕セシムル等ノ手段ヲ施シ、遂ニ帝位ニ陞リタ

如此キ急劇ナル政體、即チ主權者ノ變更ヲ當時稱シテ國家ノ紛爭ト云ヒタリ。乃チ國家紛爭ノ最始ノ一例トシテ爰ニ舉ゲザルベカラザルハ即チ羅馬帝「アウグウチウス」ノ公布ナリ。「九百年以前」其後年ニ至リ其稍ク顯著ナルモノハ「メロウインゲル」王朝ノ覆没、及終ニ「カロリソングル」朝ヲ創造セル總管領職ガ篡奪シタル法朗堅朝ノ覆滅「千年以前」及英國ノ王位ヲ廢シ並ニ「コロムウイル」ガ「カル」、王第一世ヲ斷頭シタル事蹟「二百五十年前」等ナリ。

王政復古

最後ニ顯出セシ出來事ノ大ナルモノハ即チ正統ナル英國王家ノ復古ニシテ、王位承繼者タル「カル」、第二世ヲ迎ヘタルコト是ナリ。次デハ「ナポレオン」第一世ノ失敗ニ因リ正統ナル法朗西國王統「ボウルボン」家ノ「ルウドウイヒ」第十八世ヲ迎ヘテ王祚ヲ承ガシメタルハ復古ノ大ナルモノト云フベシ。

君主族及國家ノ安固

「ナポレオン」第一世ヲ敗リ之ヲ放逐シテ漸ク昔日ノ狀況ニ回復シ再ビ舊君主ヲ復位セシメタルヨリ頓ニ正統君主ノ資格ニ付キテ著キ感覺ヲ喚起セシメタリ。而シテ君家ハ國家ノ建創ト密着ノ親和ヲ致シ、且今ヤ君冕ハ徒ニ承位者間ニ於テ互ニ奪攘占據ヲ試ルノ賭物タルニ非ラザルヲ得、又君主ハ却テ邦民ノ安寧幸福ヲ企期シテ勵精シ統治シ經理スベキ一大課程ヲ負フベキニ至レリ。乃チ君主タル者ハ邦民ヲ統治スルノ權アリト雖モ、邦

民ハ亦君主ニ向テ政治上ノ責務ヲ盡スベキコトヲ要求スルノ權利ヲ握有ス。蓋朕ハ國民ノ爲メ孜孜勤ムベキ高等ノ一官吏ナリト宣セラレシハ學國「フリドリヒ」大王ヲ以テ嚆矢トスベシ。之ニ反シ大王ニ後ル、百年ニ垂ントスル時ニ方テ、仍ホ自身ハ即國家ト同體ノモノト考定セル法朗西ノ「ルウドウイヒ」王第十四世ノ如キモ亦之アリシ。噫

家門法及憲法

當世記ノ中葉ニ於テ憲法ナルモノノ歐洲ニ實施セラル、ニ方テ、各君主ノ家門法ハ舉テ新憲法ノ敢テ關與セザル舊時ノ遺蹟ト看做サレタリ。而シテ國家其物ノ建創ニ付キテモ亦然リ、但君主及其親族ノ義務及權利ニ關シテハ仍ホ其家門法ニ於テ規定セラレアルナリ。歐洲各國家ノ種類ヲ大別スレバ現時左ノ三種アリ。即チ

(甲) 天佑享受ノ正統資格ノ君主ヲ戴クモノ、此邦國ニ於テハ君主ハ國民ノ爲メニ憲法ヲ欽定シ之ヲ與フ。即チ君主自ラ立法權ヲ握有シ、此立法權ノ認否如何ニ從テ國法ノ能力上ニ影響ヲ與フルナリ。而シテ如此キ邦國ニテハ其君主ノ家門法ハ憲法ノ上ニ位ス。例ヘバ君主ハ憲法ニ付キテハ一定ノ程度ニテ之ヲ停息セシムルヲ得レドモ、家門法ニ至テハ能ハザルナリ。從テ國家ノ建創ニ於テモ又然リ「埃私多利國」加之埃國「フランツ・ヨセフ」帝ハ既ニ發布シタル憲法ヲ再ビ取消シ、新ニ帝冕ハ憲法ノ上ニ立ツベキノ律意ヲ明カニ裁定シタルモノヲ更ニ頒布シタル例アリ。

〔乙〕他ノ邦國ニ於テハ家門法ハ憲法ト並立シアルナリ。乃チ此邦ノ君主ハ原ト國民ノ意思ニ據テ踐祚スルヲ以テ、國民ノ爲メニ廢立セラル、ナリ〔法ノ「ナポレオン」第三世ノ如シ〕正統君主ハ假令誅戮ノ辱ヲ被ムルモ尙ホ廢スベキニ非ラズ〔カル、第一世「ルウドウイヒ」第十六世ノ如シ〕

〔丙〕共和政ノ邦國〔法朗西、瑞西〕ニ於テハ君冕ナルモノモ家門法ナルモノモ之レアルコトシ。

歐羅巴家門法歷史上ノ沿革及其 法制ノ系統 (第二)

權利ノ組織

(天) 帝室ノ典章及邦國ノ憲法

憲法(フエルフハツスング)或ハ國憲(コンスチテツション)ナル言字及意義ハ歐洲ニ於テ種々ノ主旨ニ使用スルガ故ニ、屢々誤解ヲ生ゼシムル事アリ。此ノ意義ニ廣狹ノ別アリ。邦國全體ノ組織ヲ總稱スルモノハ廣義ノ國憲ニシテ、唯ダ君主獨裁ノ舊制度ニ代ユルニ立法體ナルモノヲ以テシ、且ツ立法權ノ關係ヲ定ムル事ヲ指スモノハ狹意ノ憲法ナリ。廣義ノ國憲ヲ大別スレバ左ノ三原則トナル。

(甲) 實祚(クローネ)ノ原則(帝王(フユルスト)及帝室)

(子) 實祚ト邦國トノ關係

(丑) 實祚ト帝統(チナスチー)トノ關係

(寅) 帝王ノ一身
(子) 寶祚及國體

寶祚ト邦國トノ關係ニ二種アリ。

(伊) 寶祚アル邦國
立君政體

(呂) 寶祚ナキ邦國
共和政體

寶祚ノ有無ニ從ヒテ國政ノ異同ヲ生ズ、元來寶祚ハ憲法中最モ貴キ部分ヲ占メ且ツ最モ古キモノニシテ、帝王及皇族ノ其邦國ノ政事ニ對スルノ公權ナリ。

(壹) 聯合國(ライヒ)ノ寶祚

聯合諸邦ノ寶祚中ヨリ選舉シタル邦國ノ寶祚ナリ。

(貳) 「ベルンナールウニラン」

二個以上ノ特立國合同シテ一帝王ノ政令ヲ奉ズルモノ。

(參) (原文塗抹シアリ)

(肆) 寶祚ニ關スル帝室ノ典章(「ハウスゲビッツ」以下家典ト譯ス)

一新國ヲ創立スルニアラザレバ寶祚ヲ分割スベカラザル事○「ブラグマーチツシエ
サンクシヨン」(千七百十三年ニ發布シタル埃帝加爾第六世ノ勅令ニシテ同國ノ皇

統ヲ定メタルモノナリ)○埃帝ノ尊稱或ハ真正ノ聯合國

寶祚ヲ戴ク聯合國ト共和政體ノ合衆連邦トノ區別

聯合國ニ於ケル政體ハ寶祚ノ爲メニ憲法ヨリ重カラシム。是レ神與ナリトスルヲ以

テナリ○共和連邦ニ於テハ政體ハ憲法ニ從フ

(伍) 欽定憲法ト民約憲法トノ區別

前者ハ神意ニ出デ後者ハ唯ダ神助ヲ享ク、一ツハ道義的歷史的ノ基本ニ從ヒ他ハ唯

ダ便宜ニ由リテ設ケタルモノナリ。

數ヶ國ヲ以テ疊成シタル邦國ハ何レノ政體ヲ選ブベキヤノ要訣

(丑) 寶祚及君統

家典及寶嗣即チ君位(共和政體ナレバ大統領)ヲ嗣グベキ權利ハ左ノ二原則ニ從フ

(伊) 世襲ノ國首(スターツツヨ
ベルハウプト)

君統ノ意義ハ世襲國首ノ爲メニ生ズルモノニシテ皇族ヲシテ常ニ其邦國及社會ノ頂

點ニ位セシムル永遠不朽ノモノトス、寶嗣例(トローンフォルゲヤルドヌング)ノ

歐羅巴家門法歴史上ノ沿革及其法制ノ系統

如キハ特ニ一定ノ人物及君族ヲ以テ寶祚ヲ嗣ガシムル事ヲ定ムルニ過ギズ。○邦國ハ寶祚ノ所有權ヲ有シ君族ハ其掌握權ヲ有シ君主ハ其使用權ヲ有ス。○君統ニ關スル家典ニシテ寶嗣ノ事ニ涉ルモノハ則チ邦國ノ原則ト見做スベシ。○君統ニ「レギチーム」(生レナガラニシテ享有スルノ權利)ト民意トノ別アリ。

史乘ニ徵スルニ最初「レギチーム」ノ攢斥論ヲ生ジタルハ千六百四十九年格朗究ガ^{ゴロンクエール}斯去西爾的家ヲ英國ヨリ追放シタル時ニシテ、千六百六十一年查理第一世死刑ニ處セラレタル後、查理第二世ノ回復(レスタウテション)ト共ニ「レギチーム」モ亦再ビ認可セラレタリ。更ラニ著明ナル攢斥ヲ受ケタルハ路易十四世及其家族ノ死刑及不爾奔家ヲ佛國ヨリ追放シタル時ニシテ、邦勃翁第一世ノ爲メニ之ヲ回復シタルモ、千八百十五年那勃翁第一世ノ追放ノ時ニ際シテ再ビ攢斥セラレタリ。那勃翁第一世ハ始メテ民意ニ從ヒテ君統ヲ定メ、歴史的ノ君統說ヲ析シタリ。故ニ佛國及其蒼生ノ王或ハ佛國人民ノ皇帝ト稱セリ。

(イ) 「レギチミテート」(レギチームニ同ジ)ノ君統(君統及寶嗣タルベキ人物)
(い) 所謂ユル天祐ヲ享有スル君統ハ内亂或ハ民意ノ爲メニ決シテ毀傷セラルベキモノニアラズ。此ノ如キ君統ハ歴史上其國ト共ニ成立チタルモノナルガ故ニ其國

ト存亡ヲ共ニスルモノトス、假令ヒ君主及其家族ガ死刑ニ逢フガ如キ事アルモ、其家及家典ノ「レギチーム」ハ毀傷セラレザルモノナリ。

況シテ民意ヲ以テ定メタル憲法ノ爲メニ動搖セラル、モノニアラザルナリ。(英王查理第一世佛王路易第十四世)

(ろ) 君統ハ歴史的ノ原因ニ從ヒ三種ノ別アル事左ノ如シ。

(壹) 一君統他ノ君統ヲ掠奪シ或ハ追放スル事。○英國ノ王室ノ如キ是ナリ、何ントナレバ諾曼^{ノルマンジ}ノ維^{ソルリヤム}廣^{アングリサクソン}ハ舊諸厄利索遜ノ王家ヲ追放シタルヲ以テナリ。

(貳) 威力ヲ以テ國體ヲ變更スル事(スターツストライヒ)○羅馬加特力教ヲ奉ズル諸國ニ於テハ羅馬法皇ヲ以テ地上ニ於ケル天帝ノ代理者ナリトスルヲ以テ法皇ヨリ天祐ノ「レギチーム」ヲ受領スルモノナリ、ビビン、テル、クライネ及其子加爾大王ハ則チ其「レギチーム」ヲ法皇ヨリ受ケタルモノトス。獨逸國ノ選王(ワールケーニヒ)モ亦最初皇帝ノ位ヲ法皇ヨリ受領シタリ。

(參) 或ル皇統ヲ他人ニ於テ繼續スル事、此ノ如キ場合ニ於テハ「ベルソナール」^{ハンズ}ヲ組織スルヲ常トス。英國漢邦華、波蘭、索遜及二寶祚ヲ奉ジタル往時ノ埃國ノ如キ是ナリ。

(は) 歴史的ノ原因ノ外「レギチミテート」ノ第二ノ大原因トナルモノハ宗教ナリ
(一) 信神 (二) 寺院僧侶ノ組織及其邦國ニ對スルノ位地) 宗教ノ異ナルニ由リ此
ノ「レギチミテート」モ甚ダ同ジカラズ。

吾人ハ宗教ヲ大別シテ左ノ數種トナス。

- (壹) 「カステン」教 (舊埃及印度教) (貳) 天然教 (舊羅馬希臘教) (參) 佛教
- (肆) 回々教 (伍) 猶太教 (陸) 基督教 (一) 羅馬加特力教
- (二) 國教 (スターツキルヘ) (英露) (三) 波羅士特教

宗旨及僧侶ノ政府及其君主ニ對スルノ位地減縮スルニ比スレバ其信向ノ減少スル事
常ニ多キハ一問題ナリ。

(壹) 「カステン」教 該教ハ (埃及ニ於ケルガ如ク) 僧侶ノ首領ヲ以テ國ノ元首
トシ總ベテ官吏ハ世襲トス、概シテ立君制度ニ異ナル事ナキモ最高僧侶ノ家族
ヲ以テ君統ノ「レギチーム」ヲ有スルモノト定ム。

(貳) 天然教 該教 (舊羅馬希臘教、舊獨逸教) ハ宗教ト政權トヲ分別ス、然レ
ドモ一定ノ政事ニ限リ神助ヲ享クルガ爲メニ君主ハ祭事ヲ行フ、最初羅馬及希
臘ニ於テハ神學上一神ノ後胤ナリト定メタルモノヲ以テ君統ノ「レギチーム」

ヲ有セシメタリ。

(參) 佛教 佛教ハ毫モ君統ノ「レギチーム」如何ニ干涉セズ、又政教ヲ分歧ス。
然レドモ其僧侶ハ最上ナル道德學ノ代表者トシテ政事ヲ其教旨ニ從ハシメント
ス。

(肆) 回々教 該教ハ神聖ナル預言者及其家族ト邦國ノ元首トヲ混同シ、馬哈點
ノ子孫ニアラザレバ斯爾丹及國首タルベカラザルモノトス。此ノ宗旨ニ依レバ
馬哈點ノ血統ヲ有スル他家ノ出ヅル事アルヲ以テ一定ノ「レギチミテート」ハ
復タ論ズベカラザルナリ。

(伍) 猶太教 最初猶太人ガ其神ヲ奉ジテ歐洲ニ移住シタルニ際シテヤ、世襲ノ
君王ヲ選定シタリ。然レドモ其塗脂式及即位式ハ此ノ君主ヲ選定シタル神ノ代
理者トスル所ノ僧侶ニ委任シタリ。

(陸) 基督教 該教ノ全ク他ノ諸教ニ異ナル所ハ信神即ハチ僧侶ノ制度及天神ニ
奉仕スル事、寺院及其管理ハ全ク政權ト分離シタル事トス。政教分歧ノ理論ニ
基キ邦國ト寺院トハ姉妹ノ如ク相保護セザルベカラザルモノナリトノ説ヲ執ル
基督教ニ三種アリ左ノ如シ。

塗脂式、
英語ニテハ
アノト云ヘ
トモ昔ニ
シテ教ノ
一猶太人
王法ハ帝
者ハ神若
爲ニスル
(即成佛
油ノ意)佛
ナリ其體
事

(一) 羅馬加特力教ノ首領ハ地球上萬國ノ政權及君主ノ上ニ位シ。地上ニアル天帝ノ代理者ニシテ所謂ユル天佑ヲ享有スル君統ヲ授與スル事ヲ得ルモノトアリ

(法皇ハ屢々獨逸ノ國王ヲ廢立シタル事アリ)

(二) 國教(英露)ニ於テモ亦寺院ト政府トヲ分離セシムト雖モ、國君ハ常ニ宗教ノ首領ヲ兼ス、此ノ如キ君統ノ寶嗣ハ必ズ同宗ヲ奉ズル者タラザルベカラズ

(三) 波羅士特教ハ毫モ政權ニ干涉セズ、唯小邑ノ如キ區畫ヲ定メテ自治制ニ據ラシメントスルニアリ。

(ロ) 民意ノ君統

民意ノ君統ニ就キ君主ノ崩ズル毎ニ國民ニ於テ之ヲ選定スルモノト、君統族ハ其或家ヲ國民ニ於テ選定シ置クモノトノ別ヲ明カニセザルベカラズ。若シ此ノ選定法ニシテ那勃翁及其一族ニ於ケルガ如クナレバ、唯其「レギケミテート」ヲ得ベキ形式タルニ過ギズ。右ノ如キ君主ハ天佑ヲ享有スルナル尊稱ニ代ユルニ國民ノ意ニ由リテ。某國王タル云々ト稱スルコト、伊太利西班牙及白耳義國王ノ如シ。國法上ニ於テハ斯ノ如ク國民ノ意ヲ以テ「レギチミテート」ヲ得タル君主ハ又タ民意ノ爲メニ之ヲ失フモノトス。然レドモ斯ノ如キ場合ニ於テハ復タ古昔ノ如ク之

ヲ誅戮スルコトナク、單ニ國境外ニ放逐スルニ止マラシムルコト、千八百十五年那勃翁第一世兄弟ヲ放逐シ、千八百七十年那勃翁第三世ヲ追逐シ、及西班牙ノ女王依撒伯爾ヲ放逐シタルガ如キ是ナリ。

斯ノ如ク民意ニ從ヒテ新君統ヲ定ムベキ場合左ノ如シ。

(い) 「スターツストライヒ」及共和政體ノ大統領ヲ君主ニ推舉スルコト(那勃翁第一世及第三世)

(ろ) 外國ヨリ君主ヲ招クコト(那勃翁第一世兄弟、惟士發里、荷蘭、西班牙及伊太利)

(は) 新タニ國ヲ建テ或ハ共和政體ヲ立君政體ニ改ムルニ際シ國民ノ意ニ從ヒテ寶祚ヲ奉呈スルコト、○近世屢々歐洲ニ於テ行ハレタル所ニシテ瓦牙利侯ノ如キハ最近時ノ一例トシテ見ルベキモノナリ。其他墨西哥ノマツキス帝、白耳義、希臘、西班牙及羅馬尼亞ノ國王ノ如シ。

(に) 舊君主ノ血統悉ク死亡スルコト ○近年三維斯島ニ於テカメハメード第五世ノ死去シタル時ノ如キ是ナリ。

(呂) 世襲ニアラザル國首

歐羅巴家門法歴史上ノ沿革及其法制ノ系統

一人ヲ選ビテ邦國ノ頂點ニ置キ終身其邦國ノ寶祚或ハ政權ヲ掌有セシム。亦二様ノ場合アリ左ノ如シ。

(イ) 一個ノ君主

世襲ニアラザル君主ヲ置クコトハ殊ニ貴族ニテ之ヲ選定スルコトハ常ニ其國ヲ亡滅スルノ基トナレリ。治世千年ニ達シタル羅馬獨逸帝國及波蘭王國ノ如キ即ハチ是ナリ。何ントナレバ君主ヲ新選スル毎ニ之ヲ選舉スル諸侯及貴族ハ恰モ例規ノ如クニ君主ノ權利ヲ制限シタルヲ以テナリ、波蘭國王ガ選舉者ニ誓フニ國王ハ同權者中ノ第一人ナリトノ言ヲ以テシタルガ如キ是ナリ。

(ロ) 大統領

共和政體ハ皆ナ寶祚ヲ戴カザルモノナリ。共和國ハ實際國首アルヲ必要トセザルモノナリ。何トナレバ大統領ナルモノハ唯第一ノ政法執行者タルニ過ギザレバナリ。此故ニ共和國ノ首領ハ邦國生活上ニ關スル代議院ノ政黨ノ一人ナリ。若シ著名ナル貴族或ハ有力ナル將軍ニシテ大統領ニ選舉セラル、時ハ、國民ノ思望ニ強ヒラレテ新タニ君主トナルコト多シ。二千年以前ノ西塞爾、二百三十年前ノ英國ノ格朗克、八百四年ノ第一世那勃翁、及千八百五十二年ノ第三世那勃翁ノ如シ。斯ク大統領

ヲ押シテ君位ニ即カシムルガ如キ國體ノ變更ヲ「スターツストライヒ」ト呼ブ。
(寅) 君主ノ一身

(伊) 嗣位權 (太子)

嗣位權ハ權利者ガ實際寶祚ヲ繼嗣スル以前ヨリ存スルモノニシテ、此ノ權利ヲ有スルモノヲ皇太子(クローンプリンス)ト爲ス、嗣位權ヲ得ルニ左ノ三種ノ別アリ。

(イ) 君主ノ家典ニ由ル

家典ハ立憲君主政體ニ於テハ憲法ニ由リ君主ヲシテ之ヲ遵奉スベキノ宣誓ヲ爲サシムルモノナリ。故ニ在位ノ君主ト雖ドモ嗣位權ヲ侵スコトヲ得ズ、又太子ハ母ノ胎内ニ在ルモ既ニ嗣位ノ權利ヲ有スルモノトス。故ニ家典ハ國家ノ最上法典ニシテ君主ヨリ重シ。何ントナレバ君主ハ其君統ノ一時ノ代表者タルニ過ギザルヲ以テナリ。邦國ハ家典ニ基キテ嗣君ヲ定メ、太子ヲ教育シテ適當ナル嗣君タラシムベキコトヲ君主ニ請求スルコトヲ得。

嗣君ト爲スベキノ順序ハ歐洲ニ於テハ通常當君ノ長子及其子孫ヲ最モ年齡多キ者ヨリ始ム。若シ當君ノ子孫ナケレバ其最長ノ兄弟及其子孫トス。語路ヲ易ヘテ之ヲ言ヘバ最近ノ父祖ヲ共ニスル當君ノ親戚ノ最長者トス。此ノ原則ヲ呼ンデ系統嗣續ト

云フ。諸君家ノ家典皆ナ一様ナラズ、全ク女子ヲシテ嗣位セシムルコトヲ許サザルモノアリ。又男子ノ嗣位者ナキ時ハ最長ノ女子ヲ立ツルコトヲ許スモノアリ。諸國ノ太子中ニハ其侵スベカラザルノ嗣位權ニ基キ特別ナル稱號ヲ帶ブルモノアリ。即ハチ英國ノ皇太子ヲ威爾斯皇子(プリンスタフウエールス)ト稱シ舊ト佛國ノ皇太子ヲ多佛奴皇子(ドーフハン、ド、ドーフヒーヌ)ト呼ビ、那勃翁第一世ガ其太子ヲ羅馬王ト名ケタルガ如キ是ナリ。

(ロ) 養子法ニ由ル(アトブチラン)

君主ハ養子法ニ據リテ嗣位權ヲ定ムルコトヲ得、是レ今ヨリ千八百年以前ノ舊羅馬帝ニ於テ多ク其例ヲ見ルベシ。加之ナラズ其後二名ノ太子ヲ置キ皇帝ノ在世中ハ共ニ政ヲ輔ケシメタルコトアリ。後世ニ至リテハ養子法ノ行ハル、コト甚ダ稀レナリ。養子ニ二種アリ、一ハ唯ダ養ハレテ帝家ノ親族トナルニアリテ、二ハ嗣君即チ太子ト爲スノ目的ニ出ヅ、嗣君ヲ設クルガ爲メニ養子ヲ爲スノ場合ハ特例トシテ家典中ニ記載スベシ。又君主ハ斯ノ如キ場合ニ於テハ太子ヲ任命シ、其宗譜中ノ系統ヲ定ムルノ權利ヲ有スル旨ヲ明記スルヲ要ス。

(ハ) 任命ニ由ル

三維斯島ノ憲法ニ據レバ君統ノ將ニ絶ヘントスル時ハ君主ノ生前ニ太子ヲ任命シ、或ハ崩御後ハ遺勅ニ從ヒテ嗣君ヲ定ムルモノナリ。

(呂) 君主ノ性格

(イ) 血統 太子タルベキモノハ父方及母方共ニ正當ナル貴族ノ血統ニ出デザルベカラズ、而シテ此ノ血統ハ法律上ニ於テ定メタルモノニアラズ、全ク慣例ニ由リテ定メタルモノニシテ、必シモ一國ニ君臨スル貴族タルヲ要セズ。皇子ニシテ正當ナル貴族ノ血統ニアラザル者ト結婚スル時ハ其子孫ハ復タ君統中ニ加ハルコトヲ得ズ。此ノ如キ結婚ノ爲メニ皇子ハ唯民法上ノ財產權ヲ得ルニ止マリ、寶祚ヲ嗣グノ權ヲ失脚セザルヲ得ズ。今其一例ヲ舉グレバ知朗爾伯非難多ハ哈伯斯堡家ノ血統ナリシニ、アウグスブルグナル商家ノ女子フヒリビーネト結婚シタルヲ以テ、他ノ哈伯斯堡家ノ嗣位權ヲ擲棄ザルヲ得ザリシ。又國ニ依リテハ太子ノ母方ノ血統ニ關係セザルモノアリ、即チ土帝ノ如キハ國民中ヨリ數名ノ皇妃ヲ選ビ、其産ミタル長子ヲ以テ皇太子ト定ム。數皇妃ヲ置クノ制度ニ於テハ全ク太子ノ母方ノ血統ニ關係セザルモノトノミ言フベカラズ、一定ノ貴族ヲ限リ其内ヨリ皇妃ヲ選ブモノアリ。

(ロ) 年齢 嗣位權及太子ノ權利ハ太子ガ尙ホ胎内ニ在ル時ヨリ生ズルモノトス。此故ニ女王懷妊スレバ勿論懷妊ノ兆アレバ分娩ヲ俟チテ太子ヲ定メザルベカラズ、現ニ西班牙國王アルホンソン第八世ハ前王崩御ノ後チニ降誕アリシ太子ナリ。人民ニ在リテハ二十一年乃至二十四年ヲ以テ丁年トスレドモ、太子或ハ既ニ即位アリタル國王ハ攝政年限ノ久シキニ涉ルノ害ヲ除カンガ爲メニ、丁年ヲ布告スルコト著シク早シトス。家典ニ於テハ往昔十四年ヲ以テ丁年ト定メ、其後之ヲ十八年ニ改メタリ。如何ニ高齡ナルモ太子タルニ妨ゲナク又タ攝政ヲ置クヲ要セズ、然レドモ家典上已レニアグベキ權利者ノ利益ヲ謀ルガ爲メニ嗣位權ヲ擲棄シ或ハ王位ヲ讓ルコトアリ。

(ハ) 男女性 男女性ハ嗣位例ノ主要ナル問題ニシテ又主要ナル區別ナリ。多クハ女子ヲシテ位ヲ嗣ガシムルコトヲ許サズ、女子ノ嗣位ヲ許スモノハ英國及埃國ノ皇家(ブラグラースーチツシエ、サンクチョン)西班牙王家ノ典章モ亦女子ノ位ヲ嗣ゴトヲ許シ、露西亞國ニモ亦多クノ女帝アリタリ。英國ノ他ニ異ナル所ハ、位ヲ嗣グベキ内親王ヲ定ムルコト皇太子ヲ定ムルガ如ク、後チ位ニ即ク時ハ女性ニシテ英國々教院ノ首領ヲ兼ヌルニアリ。

(二) 宗旨 (イ) 其邦國ニ於テ専ラ行ハル、所ノ宗教基督教ナルト佛教ナルト或ハ回々教ナルトニ從ヒ、君主ハ同一ノ宗旨ヲ奉ゼザルヲ得ズ。歐洲ニ於テハ近時宗教自由ノ說アリト雖モ、基督教國ニ於テハ其君主タル者ハ必ず基督教ヲ奉ゼザルヲ得ズ。

(ろ) 均シク基督教ナリト雖ドモ亦君主ハ必ズシモ隨意ナル教派ヲ奉ズルコトヲ得ザルコトアリ。彼ノ三十年戰ヲ以テ局ヲ結ビタル歐洲ノ宗教戰亂ノ如キハ、基督教信向ノ如何ニ起リシモノニアラズシテ、畢竟教派寺院ノ争ヒナリシ。要スルニ君主ハ其國ノ宗派ヲ以テ己レノ宗派ト定ム、故ニ羅典ノ古諺ニ一國一教(アイネスレギヲアイネスレリギヲ)トノ言アリ。即ハチ國民ハ君主ノ宗旨ニ從フノ謂ナリ。然ルニ宗教戰亂ノ後チハ全ク反對トナリ、恰モ國民ハ其君主ヲシテ其國民ノ宗旨ヲ奉ゼシムルノ權利アルガ如キ姿トナレリ。其後羅馬加特力教ヨリ波羅士特教ニ移リタルモノアリ、又索遜王家ノ如ク國民ハ波羅士特教ヲ奉ズルモノ多キニモ拘ハラズ、加特力教ニ復シタルモノアリ。故ニ君主ハ他ノ宗派ヲ奉ズルコトヲ得ルニ至レリ。然レドモ尙ホ基督教外ノ宗教(例ヘバ回々教)ヲ奉ズルコトヲ得ザルモノトス。然ルニ英國及露國ニ於ケルガ如ク、國教寺院ヲ置ク所ノ國ニ於テ

ハ、君主ハ該寺院ノ首領タラザルベカラズ。英國ニ於テハ那哥伯^{ヤコブ}第二世ハ加特力教ヲ奉ジタルヲ以テ追放セラレ、其子ハ嗣位權ナキモノト見做サレ、千六百八十八年其妹世ヲ嗣ギ^{アラニイ}阿羅尼家ノ維廉第三世位ニ即キタリ。他ノ君家ノ女子ニシテ君主或ハ皇太子ト結婚スル時ハ國教寺院ノ宗旨ニ從ハザルヲ得ズ。土耳其帝室ニ於テハ回々教ヲ奉ズルモノニアラザレバ相續ノ權利ヲ有セズ。又奧地利帝ハ羅馬加特力教ヲ奉ゼザルベカラズ。是レ羅馬加特力教ノ代理者ヲ兼ネタル君主ナリトシテ「アポスプリツシエル、ケーニヒ」ノ稱號ヲ帶ブルヲ以テナリ。

畢竟皇太子及其妃ノ宗旨ニ關シテ二個ノ問題ヲ生ズ。第一ノ問題ハ其國ノ宗旨ヲ奉ズルト否トニアリテ、第二ノ問題ハ其國ニ國教有ル時ト無キ時ノ異同ニアリ。國ノ宗旨ト國教トノ別ハ他ナシ、國ノ宗旨トハ國民ノ多數ガ信向スルヲ以テ君主モ亦之ヲ奉ズル所ノ一定ノ宗教ナリ。國教トハ基督教回々教佛教等ノ如ク[○]祭典[○]及僧侶ノ組織ノ一定シタル宗旨ヲ云フナリ。

(ホ)種族(ナシヨナリテト) 皇太子及君主ハ必ズシモ其國民ト種族ヲ同フスル事ヲ要セズ。其最モ奇トスベキハ歐洲ノ君主ハ多ク其國民ト種族ヲ同クセザルニアリ。又新タニ國ヲ建ツル時ニ際リ、其君主ヲ選ブニハ他國ヨリ之ヲ迎フルヲ

常トス。故ニ英國ノ王家ハ一部ハ佛蘭西、一部ハ阿蘭陀種族ナリ。又白耳義、羅馬尼、瓦牙利、西班牙及希臘ノ如キ皆獨逸ノ種族ヲ以テ君主ニ選ベリ。瑞典ノ王家ハ佛蘭西ノ種族ニシテ、佛國ノ皇帝タリシ那勃翁ハ伊太利ニ起リ、近時ノ西班牙君統ハ佛蘭西ノ種族ナルガ如シ。加之ナラズ獨逸ノ選王(アルフォンズ第十世)ハ西班牙人ナリシ。

亞細亞人民殊ニ回々教國ニ於テハ、其君主ハ皆ナ國民ト同種族ナルモノ多シ。何ントナレバ君主ハ其宗旨ト密着シタルモノナレバナリ。然ルニ支那ハ屢々他ノ種族ノ掠奪ヲ蒙リタルガ爲メニ三個ノ種族ニ別レタリ。

(ハ)性質 (イ)精神上ノ性質 精神上ノ缺乏ハ君統ヲ繼ガシメザルノ原因トナル事ナシト雖モ、政事ノ執行ヲ制限セラル、ノ原因トナルベシ。故ニ若シ國家ノ安寧上必要ナルトキハ精神ノ缺乏シタル皇太子ハ其一定ノ權利ヲ制限セラルベシ。然ルニ皇太子ノ位ニ即クニ際リ或ハ君主ノ其位ニ在ルノ間、精神病ニ罹リタルヤ否ヤヲ判定スルノ權利ハ何人ニアルヤハ困難ナル問題ナリ。最モ近キ一例ニ依レバ巴威里國王路易第二世ハ非常ニ人民ニ親愛セラレタルニモ拘ハラズ、其私產ヲ浪費スルヲ以テ遂ニ其王家ノ家族ニ於テ之レヲ精神病ナリトシテ位ヲ退ケタリ。

此ノ王ノ崩ジタル後間モナク當時ノ國王阿多寶祚ヲ繼ギタリ。然ルニ亦精神病ナリトシテ政ヲ執ラシメズ、現ニ寶祚ヲ繼グベキ最近ノ權利者ヲ以テ攝政ニ置キタリ。故ニ此ノ權利者ハ王位ヲ繼ギタルニ非ズ、攝政權ヲ掌有スルモノナリ。故ニ該國ニ於テハ精神病ナルヤ否ヤハ王家ノ家族ニ於テ判定シタルモノナリ。

(ろ) 修身ノ性質 佛國ノ王家及英國ノ斯去亞爾的朝ノ二三ノ君王ノ如ク道德ヲ傷リテ革命ヲ招キ王位ヲ失ヒタルモノアリ。然レドモ之ヲ以テ寶祚ノ繼嗣權ヲ失却スルモノニアラズ、然レドモ獨逸國王非德黎第四世ハ教旨ニ從順ナラザルトノ故ヲ以テ羅馬法皇ヨリ其位ヲ退ケラレ、又千四百年獨逸國王ウエンツエルハ酗酒ノ故ヲ以テ選帝侯(クールヒュルスト)ヨリ位ヲ退ケラレタリ。選帝侯ノミハ國王ヲシテ其位ヲ退カシムル事ヲ得タリシ、法律上辯護シ難キ往時ノ事跡ト云フベキハ蘇格蘭女王ノ馬理斯去亞爾的ガ、人ヲ殺シタルノ罪アリトノ訴ニ依テ英國ノ以利沙伯ノ爲メニ誅戮セラレタルニアリ。元來馬理斯去亞爾的ハ不羈獨立ナル正當ノ女王ニシテ、決シテ以利沙伯ノ裁判權ニ服從スベキモノニアラザレバナリ。

(は) 身體上ノ性質 身體上ノ缺點アルモ之レガ爲メニ精神上ノ衰弱トナラザル以

上ハ決シテ寶祚ヲ繼續スルノ權利ニ關係ナキモノトス。

(波) 即位及親政(レギールングスアントリツト) 國王ヲ選定シタル時代ニ於テハ假令ヒ未丁年ノ君主ト雖モ、其即位ノ時ト政ヲ執ルノ權利ヲ得ルノ時トハ同時ナルヲ常トセリ。然レドモ世襲君統ニ於テハ即位ト親政トノ間相距ル遠キ事アルノミナラズ、君主位ニ即クモ遂ニ政ヲ親カラセザル事多シ(巴威里ノ現在ノ國王阿多)故ニ即位トハ必シモ結合スルヲ要セズ、故ニ吾人ハ二種ノ場合ヲ區別スル事左ノ如シ。

(イ) 即位ト親政ト相距ル場合 嗣君ニ性格上ノ缺點(呂ノ條下ヲ參照セヨ)ナクシテ而シテ尙ホ政事ヲ執ル資格アラザル時ハ攝政ヲ置ク、攝政ニモ亦種々アリ、各其場合ニ從ヒテ一樣ナル事能ハズ種々ノ權利者ヲ以テ攝政者ト爲ス。吾人ハ之ヲ二種ノ場合ニ別ツ。

(い) 君主ナキ場合 (壹) 選君制度(ワールケーニグツーム)ニ在リテハ舊王崩ジテ新王ヲ選定スルノ間ハ君主ナキモノナリ。故ニ此ノ場合ニ於テハ選君法(ワールフェルフハツスング)中通常攝政ニ關スル規則ヲ設ケ、且ツ其權利者ヲ定メ置クモノナリ。獨逸國ニ於テハ此ノ如キ君主ナキ間ハ第一ノ選帝侯タルラインフハルツ伯ヲ以テ聯合國管理者(ライヒスフェルウエーゼル)ト定メタリ。是レ唯

右ノ如キ場合所謂ユル缺君期(インテルレギウム)中ニ限ルモノトス。既ニ位ニ即キタル君主ノ未丁年中ノ攝政ハ通常其親族ヲ以テ之レニ任ズ。

(貳) 世襲君主ノ制度ニ於テハ太子ニ缺乏スルノ場合ハ甚ダ稀ナリ。

(一) 若シ后妃ノ分娩ヲ待ツ事アレバ其間ハ后妃自カラ攝政ト爲リ男子ノ顧問ヲ置クヲ常トス。

(二) 若シ君家ノ血統悉ク死シ且ツ君主ニ於テ攝政ヲ定メ置カザリシ時ハ新タニ君主ヲ選ブマデハ諸大臣ヲ以テ攝政會議ナルモノヲ組織ス。

(三) 繼嗣者ヲ定ムル事ナクシテ國王ガ其位ヲ辭スルガ如キハ特別ナル場合トス、瓦牙理ノ君主何勒山德アレキサンデルノ如キ是ナリ。同君ハ其國ヲ追放セラレタル後新タニ君主ヲ選ブマデノ攝政ヲ任命スルガ爲メニ殊更ラニ一旦歸國シタリ。

(ろ) 君主政ヲ執ルノ資格ナキ場合 君主ガ政ヲ執ルノ資格ナクシテ位ニ即クノ權利ヲ有スル場合アリ左ノ如シ。

(壹) 未丁年 未丁年ノ場合ニ於テハ攝政ナルモノハ特ニ其國家ノ政務ニ對スル管理ニ任ズルノミナラズ、幼主ノ教育ヲ掌ドルモノトス。是故ニ多クハ君主ノ母親ニ於テ教育ノ事ヲ掌ドリ、攝政會議ヲ設ケテ政事上ノ顧問トナス。君主政ヲ親カラニスル

ニ至レバ攝政ノ任ニ當ル者ハ其攝政權ヲ返還シテ攝政中ノ復命ヲナスノ義務アリ。且ツ君主ハ政事ニ關スル責任ヲ帶ブル事ナシト雖モ、攝政職ハ君主ヲ適當ニ教育スル事及ビ國家ノ政務ニ關スル責任ヲ帶ブルモノナリ。

(貳) 君主狂癲ノ場合 君主狂癲病ニ罹リタル時ハ選君制度ニ在リテハ選帝侯ニ於テ世襲君主ノ制度ニ於テハ其君統ノ家族ニ於テ攝政ニ任ズ。此ノ場合ニ於テハ君主ヲ教育スル事ナク其政務ヲ代理ス、其病ノ回復シタル場合ニ於テハ攝政職ハ君主病中ノ待遇及ビ其政事ニ關シ君主ニ對シテ責任ヲ帶ルモノナリ。若シ君主ノ病癒ヘズシテ崩ジタル時ハ其嗣君ニ對シテ右ノ責任ヲ有ス、此ノ如キ攝政職ハ通常第一ニ位ヲ嗣グベキ權利ヲ有シ、且ツ君主タル事ノ資格ヲ有スル者ヲ以テ之レニ任ズ。(巴威里ヲ參照スベシ)

(ロ) 即位ト親政ト一致シタル場合
(い) 即位 (壹) 世襲君主制度ニ於テハ家典ニ依リ豫メ位ヲ繼グベキ權利アル者ヲ太子ト定メ置クヲ以テ、位ニ即クニ際リテ特別ナル儀式(セエレモニ)ヲ要セズ。然レドモ若シ嗣君其人ニ關シテ「イデンチテート」(二者同様ニシテ何レヲ其モノト判定シ難キ事ヲ云フ)ノ疑ヒアル時ハ母親ニ於テ之ヲ證明スルヲ常トス、

實ニ路易第十四世ガ佛國ノ王位ニ即ク時ノ如キハ其母親王城ノ「バルコン」(玄關ノ樓上ナリ)ニ公子ヲ誘ヒテ人民ニ己レノ子タルヲ示シタリ。

世襲君主制度ニ在リテモ亦即位式ヲ行フ事アリ。之レ殊ニ一人ニシテ二個以上ノ獨立國ノ聯合シタル國ノ君主ト爲ルノ時トス、故ニ埃地利皇帝ハ匈牙利皇帝ノ位ヲ兼ヌル時即位式ヲ行ヘリ。

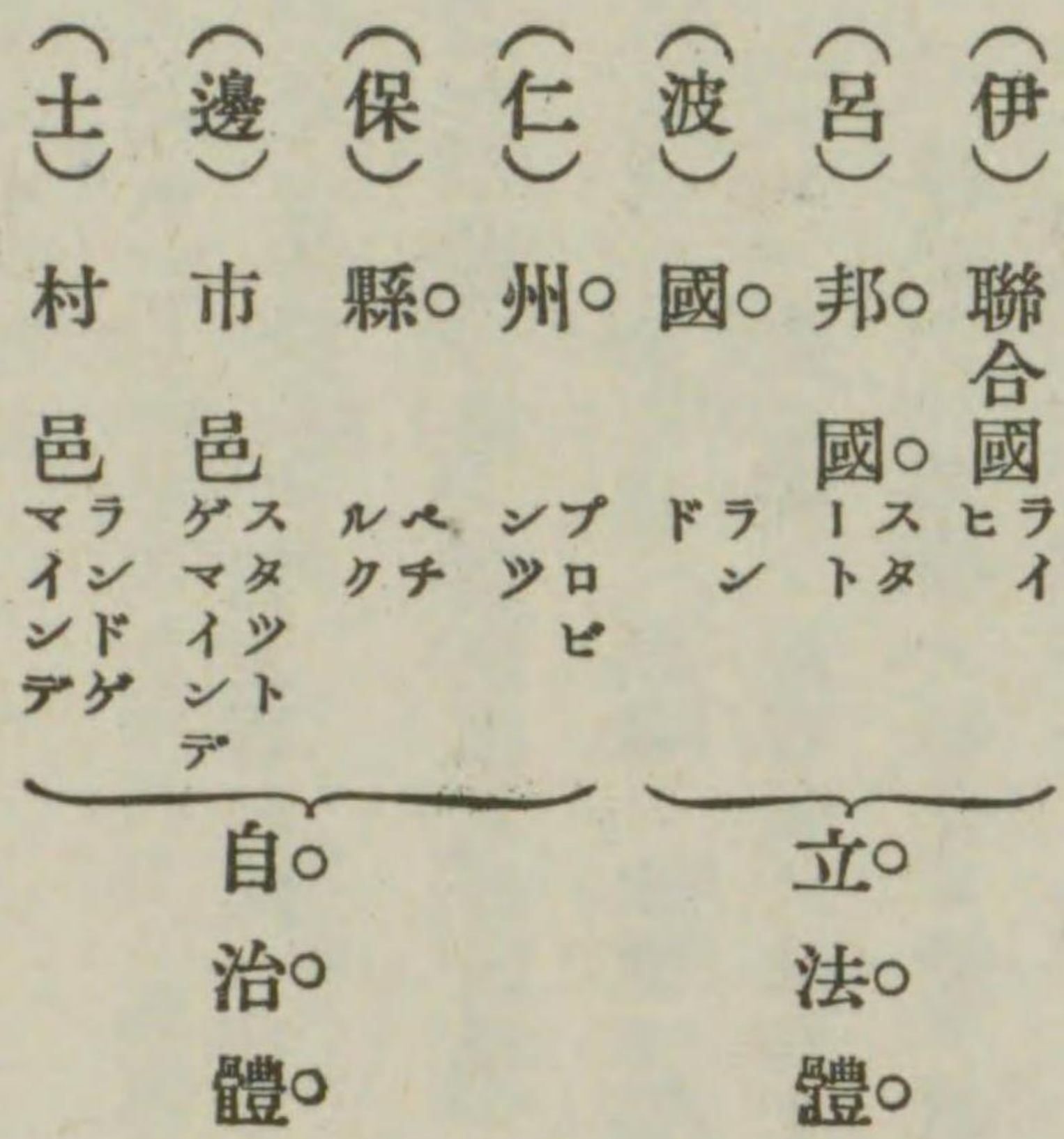
(貳) 選君制度ニ在リテハ其君主タル者ハ即位式ヲ得テ始メテ實祚ヲ得ルモノトス。

(ろ) 親政。君主ノ權利義務ハ政ヲ親ラスルニ至リテ始メテ生ズルモノトス。然レドモ君主ハ全ク責任ヲ有スル事無キヲ以テ、君主ノ國家ニ對スル位地ハ最高信條ノ位地ト云フベシ。君主ハ唯ダ其良心ニ對シテ責任ヲ有ス、故ニ君主ハ憲法ヲ遵奉スベキ誓約ヲ爲スヲ要ス。君主ハ悉皆ノ政府ノ機關及ビ政權ノ元首ナリ。假トヒ憲法ニ違背スル事アルモ決シテ公署ニ召喚セラル、事ナシ。然レドモ實際憲法ニ違背スル時ハ必ラズ人民ハ之レニ答フルニ革命ヲ以テスベシ。君主其人ハ刑法上特別ナル保護ヲ受ク、君主ハ其帝俸ニ關シ政府ニ對シテ民法上ノ請求權ヲ有シ、此帝俸ヲ國家ノ元首タル資格ニ必要ナル費用ニ供スルノ義務アリ。

世襲君主國ニ於テハ其君主ノ家族ハ刑法上及ビ民法上特別ナル地位ヲ有ス。(家典及ビ財産ノ條下ヲ參照スベシ)

(乙) 邦國組織ノ原則 (立法體自治體)

(子) 國土



(丑) 政權

(伊) (君主) 大統領 共和政體ニ於テハ立法及施政ノ元首ハ邦國ノ元首ト融合シ、立

歐羅巴家門法歷史上ノ沿革及其法制ノ系統

君政體ニ在リテハ分離シテ邦國ノ元首ハ即ハチ實祚ナリ。

(呂)立法權

(イ)君主

(ロ)上院

(ハ)下院

君主專制國ニ在リテハ特ニ君主ノ顧問タルニ過ギズ。

(波)施行權(施政權及行政權)

(イ)命令權 法律ノ主意ヲ擴張スルノ思想ヲ有ス。

(ロ)監視權 諸官廳ノ政務ヲ監督ス

行政トハ各個ノ場合ニ於テ國民ニ對シテ法律ヲ實行スルヲ云フ。

(仁)司法權

(イ)「フェルフハツスングスゲリヒト」蓋シ治安裁判所

(ロ)刑事裁判所

(ハ)民事裁判所

國ノ憲法ハ一種固有ニシテ司法權ニ關スル規則ヲ別ツコト左ノ如シ。

(い)司法權 皇帝ノ名義ヲ以テ裁判權ヲ執行スルコト。法官ハ終身官トシテ皇帝ヨリ任命セラル。

法官ハ獨立不羈トス。

法官ノ判決ニ由ラザレバ法官ノ判決ヲ變ズルコトヲ得ズ。

法律及勅令ヲ検査スルコト。

邦國ノ原則ヲ探究スルコト。

裁判ヲ公開スルコト。

皇帝ハ宥恕權ヲ有スルコト。

(ろ)大審院(ライヒスゲリヒト)。

(丙)國民ノ原則 (邦國ノ利益ニ對スル人權ノ制限)

(子)普通權 國民權 法律ニ對スル權利ノ同等 官職ヲ帶ブベキ權利ノ同等 移

住權(海外移住權) 毀傷スベカラザル所有權 結社權(フェルフィン) 思想發表ノ

自由 信向自由ノ權利 學術及教授ノ自由 職業選定ノ自由 民種(ヨナ)ノ同

權 (丑)一身ノ自由 (寅)家權(ハウス) (卯)信書及書類ノ秘密 (辰)團結及集

會權 (巳)寺院ニ關スル權利(認可セラレタル寺院)ノ同等 (午)國家ノ危急

憲法ニ關係スル場合ニ際スル憲法中一定ノ條款ノ制限及停止。

(地) 家。典。及。財。産。

史乘ニ徴スルニ最初君主及其家族ノ財産ハ全ク邦國ノ財産ト混同融合シタルモノナリ。羅馬人ハ今ヲ距ルコト凡ソ二千年以前不充分ナガラモ帝室ノ財産(フヒスクス)ト邦國ノ財産(エラ)トヲ分別シタリ。籍土制度ノ時代ニ於テハ國王ハ一ツモ貨幣ヲ需要スルコトナク、後世漸次ニ其所有地ヲ割キテ籍臣及寺院ニ分與シタリ。又最初ニ町村有牧場及町村有山林ナルモノヲ定メテ公用物トナシタルハ獨逸ノ町村邑ヲ以テ嚆矢ト爲ス。

然ルニ後世百般ノ需要ニ貨幣ノ必要ヲ告グ邦國ノ政事及君主ノ家計モ亦貨幣ヲ以テ支辨スルニ至リ、且ツ政府ト君主トノ經費ヲ分別シタルヲ以テ、君主ハ財産及貨幣ヲ所有スルノ緊要ヲ來シタリ。又一大變更ヲ生ジタルノ期ハ火藥發明後貨幣ヲ以テ軍隊ノ經費ヲ償ハザルヲ得ザルニ至リタル時トス。寶祚ヲ爭フガ爲メニ君家ノ家族ガ戰爭ヲ起ス時ノ如キハ、君主自カラ軍費ヲ支辨シタリシガ、前世紀以來常備軍ナルモノヲ置キ兵ヲ養フハ邦國ノ常費トナレリ。

既ニ現今ノ立憲君主制度ノ諸國ノ發達スル初期ニ於テ君主ノ財産ヲ邦國ノ財産ト分別シタルモノ多シ。邦國ノ政費ニ關シテ代議院ニ提出スル所ノ歲計豫算表(ブツジエー)ト其中ノ一費目

タル帝俸(シビルリステ)トヲ分別シテ以テ全ク此ノ二者ヲ殊別シタリ。君主ハ從前掌有シタル君籍ノ權利ニ代ユルニ貨幣及財産ノ新權利ヲ得タリ。故ニ今ヤ強大ナル君主ハ必ズ莫大ナル私有財産ヲ有スルモノトス。(帝俸ノミニテハ悉皆ノ費用ヲ辨ズルニ足ラザレバナリ)吾人ハ邦國ノ財産權ニ對シテ君主ノ財産權ノ地位ヲ明瞭ナラシメンガ爲メニ之ヲ左ノ三種類ニ別ツベシ。

- (甲) 財。産。所。有。權。 (子) 邦國財産 (丑) 寶祚財産 (寅) 君家財産 (卯) 君主ノ私有財産

- (乙) 家。族。權。 (子) 君家(君統及他ノ家族) (丑) 後見權 (寅) 結婚權 (卯) 相續權

- (丙) 司。法。 (子) 法廷ノ裁判ニ關スル君主及其家族ノ特別ナル位地 (丑) 立法上君主ノ身體ニ關スル特別ナル保護 (寅) 君主及皇子ガ司法上ノ被告ノ位地ニ立ツ時ニ於ケル

- (伊) 宮内大臣 (ハウスホーフ) (呂) 刑法 (卯) 他家ノ君統ニ係ル訴訟

歐羅巴家門法歴史上ノ沿革及其法制ノ系統

- (甲) 財。産。所。有。權。 (子) 邦國財産 邦國財産トハ總テ公衆ノ用ニ供シ、一個人ノ私有ニ屬

セザルモノヲ云フ。故ニ各個人ノ所有權外ニアルモノナリ。邦國財産ヲ別チテ左ノ三種トス。

(伊) 公用財産 各人自由ニ使用スルコトヲ得ベキモノニシテ大氣、川河、海等ノ如キ是ナリ。

(呂) 官有財産 國家ノ行政上ノ目的ニ供スルガ爲メニ各個人ノ所有物ヨリ分離シタルモノニシテ、賣却スベカラザルモノナリ。道路、公道、記念標其他公有ノ建築物政廳兵營(武器モ之レニ附屬ス)學校及官林ノ一部分ニシテ一國ノ氣候ニ關スルヲ以テ公衆ノ利益ノ爲メニ賣却スベカラザルモノノ如キ是ナリ。行政上ノ目的ニ從ヒ政府ノ財産ヲ兵事財産森林財産等ニ區別ス。

(波) 官有財寶(スターツシャツツ) 官有財寶トハ總テ政府ノ貨財上ノ富ヲ爲スモノニシテ、他ノ民事上ノ所有物ノ如ク仕拂ニ供シ或ハ賣却スルコトヲ得ルモノナリ。其種類左ノ如シ。

(イ) 賣却シ得ベキ官有地

(ロ) 國庫ニ屬スル現金及有價紙(公債證書等)

(ハ) 官行工業(官行鑛山、印刷局等)

(丑) 寶祚財産 寶祚財産ハ其性質トシテ公用ニ供スベキ官有財産ト區別スベキモノニシテ、一國ノ最高代表者ニ屬スル財産ナリ。故ニ君主其人ニ屬セズ、又其君統ニ屬セズ。國家ニ屬スルモノニシテ君主ハ其使用權ヲ有スルニ過ギズ、寶祚財産ニ二種アリ。

(伊) 寶祚ノ徽章トナルベキモノ
笏、國璽、鏡、軍旗等

(呂) 君位ニ屬スル寶物 政權ヲ表章スルモノニアラザルモ、其光輝ヲ増スベキモノナリ。諸國ノ君位ニ屬スル寶物ノ巨擘ハ多クハ世ニ有名ナル夜光石ニシテ王冠ニ鉗挿シタルモノナリ。寶祚ノ徽章及國家ノ光彩ヲ増スベキ物品ハ邦國ニ屬スベキカ、又君主ノ家族ニ屬スベキカ、其境界如何ニ關シテハ尙ホ頗ル論議アリ。近時佛蘭西共和國ニ於テハ特ニ寶祚ノ徽章ノミナラズ、其國ノ君統ニ屬スル寶物ヲモ亦邦國ノ所有物ナリトシテ之ヲ賣却シタリ。

他ノ一大問題ハ城廓ハ君位ニ屬スルモノタルヤ否ヤノ一事ナリ。佛國巴里ノ皇居及威爾柴島ノ離宮ノ如キモ亦邦國ノ所有物ト見做サレタリ。然ルニ追放セラレタル君主及其皇子ノ他ノ財産ハ私有物ナリトシテ依然トシテ尙ホ存在ス。

(寅) 王室財産 民法上ニ於テハ家族財産ト稱スル特別ナル財産アルコトナシ。然ルニ舊

貴族ノ必要ナル遺制トシテ其財産ヲ維持セシムルガ爲メニ法律上或ル家族ニ限リ家族財産ナルモノヲ置クコトヲ許ス。相續者即チ所謂ユル家長ナル者ハ決シテ其所有權ト賣渡シノ權利トヲ有セズ。唯之ヲ使用シ、或ハ其代價ノ幾部以內ノ抵當トシテ金融ヲ爲スノ權利ヲ有スルノミ。若シ此ノ如キ財産ノ所有主變更セザルヲ得ザル時ハ、一定ノ規則ニ從ヒ第二位ノ權利者ヨリ組織スル所ノ親族顧問ニ商議シタル上商議ノ整ヒタル旨ヲ所轄裁判所ニ届出ルヲ要ス。

此ノ如キ財産法ヲ家族定遺產(フアミリインフビダイコムニス)ト云フ。是レ君主ノ家族ニ限ルベシ。君主ハ又所謂ユル資本財産(フォンドギユートル)ヲモ隨意ニ處分スルコト能ハズ。然レドモ開明諸國ニ於テモ尙ホ土地ノ所有ニ關シ、邦國ノ所有物ト君家ノ資本財産トノ間ニ殆ンド明瞭ナル區別ヲ設ケザルモノ無キニ非ズ。然レドモ君主ノ家族ガ邦國ニ對シ其設置シタル土地ノ管理上及ビ經濟上ノ建築物即チ土地ノ附屬物ニ關スル請求ヲ爲ス時ノ如キハ此ノ關係ハ明瞭ニシテ土地ハ邦國ニ屬スルモノトス。

(卯) 君主ノ私有財産 君主及ビ其家族(籍臣ヲ加ヘズ)ノ私有財産ト其資本財産トヲ區別スルハ甚ダ難キ事ニアラズ。然ルニ尙ホ判然之ヲ區別セザルモノ多シ。概シテ貴族ノ動産即チ有價紙及貨幣ノ如キ之ヲ經常費ニ使用スル以上ハ之ヲ私有財産トシテ私有金

庫ト名ヅクルヲ常トス。然ルニ茲ニ疑フベキハ帝俸モ亦此私有金庫ニ屬スルヤ否ヤニアリ。何トナレバ帝俸ナルモノハ特ニ邦國ニ對スル君主ノ勞ニ酬ユルノミニアラズ、之ヲシテ其家計及ビ太子ノ教育ニ使用スルノ義務ヲ帶バシムルモノナルヲ以テナリ。スタウツストライヒニ依リテ新タニ一國ノ君主トナリシ者ハ必ず先ヅ私有財産ヲ造ル事ヲ勤メ、或ハ追放セラレタル君統ノ所有地ヲ橫掠スベキ事ヲ試ミタリ。此ニ様ノ手段ヲ用ヒタルハ第一世及ビ第三世那勃翁是ナリ。第一世那勃翁ガ使用シタル所ノ莫大ノ金額ハ富豪ナル銀行者ダビードヨリ借用シタルニアリ、而シテダビードハ之レガ爲メニ終ニ破産シタリ。

那勃翁第三世ハ最初負債多キ公子ナリシガ、多クノ銀行者ヨリ其資金ヲ借ル事ヲ得タリ。此等ノ銀行者ハ三世那勃翁ノ政略ハ必ず奏効スル事ヲ期シテ金員ヲ貸附シタリ。又憲法ノ批准ヲ遷延シタルガ如キモ亦一策ニシテ、佛國ノ鐵道會社ハ之レガ爲メニ破産シタル者多シ。畢竟第三世那勃翁ガ資金ニ缺乏セザリシハ英國ノ銀行ヲ後楯トシタルガ爲メナリ。

(乙) 家族權

(子) 君主及び君家 一國中一定ノ家族、即チ君家ガ其家典中ノ寶嗣例ニ從ヒ其國ノ君主ヲ供スルノ權利ハ君主自身ノ權利ニアラズ。何トナレバ君主ハ世襲君主ノ家ニ於テハ自カラ此權利ヲ得ル(選舉ニ於ケルガ如ク)モノニアラズ、其君統ノ掌有スル所ノ權利ニヨリテ間接ニ之ヲ得ルモノナレバナリ。斯ク君家ノ權利ト將來ノ嗣君及君主ノ權利ト區別アルト同ジク其財産モ亦同一ナル關係ヲ有ス。

君家ハ其家族財産ナルモノヲ有ス、此財産ハ君主ニ於テ之ヲ賣却シ、抵當トナシ變更シ或ハ遺言ヲ以テ他人ニ讓ル事ヲ得ズ。唯ダ定遺産(所有權ノ條下ヲ見ヨ)トシテ之ヲ使用スルノ權利ヲ有スルノミニシテ、繼嗣者其讓與ヲ受クルモノトス。若シ此財産ヲ變更セント欲スル時ハ必ズ家族顧問ノ同意ヲ經テ之ヲ行フヲ要ス。若シ些々タル物品ニ屬シ或ハ定遺産ノ權利ト君主ノ私有財産トノ區域ヲ爭フ時ノ如キハ此ノ限りニアラズ。

君家ノ財産ノ外君主及び君主ノ家族ハ自己ノ私有財産ヲ所持ス。此財産ハ其君統ノ家ニ對シテ毫モ關係ナク、單一ナル民法的ノ權利ヲ有スルモノナリ。

(丑) 後見職(フオールムンドシヤフト)

後見ニ種々アリ左ノ如シ

(伊) 爲メニ後見ヲ置クベキ人ニ從ヒ三種ノ別アリ。

(イ) 君主ノ後見職

(ロ) 皇太子ノ後見職

(ハ) 君族ノ後見職

(呂) 後見ヲ爲スベキ物件ニ從ヒテ三種ノ別アリ。

(イ) 國政ノ後見職

(ロ) 君家財産管理ノ後見職

(ハ) 君主ノ私有財産ノ後見職

君家及其家族ノ後見職ニ任ズベキ權利及義務左ノ如シ。

(い) 君主ノ後見職

國政ノ後見職ハ(選王制度ニ於テハ之レニ異ナリ唯世襲君主制度ニ於テノミ)其次ニ位ニ即クベキ權利ヲ有スル者ハ後見職ニ任ズベキノ權利及義務ヲ有ス。

元來邦國ニ對シテ資格ノ全カラザル君主ノ供シタル時ハ、君家ハ該君主ガ其資格ヲ有スルニ至ルマデハ之ヲ扶助スルノ權利及義務ヲ特有スルヲ以テ正則トス。然ルニ史乘ニ徵スルニ、實際他ノ人物ガ國政ノ後見職ニ任ズル事多シトス。

君主ガ政事君家ノ財産及私有財産ノ三者ヲ管理スル事ハ全ク密着ノ關係ヲ有シ、其一個ノミニ對シテ君主ノ後見職ヲ設クル事ハ實際行ハルベカラザルモノトス。故ニ君主ニシテ若シ此二者ニ關スル資格ノ一ヲ缺ケバ(巴威里國王路易第二世ガ其私有財産ヲ管理スル事能ハザリシガ如シ)悉皆ノ部分ニ關スル後見職ヲ置カザルヲ得ズ。

(ろ) 皇太子ノ後見職

皇太子ノ公ケノ職務ハ君主自カラ其後見ヲ爲シ、其代理者ヲ置キ之ヲ監督ス(若シ憲法ニ於テ君主外國ニ旅行スル時ハ皇太子必ズ國內ニ止マルベキ事ヲ定メ、而シテ皇太子ノ未丁年ナルカ、或ハ狂癲病ヲ憂フルノ時ハ殊ニ然リ)然レドモ皇太子ノ私有財産ニ關スル後見ハ其父親或ハ民法上最近ノ親族之レニ任ズ。何ントナレバ君主ナルモノハ必シモ皇太子ノ實父ナラズ、養父或ハ最近ノ親族ナレバナリ。

(は) 君族ノ後見職

皇妃ハ其夫ノ後見ヲ受ク、君主ノ子(皇太子ヲ除ク)ハ其父ノ後見ヲ受ク。

君族ニシテ君族タルノ故ヲ以テ政務ヲ有スル事ナキ時ハ其最近ノ親族ノ後見ヲ受ク。

(寅) 結婚權

君家ハ嗣位權ヲ有スル多クノ系統ヲ有スルモノナリ。君家ニ關スル一般ノ結婚權ト位ヲ繼グベキ系統及ビ其家族ノ結婚權トハ少シク異ナル處アリ。吾人ハ結婚權ヲ左ノ如ク區別セザルヲ得ズ。

(伊) 結婚スベキ人物

(イ) 君主ノ結婚 (ロ) 皇太子或ハ寶嗣例ニヨリ君主ノ位ニ即クベキ内親王ノ結婚

(ハ) 君族男子ノ結婚

凡テ君族ノ結婚ハ君家ノ主長即チ君主ノ同意ヲ得ザルベカラズ。若シ之ニ違背シタル時ハ君位ニ即クベキ權利及君統ノ家族タルノ權利ヲ失フベシ。

(呂) 同族タルベキ事

歐洲ニ於テハ所謂ユル同族ノ君主ナル一定ノ門地アリ、總テ君主ハ此等ノ家族中ヨリ后妃ヲ迎フルヲ要ス。若シ他ノ家ヨリ結婚スル時ハ其子孫ハ君位ニ即クノ權利ヲ失ヒ唯ダ民法上ノ權利ノミヲ有スベシ。

(波) 女子

君家ノ女子ハ他ノ君家ノ公子ト結婚スルガ爲メニ、其子孫ハ其母方ノ家ノ君位ヲ相續スルノ權利ヲ失フ事多シトス。

(仁) 誓神

夫婦ノ誓神アリ、其子ノ發育ニ關スル誓神アリ。

(い) 國教ナルモノナキ國ニ於テハ夫婦ハ其家族ニ對シテ種々ノ宣誓ヲ爲ス事多シ

歐洲ノ君主ノ門地ニ二種アリ、一ハ沒羅士特宗ヲ奉ジ一ハ加特力宗ヲ奉ズ、然ルニ此ノ宗派ヲ同フセザルモ亦能ク結婚スル事ヲ得ベシ。唯ダ基督教ニ非ザル者ト結婚スレバ歐洲ニ於テハ之レガ爲メニ君統ノ資格ヲ失フ事、恰モ土耳其ニ於テ回々教外ノ者ト結婚シタル時ニ於ケルガ如シ。

(ろ) 國教ヲ有スル邦國ニ於テハ君主皇后皇太子ノ家族ハ邦國ノ宣誓ヲ爲サルベカラズ。

(保) 離婚

一國ノ政ヲ執ル君主ハ其后妃ニ子無キ場合ニ於テハ之レト離婚スル事ヲ得ベシ。此ノ關係上最モ隨意ナル處置ヲ爲シタルハ英王顯理第八世ナリ。最初國王ガ娶リタル皇后カタリーナハ一女子ヲ生ミタルニモ拘ハラズ、之ヲ歐羅巴大陸ニ歸シ、其後續々八人皇后ヲ娶リタリ。

實ニ子無キノ原因ヨリシテ那勃翁第一世ハ其最初ノ皇后ヨセフヒーネヲ離婚シタリ。

元來加特力宗誓神ニ於テハ離婚シタル妻ノ生存スル間ハ再ビ結婚スル事ヲ許サルニモ拘ハラズ、同帝ハ新タニ皇后ヲ迎ヘ羅馬法皇モ亦此ノ結縁ヲ解カザルヲ得ザリシ。

(卯) 相続權

遺産ニ三種ノ別アルガ爲メニ相続權ニモ亦三種ノ別アリ。

(伊) 君位ノ相続權 (呂) 帝室財産ノ相続權 (波) 皇族ノ私有財産ノ相続權

權利上ノ性質ヨリシテ之ヲ論ズレバ左ノ二種ニ別ル。

(イ) 法律上ノ相続權 (ロ) 遺言上ノ相続權

法律上ヨリシテ之ヲ區別スレバ左ノ二種ニ別ル。

(ハ) 籍土權的ノ相続權 (ニ) 民法上ノ相続權

(い) 王位定遺産及帝室財産ノ相続權ハ常ニ一人ニ歸ス、寶祚ノ相続者タルノ權利ヲ得タル者ヲ帝王ト言ヒ、定遺産及ビ帝室財産ノ相続者ヲ「マジヨラトヘル」ト云フ。故ニ君主タル者ハ常ニ「マジヨラトヘル」ナリトス。

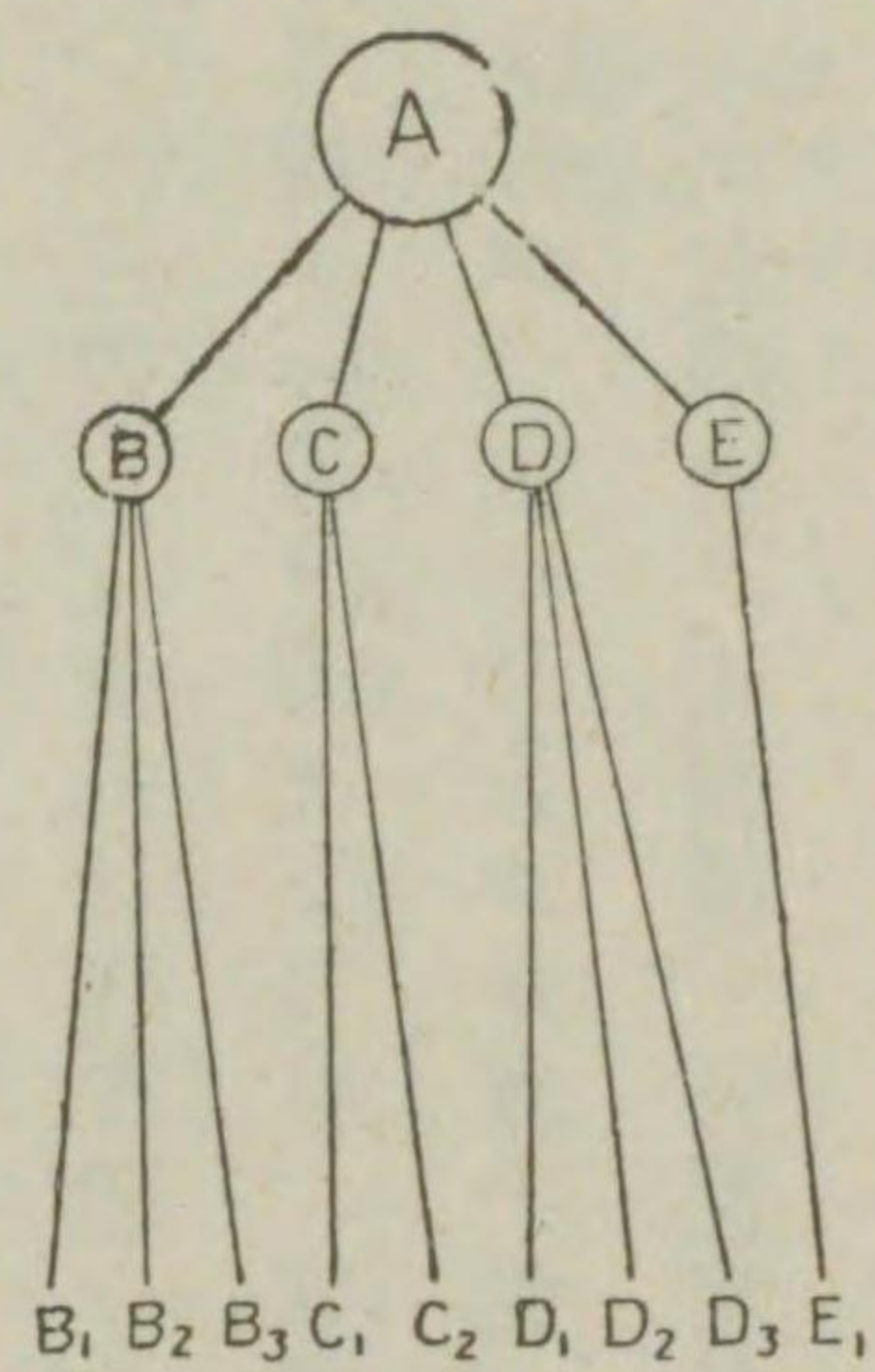
(ろ) 右兩種ノ相続權ハ世襲君統ニ在リテハ常ニ法律上ノ相続權ナリ、何ントナレバ帝王ハ決シテ遺言ヲ以テ此ノ二者ヲ他人ニ讓與スルコト能ハザレバナリ。畢竟家典ナルモノハ其家ヲ起シタル祖先ノ萬世ノ遺言ナリ。

(は) 籍土權ノ相続權トハ常ニ一人ノ相続者ニ限ラシムルコトヲ云ヒ、民法上ノ相続權トハ其遺産ヲ多クノ相続者ニ分配スルコトヲ云フナリ。

相続ノ順序ハ其系統ノ遠近ニ從フ、最近ノ權利者トハ最近ノ父祖ヲ共有スルモノ

ナリ、而シテ各々一系統ヲ成スベシ。然ルニ父祖ノ代リニ母親ノ血統ヲ以テスル時ハ女統ノ寶嗣權ヲ生ズ、然レドモ其中ニ就キ男統ノ寶嗣ヲ定ムルモノナリ。

左ノ圖中B₁C₁D₁E₁ハ各嗣位權ヲ有スル一系統ニシテ、Aナル父ヲ共有ス。又B₁B₂B₃ナル父ヲ共有ス。今B₁ノ血統皆ナ死シ盡シテC₁C₂D及E生存スル時ハ、D及E



ニ於テAノ位ヲ嗣ガズシテC₁之レヲ嗣グベシ、何ントナレバCハ第二等ノ權利ヲ有スル系統ニシテBニ亞ギテ最モ年長ナル者ニシテ、C₁ハ其父ヨリ直接ニ其權利ヲ得タルヲ以テナリ。故ニD及Eヲ幼系統ト呼ブ。

往昔諸國ノ法律上其兄ノ位ヲ弟ニ譲ラシメタルモノアリ。然ルニ叔甥ノ間ニ位ヲ争フコト多シ、殊ニ君位ヲ争フノ時ニ至リテハ屢々内亂ヲ生ジ其一人ヲ殺スニ非ザレバ局ヲ結バザルヲ常トシタリ。

現今ノ相續法ハ長男相續ノ原則ニ從フ、然レドモ亦幼子相續ノ原則ニ從フ民法アリ、此法ニ據レバ末子不動産ヲ相續シ、長子ハ市府ニ入りテ工商業ニ従事スルモノナリ。

君主及ビ君族ノ私有財産ハ全ク民法ノ相續規則ニ從ヒ、之ヲ權利者ニ分與シ遺言ヲ以テ之ヲ分配シ、或ハ相續權ヲ剝グコトヲ得ベシ。

(丙) 司法權

(子) 邦國ノ司法ニ對スル特典

帝室ハ邦國ノ司法ニ對シテ特別ナル位地ヲ有スルモノナリ。

憲法上ニ於テ帝王及帝室ハ常ニ法律上特別ナル保護ヲ受クルノミナラズ、特別ナル裁判權ヲ有スルモノトス「ラールベルストホーフマルシヤール」官(帝室ノ家計及財産ヲ管理スル官職ナリ)ハ一定ノ場合ニ於テハ裁判所ノ最高等ノ法官ヲ以テ法廷ヲ組織セシムベシ。何ントナレバ、皇族ハ普通ノ裁判權ニ從ハズ、唯其首長即チ皇帝ノ裁判ニ從フベキモノナレバナリ。

(丑) 一身上特別ナル法律ノ保護

一身上ニ關スル特別ナル法律ノ保護ニ關シ吾人ハ帝王ト皇族及他家ニ婚嫁シタル皇子皇女トヲ分別スルコト左ノ如シ。

(伊) 帝王ノ一身上ハ神聖侵スベカラザルモノナリ、故ニ帝王ノ玉體ヲ毀傷スルコトハ大

逆中ノ最重罪ニシテ、言語ノ不敬ニ涉ルハ乘輿ニ觸ルルノ罪ノ最モ重キモノナリ。

(呂) 皇族モ亦特別ナル保護ヲ受ク、何ントナレバ皇族ヲ毀傷罵詈スルハ乘輿ニ觸ル、ノコトナシト雖ドモ、皇統ヲ毀傷罵詈スルノ大逆ナルヲ以テナリ。

(波) 假令ヒ他家ニ婚嫁シテ生家ノ嗣位權ヲ失ヒタル皇子皇女ト雖ドモ、亦法律上特別ナル保護ヲ爲スヲ可トス。其配偶者モ亦然リ。

(寅) 司法上帝王ト帝室ノ關係

茲ニ兩個ノ場合アリ、一ハ帝王及帝室ガ法律上ノ被告トナリタル時ニシテ、一ハ帝王ガ他人ノ訴訟ニ干渉スルコトトス。

(伊) 帝王ハ決シテ刑法上ノ被告トナルコトナシ、何トナレバ帝王ハ司法ヨリシテ上ニ立ツモノナルヲ以テ、刑法ヲ守ルベキ責任ヲ有セザレバナリ。然ルニ帝王ハ他人ノ訴訟ニ干渉シテ罪ノ輕減免除ヲ行フノ權利アリ。故ニ何等ノ裁判ト雖ドモ隨時ニ勅令ヲ以テ取消スコトヲ得ベク、國事犯ニ觸レテ流謫セラレタル者ヲ喚還スコトヲ得ベシ。凡ソ死刑ハ皇帝ノ名義ヲ以テスルニアラザレバ宣告執行スルコトヲ許サズ。皇帝ハ他人ノ如ク證據人ヲ法廷ニ出頭セシムルヲ要セズ、又宣誓ヲ爲スコトヲ要セズ。

(呂) 皇族ハ自己ニ關スル訴訟ニ限り證據人ヲ「ラーベル」ストホーフマルシヤル「官」ノ

前ニ出頭セシムルノ義務アリト雖ドモ、普通ノ裁判所ニ出頭セシムルヲ要セズ。皇族ハ宣誓ノ義務ナシト雖ドモ、宣誓ヲ爲シタル者ヲ法廷ニ出頭セシムルコトアリ。裁判ヲ爲スハ直接ニ裁判所ニ於テセズ「ラーベル」ストホーフマルシヤル「官」之ヲ行フ。

(波) 總テ民法上ノ事件ニ關シテハ帝室ノ財産管理局ニ於テ帝王ヲ代理スベシ。民法上ノ關係ニ於テハ帝王及ビ皇族ハ普通司法ノ裁判ニ從ハザルベカラズ。

(仁) 帝室及皇族ニ對スル裁判ヲ執行スルハ普通ノ裁判所ノ屬吏ニ於テセズ「ラーベル」ストホーフマルシヤル「官」ニ於テス。

(卯) 他國ノ君主及使節

(伊) 外國トノ條約上交互ノ特約アレバ、外國ノ帝王ヲ讒謗スル者ヲ特別ナル罪科ニ處スベシ、然レドモ歐洲各國必シモ此ノ如キ條約ナシ。

(呂) 外國ノ使節ニシテ内國人民ニ屬セザル者ハ其一身、爭議及住家ハ治外法權ヲ有ス、假令内國人ナリト雖ドモ外國ノ使節ニ備使セラル、者ヲ法廷ニ召喚シ、及裁判ヲ執行スルニハ外國使節及宮内大臣ニ照會スルヲ要スルモノナリ。

日本憲法ヲ創設スルニ關スル意見書 一般ノ見解

ヨハン、リツテル、フオン、クルメツキ

既ニ十分ニ確固タル天皇ノ准約ノ存スルアリテ、而モ其准約ハ決シテ是非曲直ヲ評ス可キ者ニ非ズ、必ズ十分ニ保持セザル可カラザル所ノ者ナルガ故ニ、日本ガ今日ニ於テ憲法ヲ創設スルノ當否ハ最早全ク議ス可キノ問題ニ非ズト見做サム。夫レ然リ純全タル獨裁ヨリ事皆憲法ニ因リテ定マルノ情勢ニ移ルガ如キハ无比ニ重大ニシテ、其ノ結果最モ輕シトセザルノ一步ナルヲ以テ必ズ十分ノ注意ヲ用キザル可カラズ。是レ余ガ何程懇切ニ忠告ストモ尙ホ足ラザルヲ感ズル所ナリ。即チ常ニ眼前ニ存シテ忘ル可カラザルノ事實ハ他无シ、歐洲ノ最モ進歩シテ且ツ最モ強大ナル諸憲法國ニ於テスラモ、國會ニ於ケル過激ナル等輩ノ黨派心ヲ壓倒スルコトヲ得ムガ爲ニ、政府ノ權力ヲ強クスルノ必要ヲ感ゼザリシコト无ク、獨リ英吉利ト匈牙利トノ如ク數百年間ノ經驗ニ因リ國會ノ何者タルニ關スル想念及ビ其規模既ニ深根ヲ人民ノ心地ニ下スニ至リタル處ニ於テノミ然ラザルコト是レナリ。夫レ然リ豈夫レ然ルノミナラムヤ、英吉利匈牙利

利ノ二憲法國ニ於テモ亦曾テ此ノ必要ニ對シ計畫ヲ爲スノ止ミ難キヲ感ジタリ。

帝室及行政ノ權利ノ既ニ一タビ國會ノ稍掠ニ遇フヤ、之ヲ回復スルハ常ニ困難ヲ極ム。是ノ故ニ今ヤ帝王ノ完全權能ヲ以テ憲法ヲ頒賜スル（是レ即チ日本ニ於テ取ル可キ名義ナリ）ニ臨ミ、必要ト認ムル所ノ用力ノ具ハ悉ク之ヲ帝室及ビ政府ニ保持シ置キ、以テ憲法ヲ黨派心ノ爲ニ影響セラレザルノ處ニ置キ、以テ急迫ヲ好ミ、騷擾ヲ事トスル等輩ノ爲ニ、資産アリテ溫順ナル良民ノ害ヲ被ムルコトヲ防ギ、國家及ビ社會ヲシテ政黨ノ玩物ト爲ラザラシムコトヲ計ルハ必要ニシテ且適當ノ策タルニ似タリ。且ツ更ニ必要ニシテ最モ適當トスル所ノ一義アリ。曰ク憲法ヲ結構スルニ臨ミ、之ヲシテ成ル可ク十分ニ從來存在スル所ノ者ニ附接セシメ、新ニ設クル所ノ機關ヲシテ既ニ保續シテ効驗明白ナル慣制イヌチユシヨスノ内ヨリ（恰モ其ノ之ヲ改良シタルニ過ギザル者ノ如ク）生出セシムルコト是ナリ。此ノ義タルヤ之ヲ他國ニ於テハ假令善良ヲ極ムトモ、自國ニ取リテハ全ク新奇ナル者ノミヲ移植スルノ策タルニ比スレバ更ニ適當ナルコト明白ナリ。

凡ソ進歩ノ好果ヲ結ブハ人民ニ於テ之ヲ會得シ、既ニ保續シテ効驗明白ナル慣制ノ内ニ於テ其ノ核子ヲ存スル場合ノミニ限レル者トス。假令甲國ニ在テハ至美至善ナル計畫タリトモ、之ヲ乙國ニ移植スルニ當リテ若シ乙國ノ人民ノ權利上ノ見解并ニ此ノ見解ヨリ生ズル國家ノ慣制

ト徹頭徹尾相背馳スルトキハ、全ク其ノ効驗ヲ失フコト、猶甲處ニ於テ強盛ニ繁茂セル草木モ之ヲ乙處ノ慣レザル氣候、適セザル地味ニ移植スルトキハ則チ枯死スルガ如シ。

是ヲ以テ余ハ此ノ意見書ヲ草スルニ當リ、一方ニ於テハ憲法ノ原理ヲ十分ニ遵奉シ、又一方ニ於テハ凡ソ憲法ノ憲法タル所以ニ根基セルノ權利ヲ十分ニ人民ニ與ヘ、以テ過激黨派ヲシテ他日正當ナル抵抗ヲ試ミ、理アル要求ヲ爲スノ隙無カラシメムコトヲ旨トシタリ。而シテ余ハ現ニ保續セル府縣會及ビ同ジク保續セル元老院ヲ基本トシテ、以テ新ニ設クル所ノ機關ノ規模ヲ立テ、新ニ布ク所ノ憲法ヲシテ從來ノ國家ノ上ニ保續スル所ノ慣制中ヨリ自然ニ生出セシムルノ法ヲ案ジ得タリト信ズ。

上編規 模

國會ノ編制

憲法其ノ者ニ關シテハ先ヅ第一ニ其ノ規模即チ國會ノ編制ヲ論ズ可シ。

サテ何ニシテモ二院ヲ置クヲ宜シトス。其ノ一ハ選舉ニ由テ成レルノ下院是レナリ。其ノ二ハ帝室ノ指名ニ出デ、國家若クハ教會ニ於テ奉ズル所ノ職務若クハ其ノ身ニ備フル所ノ令名等故ヲ以テ、憲法上ヨリ此ニ招集セラル、資格ヲ得タル議士ヨリ成レル上院是レナリ。

甲 下 院

下院ニ關シテハ之ヲ編成スルニ臨ミテ左ノ條件ヲ服膺スルノ極メテ必要ナルハ之ヲ何程懇切ニ忠告スルモ尙足ラザルヲ感ズル所ナリ。

第一條

議士ノ員數ハ多キニ過ギザルコト(但一百二十名乃至一百八十名ナル可シ)

第二條

選舉ノ法ハ直接ナラザルコト、即チ直ニ人民ヲシテ投票セシメズ、或ハ人民ノ選舉シタル所ノ選舉委員ヲシテ投票セシムルヲモ不可トスルヲ以テ議士選舉ノコトハ之ヲ府縣會ニ任ス可キコト。

第三條

被選舉權ハ稍々成熟セル年齡(三十歲)及ビ高額ナルストイナルチユスス 稅 籍 ト相離ス可カラザルコト。

第四條

議士ノ在職期限ハ必ズ短クセズ却テ五年六年ノ長キニ涉ル可キコト。

第五條

日本憲法ヲ創設スルニ關スル意見書一般ノ見解

下院ノ議長ハ下院ノ選舉ニ出デシメズ、帝室ノ指名ニ出デシム可キコト。

第六條

議長ヲシテ最モ遠大ナル懲戒權ヲ有セシム可キコト。

余ヲシテ右數條ノ意見ヲ立ツルニ至ラシメタル者ハ、即チ此ノ意見書ノ始ニ陳述シタル一般ノ思考是レナリ。然レドモ一個々々ノ格段ナル意見ニ關シテハ又格段ナル理由ノ存スルアレバ之レヲ左ニ列記セム。

(一) 議士ノ員數

歐洲ノ開明諸國中既ニ數世ノ實驗ニ因リ、憲法的ノ政況ニ十分通熟セル者ヲ除クノ外ハ、皆定數議員ノ多キニ比スレバ適當ノ才能ヲ備ヘタル候補者不足シ、爲ニ招集セラル可キ資格無ク適當ノ才能ニ乏シキ輩ヲシテ多ク國會ニ入ラシメザルヲ得ザルノ弊害ヲ苦シメリ。現ニ我が塊地利ニ於テモ議士ノ數ノ多キニ比例シテ、其ノ平均ノ品質ハ減ズルコトヲ經驗シタリ。但シ書ニ見エタル一點ハ各府縣ヨリシテ平均三名又ハ多クトモ四名ニ過ギザル議士ヲ出サシム可シトノ意ニ外ナラズ。(二大市府ノ市會ヲ算入スルモ)一百二十六名乃至一百六十八名ト爲ル可キナ

リ。尤モ小縣ニハ其小數ヲ割付ケ大縣(人口稠密ニシテ稅力強大ナル者)ニハ其ノ大數ヲ割付クルヲ至當トスルコト明白ナリ。

(二) 議士ノ選舉

下院議士選舉ノコトヲ以テ府縣會ニ任ズルモ亦右ニ讓ラザル必要ノ一事タルガ如シ。蓋シ此ノ策ニ出デザルトキハ、憲法ハ雷ニ國ノ溫順ナル進歩ニ對シテ益无キノミナラズ、却テ直接ノ害有ル者ト爲ル可ケレバナリ。

抑モ塊地利匈牙利及ビ英吉利ニ於テノ如ク、一人ニシテ廣大ナル土地ヲ私有スル者无ク、工業モ尙未ダ盛ナラザルヲ以テ、司利者協合ノ選舉法ヲ用キルニ至ルコト有ル可シトハ誰シモ思フ能ハザル所ナリ。サレバ其ノ採ル可キ所ノ者ハ簡單ナル普通選舉法ニ在リテ、只稅籍ノミニ依リ多少ノ制限ヲ立テ、全國ヲ幾多ノ選舉區ニ分チ人口ノ疎密ト納稅ノ多寡ト土地ノ大小トヲ計リテ各區ノ範圍ヲ定ム可シトハ誰レシモ論ズル所ナル可キガ、今此ノ簡單ナル普通選舉法ヲ取ルトキハ、左ノ不利アルヲ奈何ニセム。即チ其荒漠ナル選舉區ヲ作ルカ、又ハ狹隘ナル選舉區ヲ設クルカノ一ナラザルヲ得ズ。然ルニ若シ荒漠ナルトキハ全区ノ選舉者ヲシテ或ル一個ノ候補者ニ果シテ適當ノ才能アル所以ヲ知ルニ至ラシメ難キヨリシテ、選舉ノ結局殆ンド満足ナ

ラズ。若シ狹隘ナルトキハ爲ニ議士ノ數ヲシテ多カラシメ、以テ上文ニ陳述シタルガ如ク當ニ適當ナラザルノミナラズ、却テ弊害ヲ生ズ可キナリ。

サレバ又謂ユル選舉委員法ナル者ヲ採ルトセムカ、是レ或ル一定ノ選舉區ノ公共ヲシテ信任ス可キ人若干名ヲ投票セシメ、サテ此ノ數人ヲシテ下院ノ議士タル可キ者ヲ選舉セシムルノ制ナリ（通例間接選舉法ト名ヅクル所ノ者はレナリ）此ノ制ハ以テ幾分カ右ニ言フ所ノ弊害ヲ除クニ足ル可キモ、未ダ全ク之ヲ除クニ足ラザルナリ。

是ヲ要スルニ地方良民ノ爲ニ人民ヲ籠絡セムトスル輕躁過激ノ等輩ガ多ク國會ニ入り來ルヲ防グニ足ル者ハ、一ニ下院議士ノ選舉權ヲ府縣會ニ附與スル制ニ在リトス（但シ三大市府ノ議會ニモ之ヲ附與スベシ）其ノ故ハ府縣會ノ議士ハ其ノ府縣（又ハ其ノ市府）ノ事情ニ通ジ、人物ヲ知ルヲ以テ、最モ適當ナル議士ヲ下院ニ派遣スルコトヲ得ルノ地位ニ在ル者ト看做ス可ケレバナリ。況ムヤ被選舉ノ權利ヲ府縣會ノ議士ノミニ限ラズ、之ヲ以テ一定ノ稅額ヲ納メ、法律ニ名狀スル所ノ資格（年齢良民トシテ權利ノ完備、品行方正等）ニ合スル所以ヲ證明スルコトヲ得ル一切ノ日本人ニ敷衍スル場合ニ於テハ、更ニ便宜ヲ見ル可キナリ。且ツ、日本ノ國タル、其ノ人衆ヲ擧ゲテ單一ノ國民ヲ爲シ、歴史及ビ地理上ヨリ見ルモ日本ノ國家ニ於テハ地方ガ中央ニ抵抗セムトスルノ恐有ル可シトモ思ハレザルガ故ニ、國家畫一ノ點ヨリシテ以上提唱

スル所ノ選舉法ニ對シ、故障ヲ生ズルガ如キコト無カル可ク、又府縣會ニ於テ不平ノ情ヨリ下院ノ議士ノ選舉ヲ拒絕スルガ如キコトモ萬有ル可カラザルナリ。

然リト雖モ亦萬一ノ爲ニ此レ等ノコトニ關シテモ豫メ思慮ヲ運ラシ置クニハ如カザラム。

第一ニ帝室ニ於テ府縣會ヲ解散シテ新ニ選舉セシムルノ權利アルハ無論ノコトニ定メザル可カラズ。若シ現行ノ法律ニ於テ此ノ權利ノ明文ヲ存セザル場合ニハ、憲法ヲ公布スルニ臨ミテ之レニ明文ヲ下ダスコト必ズ怠ル可カラザルノ事トス。此ノ權利ニシテ果シテ存立シテ之レヲ活用ス可ク、且ツ政府ノ機關ニ於テ府縣會議士選舉ノ時ニ際シ、宜シク干涉ヲ加フルトキハ、他ニ應援無クシテ孤立セル一府一縣ノ議會ノ不平ヲ破ルコト固ヨリ難カラズト知ル可キナリ。尙此ノ外ニモ此ノ事ニ關シテ施ス可キ策ノ甚有効ナル者ハ府縣會ガ選舉ヲ拒ミタルトキ（但シ更ニ事ヲ綿密ニセムト欲セバ一度ノミナラズ二度迄拒ミタルトキ）此ノ不平ナル府縣會ガ自ラ肯ジテ法律通りノ選舉ヲ爲スニ至ル迄、其ノ府縣會ヨリ下院ニ派遣ス可キ議士ヲ之ニ代リテ指名スルノ權利ヲ帝室ニ保持スルニ在リ。

又此ノ處ニ於テ更ニ一言ス可キ者ハ、府縣會ノ編成人員選舉法選舉權及ビ被選舉權ノ規程其ノ他凡ソ府縣會ノ典例ニ係ル一切ノ法律ヲ定ムルノ權ヲ以テ帝國全體ノ立法權ニ屬セシム可キコト是レナリ。此ノ如キハ法律上最モ明白ナル成規ナリト雖モ、其ノ若シ今日ニ於テ缺乏スル

ニ屬セバ憲法發布ノ前又ハ之レヲ發布スルト同時ニ於テ、帝室固有ノ完全權能ヲ以テ之レヲ制定スルコト其ノ最モ違フ可カラザル者タルニ似タリ。

(三) 被選舉者ノ資格

上文ニ於テモ既ニ一言シタルガ如ク、被選舉權ハ之ヲ府縣會ノ議士ノミニ限ラザルヲ宜シトス。即チ府縣會ヲシテ必ズシモ其ノ議士タル者ノミヲ選舉スルノ拘束無カラシメ、凡日本人ノ法律ニ名狀スル所ノ資格ヲ供フル者ハ誰レシモ下院ヘ派遣スルコトヲ得シム可キナリ。

此ノ點ハ既ニ動カザル者トシテ更ニ勸諭スルノ價格アル一點ハ、稍々高キ年齢(凡三十歳)ト或ル高額ナル稅籍トヲ以テ被選舉者ノ備ヘザル可カラザル所ノ資格ト定ムルコト是レナリ。是レ則チ未熟若クハ資産無キ等輩ガ國會ニ入りテ決議ノ上ニ好ミス可カラザルノ影響ヲ及サムトスルヲ成ル可ク避クルノ効力有レバナリ。

(四) 議士ノ在職期限

在職ノ期限ヲ短クスルトキハ下院ノ事務運轉ノ上ニ甚ダ好ミス可カラザルノ影響ヲ及ボス者ナリ。其ノ故ハ國會開期ノ當初ニハ多ク新奇ノ元素ノ入り來ルアリ。又其ノ末期ニハ殊更選舉者ノ利益ヲ計リ、以テ其ノ歡ヲ得ムトスルノ傾キ有ルガ爲ニ、初一年ト終一年トハ出精勤勉以テ國會ノ事務ヲ全クスルニ最モ不適當ナル者タレバナリ。是ヲ以テ匈牙利及ビ日耳曼ニ於テハ近年ニ至リ從來三年ト定メタル在職期限ノ短キニ過ギタルヲ認知シ、議題ノ尙最後ノ決議ヲ要スル者有ル場合ニハ在職期限ヲ(五年)延バサムコトヲ決議セリ。余ハ一立法期ヲ六年ト定メムコトヲ勸諭セムト欲スルナリ。

(五) 議長ノ指名

下院ノ議長ハ非常ニ重大ナル官能ヲ有スル者ナリ。全ク新ニ議院ヲ設ケ選舉セラレテ此ニ出ヅル者ハ未ダ其ノ者ノ如キ機關ノ規模ニモ實理ニモ熟通セリト信ズ可カラザル場合ニ於テハ、事皆議長タル人ノ一身ニ依テ定マレリ。夫レ然リ下院ヲシテ其ノ議長ヲ選舉セシムルノ制ヲ採ルトセムカ、中ニ就ク下院創設日尙淺キノ場合ニ於テハ其ノ結果好キニ歸ストモ惡キニ就クトモ全ク偶然ニ歸セザルヲ得ズ。而シテ憲法新設ノ結果如何ハ議長一人ノ手ニ依テ定マル所多シト謂フ可ケレバ、議長選舉ノ權ヲ下院ニ附與セムト云フハ其ノ實恰モ今新ニ立ツル所ノ憲法的機關ノ結果ノ好惡ヲ擧ゲテ偶然ニ歸セムト云フニ異ナラザルナリ。是ヲ以テ議長(及ビ其ノ代理)ハ帝室ノ指名ニ出ヅ可キコト假令如何ナル事情アルニモセヨ勸諭セザルヲ得ザル所ナリ。

若シ夫レ此ノ如キハ歐洲ニ於テモ其ノ例ヲ見ザル所(奧地利ニ於テハ十四年前ニ至ル迄此ノ制有リ)ナルヲ以テ、改進ノ黨派ニ於テ強ク之ヲ抵抗スルノ恐有リトセムカ、則チ少ナクトモ最初ノ一選舉期ハ此ノ權ヲ帝室ニ保持シ置カザル可カラズ。既ニ數年ノ間憲法上ノ機關ノ用ニ慣ル、トキハ、此ニ云フ所ノ弊害既ニ幾分ヲ減ズ可シ。此ニ於テ始メテ下院ノ自制權ヲ許スニ更ニ廣大ナル範圍ヲ以テスルモ敢テ遺憾無カラム。

且左ノ如キモ既ニ勸諭ス可キノ一事トス。曰ク是ヲ以テ下院ノ議長トス可キノ事ナリト認ムルノ人物ヲシテ、國會開設ノ前ヨリシテ既ニ久シク其ノ後日當ラザル可カラザルノ任ニ對スル準備ヲ爲サシメ、或ハ若シ必要ト認ムルトキハ歐洲ヲ巡回シ、躬ヲ視察スル所ニ依テ國會其ノ者ノ如キ機關ノ運用ヲ研習スルノ機會ヲ得シムルコト是レナリ。

(六) 議長ノ懲戒權及議事章程

議長ノ選擇ニ關シテ上述ノ如キ注意ヲ要スル所以ノ者尙一アリ。曰ク議事章程ノ履行中ニ就ク懲戒ノ施行ヲ舉ゲテ、全ク議長ノ手ニ屬セシメザルヲ得ザルコト是ナリ。

國會ノ新奇ナルニ加フルニ南方國民ハ熱情ヲ以テスルガ爲ニ、歐洲ノ事物ヲ知り、近世ノ思想ニ富メル徒ト、日本ノ傳來執着シテ更改ヲ好マザル輩トノ意見著シク異ナルヨリシテ、日

本ニ於テハ甚激烈ナル爭議ヲ國會議場ニ生ジ來ル可キコト疑ヲ容レズ。又時トシテ亂暴ノ舉動ニ至ルコトスラモ無シトセザルナリ。此ノ如キハ歐洲ニ在テスラモ活潑國民ノ間ニ往々見ル所ナリ。故ニ此ノ場合ニ於テハ其院ノ議長ヲシテ嚴重ニ懲戒ヲ施行セシムルヲ必要トスルナリ。

日本ニ於テハ譴責及ビ秩序督促ノミヲ以テ足レリトセズ。尙一步ヲ進メテ議場ノ秩序ヲ害シ善風ヲ破リタル議士ニハ退院ヲ命ゼザル可カラズ。而シテ此ノ命ハ或ハ一會止マリ或ハ數會ニ涉リ或ハ全開期ニ及ブトモ不可無カル可シ。自由ナル英吉利ニ於テスラモ、粗暴ニシテ犯罪ニ至ルノ議士ハ之ヲ捕縛スルノ權利ヲ國會ニ保持セリ。

國會事務章程タル實ニ緊要ナル者タルヲ以テ、假令如何ナル事情アリトモ、帝室ノ意ヲ以テ一個ノ法律トシテ之ヲ制定シ、憲法ト同時ニ之ヲ公布スルヲ宜シトス。然ラザルトキハ此ノ重大ナル事件ヲ舉ゲテ新ニ招集シテ、其ノ性質ヤ知ル可カラズ、其ノ影響ヤ測ル可カラザル國會ノ手ニ歸セザルヲ得ザルナリ。

(七) 上院

抑モ日本ニ於テハ夫ノ「ラチフンヂヤン」「アイデイコミス、セ、フオン、グルント、ボーデ

ン」ナド稱スル所ノ者ノ如ク、廣大ナル土地ヲ開闢ノ昔ヨリ萬世ノ後迄モ一ノ家族ニ於テ領有
スル事有ラザルガ故ニ、今此ノ意見書ノ起草者ニ於テ專ラ目ヲ歐洲ノ事情ニ注ギナガラ、世襲
貴族ヲ議官トスルノ制ヲ（長者即チ宗家ノ正嫡ヲシテ上院ノ議官タラシムルノ制）主張セザル
モ當ヲ失セザルニ似タリ。或ハ往時ノ大名中ニテ金圓ヨリ成レル著大ノ世襲財産ヲ有スル者ハ
之ヲ上院ノ世襲議官ニ指名シテハ如何トノ問題ニ至リテハ、其ノ係ル所獨リ上院ノミニ止マラ
ズ、元來世襲貴族ノ制ヲ以テ憲法ニ準ズル者ト看做スト否トノ問題ニモ係ルコトナルガ、之レ
ガ可否ハ今日日本ノ政府ニ立テ憲法ヲ起草スル諸公ノ工夫ニ任スルノ外有ラザルナリ。若シ衆
人ノ尊重スル所ニシテ且ツ富裕ナルノ故ヲ以テ有力ナル輩ヲシテ憲法ノ爲ニ利アルノ人タラシ
ムルニ足ルト信ズル場合ニ於テハ、此ノ輩ノ爲ニ世襲貴族ノ制ヲ設クルヲ得策トス。然レドモ
其ノ世襲財産ハ法律上安全ニシテ且ツ代々一人ノ手ニ保續シ永ク分割スルコト無キ者ナラザル
可カラズ。

但シ此ノ如キ世襲令名ヲ受クベキ本人ニ關スル家系ノ公示ハ、繼嗣ノ都度 天皇ノ指名ニ出
ヅ可キコト言フ俟タザルナリ。

此ノ如キ世襲貴族ノ數ハ過大ナルヲ宜シトセズ、只拔群ノ大家ニシテ此ノ特典ヲ賜フヲ得策
トスルガ如シ。

皇族及ビ宗教上ノ最尊位ニ在ル者ニハ（例ヘバ墮地利ニ於テハ諸公爵侯爵ニシテ教長タル者
及ビ總教長ノ如シ）其ノ高位ノ故ヲ以テ憲法上ニ於テ上院議官タルノ資格ヲ附與セムコトヲ勸
諭セザルヲ得ズ。又國家及ビ宮中ニ於ケル最尊令名ヲ帶ブル者、例ヘバ大審院長、大學院長、
宮内ノ最高諸官、并ニ三大市府ノブルゲルマイスター民長ニモ各々其ノ職ニ在ルノ間ハ同様ノ取扱ヲ及ボシテ
ハ如何トノ一義モ當局者ノ工夫ヲ俟ツ可キ所ナリ。

其ノ他ノ上院議官ハ秀才ヲ抱キ、且ツ國家ニ功勞アル人ヲ拔キテ終身招集ス可ク、之ヲ指名
スルノ權ハ 天皇ノ一身ニ屬ス可キコト勿論ナリ。

斯ク指名ス可キ議官ノ員數ハ之ヲ制限セザルヲ宜シトス。是レ即チ萬一議官中ニ黨派ヲ生ジ
タルトキ其ノ員數ヲ加減シ、以テ議官集合ノ全體ニ十分ノ影響ヲ及ボスコトヲ得ムガ爲ナリ。
此ノ事タル下院ニ於テ激烈黨派ガ多數ヲ得テ事ヲ危キニ置カムトスルトキ、直チニ上院ヲシテ
之ニ剛強ナル反對ヲ呈スルコトヲ得シメムガ爲ニ甚ダ緊要ナリトス。

上院ノ議長ハ 天皇ノ指名ニ出ヅ可キコト理由ヲ舉ゲズシテ明白ナリ（但シ其在職期限ハ一
立法期即チ上文主張スル所ニ依レバ六年タル可キナリ）

最初ニ記載セル一般ノ見解ヲ以テ推ストキハ、今日ノ元老院ノ唯參議權ノミヲ有スルヲ以テ
向後ノ上院（即チ決議權ヲ有スル者）ヲ結構スルノ起首トス可キニ似タリ。

今日ニ至ル迄議官タリシ者ハ悉皆憲法ノ明文ニ依リテ以テ將來ノ上院ニ召集セムコト余ノ切ニ勸諭スル所ナリ。若シ余ノ知ル能ハザル所ノ事情ニ因リテ此ノ事行ハレザルトキハ、其ノ名聲ヲ害セズ且ツ無益ニ人ノ怨恨ヲ招カザラムガ爲ニ、現時ノ議官中ノ新設上院ニ召集セラレザル者ニ各々少ナクトモ議官ノ尊稱ノミナリトモ授クルコト必要ナル可シ。

現時ノ議官中適當ノ才能無キ輩ニ關シテハ、之レヲ將來ノ上院ニ召集セズシテ以テ新設ノ機關ニ敵對スル者ノ數ヲ増サムヨリモ、寧ロ之ヲ召集スルコト余ノ賛成スル所ナリ。議官ノ數ヲ制限無ク召集スルノ權ヲ帝室ニ保持スルヲ以テ、假令現時ノ議官中ニテ適當ノ才能無キガ爲ニ弊害ヲ生ズルコト有リトモ、又多ク才能アリテ有力ナル輩ヲ新ニ指名シテ以テ不能者ノ影響ヲ減殺スルハ難キニ非ザル可キナリ。

下編

國會ノ權限及ビ原法ノ内容一般ノ見解

憲法ノ效力、即チ將來設置セムトスル所ノ國會的代表體ニ附與ス可キ權利ノ範圍如何ニ至リテモ十分ノ注意ヲ加ヘ、以テ國會ニ許スニ苟クモ憲法ノ計畫ノ實理ヨリ出デ、斷然必要トスル分ノ效力ノミヲ以テシ、此ノ範圍ノ外ニ於テハ一點ヲモ准許セザラムコトヲ勸諭セザル可カラズ。

立法上ノ權力ヲ帝室ト人民代表トニ於テ分取スルコト、并ニ發議權即チ下院ノ議士若クハ上院ノ議官ニ於テ法律ノ草案ヲ提出スルトキ、之ヲ議事ニ附スルノ權利ハ、憲法ノ計畫ノ實理ヨリ出ヅル者ナリ。故ニ日本ニ於テハ人民代表ガ斯ク立法ニ與ルノ權ヲ憲法上ニ於テ公認セザル可カラズ。若シ然セザルニ於テハ必ズ四方ノ急進黨派ヨリ最モ條理ニ合ヘル反對論ヲ唱フルニ遇フ可ク、且其反對論ハ正當ナルガ故ニ此等ノ黨派ガ民間ニ勢力ヲ博シ、正當ナラザル過激ノ要求ニ對シテモ亦人民ノ賛成ヲ得ル、助ト爲ル可ケレバナリ。

憲法ニ於テハ必ズ左ノ明文無カル可カラズ。曰ク今ヨリ後非常急ヲ要スル場合ヲ除キ、人民

代表ノ上下兩院ニ於テ多數ヲ以テ可決シ、帝室ニ於テ裁可シタルノ外ハ法律ト爲ル者無シ。
然リト雖モ一個ノ法律トシテ制定セムコトヲ要スル類ノ規程ト、政府ノ法令ヲ以テセバ、即チ足レル者トノ分界ニ至リテハ理論ト實際トノ間ニ於テ大ニ異ナル趣アリ。之レヲ要スルニ政府ノ法令權ニ許スニ成ル可キ限リ度大ナル範圍ヲ以テスルヲ得策トスルナリ。

國會ノ立法上ノ權限

余ハ此ニ左ノ議ヲ獻ゼムトス。曰ク、凡ソ法律タルノ正式ヲ要スル者、即チ國會ノ賛成ト議決トヲ經ザルヲ得ザル所ノ者ヲ悉ク始ヨリ憲法狀面ニ箇條ヲ分チテ明記シ置キ、以テ其ノ箇條中ニ見エザル者ハ悉ク一切政府ノ法令權ニ屬スルコト自ラ明白ナラシムルニ如カズ。

若シ此ノ策ニ出ヅルトキハ又以テ行政ト立法トノ職權ノ爭ヲ力ノ及ブ限リ減少スルニ足ルコト是レ第二ノ利益ナリ。是レ最モ願フ可キノ一事トス。何トナレバ此ノ爭ハ其好ミス可カラザルノ軋轢ヲ生ジテ實ニ困難ヲ極ムル地位ニ至ラシムレバナリ。

茲ニ國會ノ協議ニ附セザル者ヲ枚舉セバ、則チ大略左ノ如シ。

(一) 憲法ノ條目ニ於ケル一切ノ改正并原法中憲法ト同時ニ發布シテ其憲法ニ添フ所以ノ明白ナル者ニ於ケル一切ノ改正。

(二) 信仰ノ事ニ關スル一切ノ規則并新聞條例。

(三) 高等學校ニ關スル條例。

(四) 民法并ニ刑法治罪法ノ全體但商法賣買法山法海法ヲ含蓄ス并ニ違警罪條例及ビ裁判所編制ノ原則。

(五) 貨幣並ニ銀行諸券ニ關スル條例關稅條例并ニ電信郵便及鐵道事務ニ關スル章程ノ原則。

(六) 年々ノ會計豫算ノ決定并ニ會計決算ノ檢查新ニ會計條目ヲ置キ或ハ舊ノ會計條目ヲ改ムルコト國有國家ノ所
有チ云ノ讓渡變換(交易)及ビ質入國稅條例及ビ專賣免許ニ關スル條例即チ一言ニ約セバ財政ニ關スル一切ノ條例。

(七) 工業條例并ニ特許狀度量衡印紙及ビ商標ニ關スル條例。

(八) 良民スクーパブルゲルレヒト權及ビ貫屬權ハイマイトレヒトニ關スル條例鄉社クワイシヤ條令及ビ救恤事務ニ關スル條例。

(九) 外國ト締結スル一切ノ條例ノ檢查及ビ領承。

行政官衙ノ編制ト小學校及ビ中學校ニ關スル事務トハ、之ヲ以テ行政權ノ範圍内ニ屬セシムルコト余ノ特ニ勸諭スル所ナリ。其ノ故ハ一方ニ於テハ既ニ豫算表ヲ議決スルノ權ヲ國會ニ附與スル爲ニ、國會ハ此ノ二事ノ上ニ間接ノ影響ヲ有スルノミナラズ、又他ノ一方ニ於テハ此ノ

二事中ニ就ク學校事務ヲシテ成ル可ク政黨上ノ動搖ノ波及スル能ハザル所ニ置クヲ善シトスレバナリ。

又右ト同様ニ必要トスル所ノ者ハ宣戰媾和ノ權、并ニ軍隊全部ノ編制及一切ノ軍務ヲ皇室ニ保持シ置クコト是レナリ。假令此ノ制ニ出ヅルモ尙國家ハ豫算表權ニ依リテ間接ニ相當ノ影響ヲ此ノ事ノ上ニ及ボセリ。單ニ人民ヲシテ負擔セシム可キノ兵役（即徵兵規則）ノ事ニ關シテノミ一ノ例外ヲ設ケテ立法ノ協議ヲ要スル法制中ニ算入スレバ則可ナリ。

大臣及ビ諸官吏ヲ任命スルノ權、位階勳等賞牌ヲ授與スルノ權、外國條約ヲ（國會ノ領承セル範圍内ニ於テ）締結スルノ權、及各種ノ刑事ニ於テ特典ヲ下賜スルノ權ハ之ヲ皇室ニ保持ス可キコト言フ俟タズシテ明白ナリ。其他 天皇ノ爲ニ其ノ神聖ニシテ犯ス可カラザル無責任ノ尊位ヲ全クシ、國會ニ對スル一切ノ責任ハ之ヲ大臣ノ一身ニ集メムガ爲ニ必要ト見ル所ノ事目ハ悉ク之ヲ憲法狀目ニ記載セザル可カラズ。序ニ述ブ可キ一事アリ。抑々尋常ノ法律ニ對シテハ兩院ニ於ケル決議合格ノ出席員數（但シ決議合格ノ出席員數ハ過大ナラザルヲ宜シトス）ノ單純多數ヲ以テ足レリトスト雖モ、憲法條款ノ改正ニ對シテハ特別ノ規程ヲ定メテ、例ヘバ三分ノ二以上ノ多數ヲ要スル者トス可シ。且ツ決議合格ノ出席員數モ尋常ノ場合ヨリ大ニシ、憲法ニ於テ此ノ二事ヲ制定スルヲ得策トス。憲法條款ハ常定不變ナルヲ最必要トス。而シテ右ハ即チ其ノ常定不變ヲ保スル所以ノ方便ヲ最モ有効ナル者タルナリ。

臨時處分及ビ切迫ノ場合ニ於ケル假定法

上文既ニ一言シタルガ如ク、立法上一切ノ制定ハ國會ノ協議ニ附スル規則トスレド、非常急ヲ要スル場合ニハ此ノ規則ノ例外ヲ設ケザル可カラズ。蓋シ國家ノ生活ハ時ニ非常ノ事情起ルアリテ、急ニ新奇ナル法律上ノ處分ヲ要スルコトアリ。中ニ就ク人民ノ自由權利ヲ保證スル所以ノ者ト爲レル現行法律ノ中正ヲ要スルコト多クレバナリ。例ヘバ一揆ノ起レルガ爲ニ臨時ノ法律ヲ必要トシ、或ハ人民ノ自由權利身體自由等ノ全體若クハ其ノ一部分ヲ遵守シ難キコトアリ。例ヘバ國家ノ戰亂ニ陥ルコトアリ、又ハ財政上若クハ商業上ノ逼迫ニ因リテ、突然非常ノ災變ヲ來スガ故ニ、一般裁判法又ハ銀行及ビ貨幣ニ關スル法律ニ至急ノ變更ヲ要ス等ノコト有レバナリ。

斯ノ如キ場合ニ對シテ立テザル可カラザル所ノ備ヘハ左ノ二様ニ出ヅ可シ。曰ク一方ニ於テ國家ノ將ニ危難ニ陥ラムトスルヲ救ハムガ爲ニ必要ト認ムルトキ、人民ノ自由ニ關スル或ル確乎一定ノ法律ヲ全國若クハ其ノ一部ニ於テ中止スルノ權ヲ政府ニ與ヘテ以テ憲法ニ準ズル者トシテ、爲ニ確乎法律ノ正式ニ合ヘル箇條ヲ設ケザル可カラズ。又他ノ一方ニ於テハ國會ヲ招集

セザル時ニ際シテ至急ヲ要スル場合ノ起リタル時、後ニ至リ國會ノ領承ヲ要スル者トシテ假定法ヲ發布スルノ權ヲ政府ニ與ヘザル可カラザルナリ。

憲法創設日尙淺キノ國ニ在リテハ猶更右ナル二箇ノ方嚮ニ於テ範圍廣濶ナル權利ヲ政府ニ與ヘムコトヲ必要トス。然リト雖モ又專斷ナル政府ガ此等ノ權利ヲ濫用シテ以テ國會ノ實權ヲ無効ニセムトスルヲ制止セムガ爲ニ、更ニ箇條ヲ設クルモ自ラ必要ナルコト論ヲ俟タズ。

憲法ト同時ニ發布スベキ法律(原法)

人民ニ憲法ヲ頒賜スルノコトタルヤ、之レニ自由權利ノ或ル者ヲ附與スルコトト密接シテ相離レザルノ關係アリ。例ヘバ自體安全ノ保證、警察ノ專斷ニ對スル家宅ノ權、書簡祕密ノ保護結社ノ權、新聞ノ自由等ノ如シ。故ニ憲法ヲ發布スルト同時ニ人民ノ此ノ如キノ自由ノ權利ヲ管理シ、且ツ制限セムガ爲ニ數條ノ法律ヲ發布スルハ必ず措キ難キ所タラム。

此ノ類ノ法律ヲ以テ新設國會ノ議ニ附シ、或ハ國會ノ發議スル所ヲ俟テ其決ヲ取ルヲ不可トス。若シ然カスルニ於テハ終ニ出來スル所ノ法律ハ政府ノ權ヲ制限スルニ止マリ、今日ノ事情ニ於キテ政治上ノ性質ヲ帶ブルメ法律ニ關シテハ此ノ事特ニ必要ナリトス。其他改正ノ必要ヲ見ルモ此ノ必要ハ國憲實行ノコトヨリ起レルニ非ザル類ノ法律ニ至リテハ其ノ改正ヲ新設國家

ニ任シテ可ナリ。國會ハ其ノ法律ノ憲法實行ニ關係スル所少ナキニ從ヒテ益々満足シ且ツ有益ニ改正ノ功ヲ奏ス可キナリ。

斷結

余ハ茲ニ左ノ希望ヲ述ベテ以テ局ヲ結バムトス。曰ク、此ノ意見書タルヤ起草者ノ赤心ヨリ出デ、前ニハ數年職ヲ墮地利帝國ノ政府ニ奉ジ、爾後新憲法ノ國會ニ立ツコト既ニ久シキノ間ニ得タル經驗ニ基ク者ナルヲ以テ、當局ノ考察ヲ賜ハラムコトヲ希ヒ、且ツ恩慶ナル君主ト明達ナル政治家諸公トノ今日ノ計畫ハ、最モ好ミス可キノ結果ヲ見、以テ善徳アリテ萬國ノ尊敬スル所ト爲レル日本人民ヲ安寧幸福ニ致サムコトヲ望ム。

若シ書中開陳スル所ノ意見ヲ實地ニ施サムトスルニ當リテ更ニ細密ナル解説ヲ要スルコトアラバ、余ハ日本ノ當局ニ於テ果シテ此ノ意見ヲ宜シトスルヤ、若シ果シテ宜シトセバ何レノ點迄之レヲ容ルルヤヲ承知セバ則チ爲ニ盡ス所アル可キ旨ヲ此ニ明言スル者ナリ。

一千八百八十七年十二月

維納 ヨハン、リツテル、フオン、クルメツキ

獨逸帝室財產一斑

獨逸國民ノ源ニ溯リ其因如何ヲ尋ヌルニ、素ヨリ數説アリテ何レガ信ナルヤヲ確言スルコト難シト雖ドモ、數書ノ歴史ニ徴シ數説ニ委スルモ、素ト印度ノ「ヒマラヤ」ヨリ移住セシモノタルヲ信ズルニ足ルベシ。抑モ歐羅巴大陸ノ往時ヲ顧ミルニ、多クハ羅馬國ノ領スルトコロナリシモ、累年ノ戰亂ニ之ヲ分奪セラレ、終ニ獨逸國却テ其大部ヲ處領スルニ至リタリ。然レドモ千變萬化ハ時世ノ然ラシムルトコロ亦如何トモスベカラズ。追年之ヲ失シテ漸ク今日ノ國境ヲ固ムルニ至リタリ。蓋シ獨逸ハ一千六百四十八年邦土ヲ數割シテ各々之ニ國王ヲ置キ、以テ分割スルトコロトナレリ。而シテ其國王ハ各々幾分ノ所有地及ビ他ノ收アリテ王家ノ費用ニ供セシモノナリシト雖モ、其所有物ハ國王一個ノ處財ニアラズ、一家族ノ共有ナレバ素ヨリ一個一人ニテ之ヲ消費スルコト能ハザルノミナラズ、其幾分ヲ國費ニ供スルノ義務アリ。

中古時代ニ於テハ國王タルベキモノハ國民ノ尊父、邦土ノ處有主ト思考セシモノナレバ、或ハ隨意ニ之ヲ領シ之ヲ所有スルヲ得タリシト雖モ、後世ニ至リテハ然ラズ、所謂國王ハ一ノ官吏ナレバ、素ヨリ國土ノ所有者ニアラザレバ、之ヲ領シ之ヲ所有スルモ亦一般人民ノ如クセザ

ルベカラズ。然レドモ勿論國民ハ最上長官タル國王ヲ保護スルノ義務アリトス。

昔時處領地ニ二種アリ。一ハ國王ニ屬シ一ハ國民ニ屬スルモノニシテ、國民ノ所有地ハ一朝其家族亡滅スルニ於テハ悉ク國王ニ返戻スベキノ制アリシ。蓋シ國王ハ其邦土ノ處有者タルノ故ヲ以テナルベシ。又外國ト開戰シ某地ヲ掠奪スルニ於テハ、人民忽チ其所有權ヲ失スルモノナリシモ、近世ニ於テハ然ラズ。例令其地ハ他國ニ掠奪セラル、ト雖モ、所有權ハ依然トシテ失スルコトナキモノトス。現ニ往年獨逸國佛國ト開戰シ、奪取セシノ地ニ於ケルガ如シ。

獨逸國ニ於テハ各國王ノ處有ニ歸スルトコロノモノハ素ト之レ均一タリシト雖モ、或ハ貧困ノ爲メ其ノ幾分ヲ賣却シ、或ハ富有ナルガ爲メ尙ホ其財ヲ増加スルガ如キニ因テ各自其富有ヲ異ニスルニ至リタリ。而シテ爰ニ二種ノ財庫アリ。王財國財之レナリ。甲ハ國王ノ私領地ヨリ收入シ、乙ハ人民ヨリ徵收スルモノナリトス。然ルニ特ニ多額ヲ要スルノ場合ニ於テハ王財ト云ヒ國財ト云フモ之ヲ追徵スルコトアリテ更ニ一定セザリシ。又國王貧困ナルニ於テハ其處領地ヲ自由ニ賣却シ得ルモノニシテ、之レガ爲メ收入減少セバ人民ニ命ジテ其費用ヲ徵收スルコトアリタリ。

爰ニ一話アリ、彼ノ猶太(ジウース)人ハ著シク世人ノ嫌避スルトコロニシテ、人之レト交際スルヲ好マザルハ勿論、之ヲ市府村里ニ入ル、ヲ欲セザレバ、妄リニ其國境ニ入ルニ於テハ

忽チ刀劍ノ難ヲ免ヌカレザルノ有様ナリ。然ルニ若干ノ保護金ヲ國王ニ納メ、其許諾ヲ得其保護ヲ得ルニ於テハ素ヨリ安泰ニ居住スルヲ得タリシ。故ニ間々貧困ナル國王ハ某一府一村ヲ限リテ彼ノ猶太人ノ移住ヲ許シ、其保護金ノ收入ヲ以テ王家ノ費用ニ供シタルコトアリ（猶太人ハ必ズ左腕ニ黄糸ノ小切レヲ附シテ其ノ族ヲ明示スルコトアリ）

左ニ第十五世紀ヨリ第十七世紀即チ一千四百十五年ヨリ一千六百四年ニ至ルノ經歷ヲ述ントス。彼ノ獨逸國「マーク、ブランデンバーク」ト稱スルノ地ハ抑モ普魯士國ノ元起ニシテ、其「マークレーブ」即チ國王ハ當時甚ダ富有ノ聞ヘアリ。然ルニ該地ハ東西ニ戦望ノ民アリ、其中央ニ占位スル要害ノ地ナレバ國王殊ニ其國境ヲ固守スルコト厚カリシ、蓋獨逸國今帝ノ祖先ハ「フーンソラン」ト云フトコロヨリ起因セシモノニシテ、該地ノ人民ハ常ニ該王ヲ慕フノ念厚ク如何シテカ再ビ其地ニ居住シ賜フヲ渴望シ、王若シ金ヲ要スル等ノコトアレバ、其地方ノ人民忽チ徵集ニ應ジテ巨額ノ金圓ヲ寄附スルコト多シ。現ニ第十五世紀ノ初年ニ在位セラレタル國王著シク貧迫ナリシ時モ四十萬「ドカツ」ノ金ヲ納メタリ。夫レ如斯該地方ノ人民特ニ王ヲ追慕スルコト厚カリシト雖モ、王ハ「マーク、ブランデンバーク」ノ要地ナルト、收入ノ多カリシトヲ以テ容易ニ之ヲ去ルコト能ハザリシ。扱中時代未ダ野蠻ノ範圍ヲ脱セザルノ邦土ニ於テハ、國土タルベキモノハ例令人民ノ所財ト雖モ（素ト之レ國王ノ所領ナル意ヲ以テナルベシ）

其ノ欲スルニ任セ之ヲ所領スルヲ得タリシト雖モ、獨逸國ニ於テハ大古ヨリシテ未ダ其例ヲ開カズ。

當世代ニ於テハ國王ノ所財三アリ、一ハ國王私領地ヨリノ收入、二ハ國民ヨリ徵收スル河水税山林税「タイセス」（天產物十分一ノ税ヲ云フ）及ビ「リーガル」（國王ノ私財ニ係ルモノニシテ王ニアラザレバ所有スルコト能ハザル工業等ヲ云フ）三ハ直税及ビ間税之レナリ。

國王ノ領地ハ元來自ラ購得シ、或ハ人民ヨリ呈納セシモノニシテ、全ク國王ノ私有ニ歸スベキモノナレバ、又一般人民ノ所有ト均シク其村規ニ隨ハザルベカラザルモノトス。然レドモ爰ニ人民ノ所財ト少シク異ナルトコロアリ、國王ノ所領地ヨリ收入スルトコロノモノハ悉ク王家ノ爲メニ消費スルコト能ハズ、其幾分ヲ必ズ國費ニ充ツベキコトアリシ、然ルヲ當時更ニ制限ナキヲ以テ國王擅ニ之ヲ賣却シ、或ハ典當スルヲ得タリシガ故ニ、漸ク之ヲ失シ、其收入減少スルヨリシテ大ニ貧迫ニ陥リ、爲メニ臣下ニ乞フテ募金スルコト屢々ナルニ至リタリ。因テ政府國王ニ迫リ、以來其所領地ヲ擅ニ賣却シ若クハ典當セラレズンバ其募金ニ應ゼンコトヲ約シ二千五百四十三年「ジエームス」第二世ノ政代以來國王ノ所領地ハ國民ノ承諾ヲ得ルニアラズンバ賣却スル等ノコトナカラシムルニ至リタリ。

概言スレバ普魯士國ハ至ルトコロ砂地瘦衰タルノ地ナレバ到底穀作ニ適セザリシガ故ニ、中

古時代王領ノ地ニハ主ニ牧羊ヲ營ミ、且總テ通船スベキノ大河ハ王領ナレバ、之レニ水車ヲ架シテ一業ヲ起シ、王室歳入ノ一部ヲナセリ。現ニ伯林府ノ近傍ニ於テハ尙ホ一大水車ノ遺跡アルヲ見ル。當時勿論王領タル大河ニ人民猥リニ水車ヲ架設スルコト能ハザレバ、其業殆ンド王室專有ノ有様トナリタリ。

獨逸國ニ於テハ著大ナル山林ハ多クハ王領ナリ。之レ蓋シ國王昔シヨリシテ能ク獸獵ヲ嗜マレ、且山林ハ其地景上ヨリスルモ最モ須要ナレバナリ。此王領タル山林ハ農場ト均シク看守人ヲ配置シ、素ヨリ官吏ノ資格ヲ以テ之レヲ處理セシメタリ。未ダ第十五世紀ノ頃ヒハ管ニ山林ノミナラズ、農場ノ收入支出ニ至ルマデ全ク其管理者ニ委任シ更ニ之ヲ監督スルノ法ナク、國王モ亦其歳入ヲ領スルヤ、名ハ嚴然其一部ヲ國費ニ充テザルベカラザリシモ、或ハ有名無實ノ有様ニシテ、寔ニ漫然タリシモ「ジエームス」第一世ノ御代ニ於テ、其收入ヲ正然二分シテ一部ヲ國費ニ充ツルコトトナシ、第十六世紀ニ至リ各王領地ヲ總括監督スベキ長官ヲ設ケ時々巡回點檢セシムルコトトセリ。

爰ニ又國王ノ所財タルベキモノ三アリ。造幣鑛山及ビ關稅之レナリ。抑モ造幣ノ業タル最大ノ王領ニシテ、各邦ノ國王各自異ナルノ貨幣ヲ鑄造セシヲ以テ、獨逸國中五十六種ノ貨幣アリシ。當時「ブランデンバーク」ノ外、決シテ他邦ノ貨幣ヲ其境内ニ入ル、ヲ禁ゼリ。如斯ナレ

バ各主大ナル市府ニハ一ノ造幣場アリ、各々監督者及ビ管理者ヲシテ之ヲ所管セシメタリ。

王領タル鑛山ハ唯々食鹽鑛及ビ硝石鑛タリシ。但食鹽鑛ト雖モ其收獲内地ノ使用ニ充ツルニ足ラザレバ、素ヨリ外國ヨリ其輸入ヲ仰ガザルベカラザリシガ、其輸入スルトコロノ食鹽モ亦悉ク王ノ專賣スルトコロナリ、又硝石ノ王領タルハ勿論、之ヲ以テ製スルトコロノ物品、例令バ硝子火藥ニ至ルマデ皆ナ國王ノ專領セラル、トコロナリ。且ツ硝子ノ如キハ全ク外國ヨリ輸入スルヲ禁ジタリ。

關稅ハ他邦ヨリ輸入スル商品ニ賦課スルモノニシテ、物品ノ如何ヲ問ハズ一槽ニ付キ若干ノ稅ヲ徵集セリ。之レガ爲メ各大河ニ連接スル市府ニハ一ノ稅關ヲ設ケ、官吏ヲシテ其事務ヲ掌ラシメタリ。然レドモ未ダ中古ノコトナレバ勿論他邦ヨリ輸入スルモノ僅少タレバ、其關稅モ亦尠少ナリ。但貴族ノ荷物ハ免稅スルノ制アリ。

民稅ノ法ハ漸ク中古ノ末年ヨリ創リタルモノニシテ、爰ニ二種ノ稅アリ。直稅及間稅之レナリ。直稅トハ人民直チニ自己ノ金囊ヨリ支出スルモノニシテ、例之ハ地稅等ヲ云ヒ、間稅トハ間接ニ支出スルモノニシテ、例之ハ酒稅煙草稅ノ如キモノヲ云フ。而シテ人民其費用ヲ負擔スベキモノ三アリ。第一、國王及皇族ノ費用、第二、戰亂ニ際シ僧及貴族ヲ保護スルノ費用、第三、皇女ノ縁組費之レナリ。

第十六世紀ニ於テハ戶數割稅ナルモノヲ設ケ、各邦人口ニ應ジテ若干ノ金ヲ分割徵收セリ。其金額ハ各邦ノ協議ヲ經テ定ムルモノナリ。

一千二百八十年及ビ一千二百八十一年ノ間ニ於テ、創メテ人民所有スルコロノ地積財産ニ應ジテ確然タル租稅法ヲ定メタリ。爾來臨時ニ要スルコロノ費額ハ所用ノ主意ヲ辯明シ、國民ノ協議ヲ經テ徵收スルコトトナレリ。蓋シ一千四百七十二年「ホマレンガー」ト開戦スルニ際シ、拾萬「ギルデン」ヲ國民ヨリ募集セシコトアリ。内五萬八千「ギルデン」ヲ人民ヨリ納メ、四萬二千「ギルデン」ヲ貴族ヨリ出金セリ。如斯場合ニ於テハ其市府村里中最モ上位ニアルノ貴族ハ常ニ其負擔ヲ免カル、ノ慣習アリ。實ニ近年迄ハ總テ高位ノ貴族ハ彼ノ徵兵ノ責任ヲ免ズルノ慣行アリ。

第十六世紀ノ末年ニ至リテハ大ニ税金使用ノ途ヲ一變シ、必ズ之ヲ公債償還ニノミ使用シ、決シテ目下ノ費用ニ充テザルコトトセリ。蓋シ其金額ハ國王ノ爲メニ費スコト多カリシ。

以上述ブルコロノ直稅ハ未ダ以テ其費ニ充ツルニ足ラザリシヲ以テ、一千四百六十七年始メテ間稅タル麥酒ノ稅則ヲ設ケタリ。然ルニ之ヲ實施スルニ當リテハ國民ノ承諾ヲ得、且之ヲ施行スベキ年限ヲ議定セザルベカラザルモノナリ（間稅ハ例令バ國王ト雖モ免カルベカラザルモノナリシト雖モ、直稅ニ至リテハ素ヨリ國王ニ課スベキモノニアラズ）當時七ケ年間其稅法

ヲ實施スルノ決議ヲ得、尙ホ其期限ヲ延長センコトヲ試ミタリシモ終ニ承諾ヲ得ルコト能ハザリシ。（僧及ビ貴族自ラ麥酒ヲ釀造シテ其飲料ニ供スルハ免稅スルノ制アリ）此税金ヲ徵集スルノ法ハ釀造スルノ前、收稅官ニ其製造高ヲ開申シテ之レニ應ズルノ税金ヲ納メ、以テ鑑札ヲ受クルコトアリ。而シテ粉車ヲ業トスルモノハ其鑑札ヲ所持セザルモノノ麥ヲ粉碎シ、或ハ其鑑札ニ記スルコロノ量ヲ超ヘ粉碎スルヲ禁ジタリ。蓋シ釀造者ト粉車ヲ業トスルモノハ自ラ別業ナレバナリ。

一千五百四十九年國費ノ爲メニ再ビ麥酒稅ヲ設ケ、九ケ年間實施スルノ決議ヲ得タリ。爾來屢々時ヲ限リ其稅則ヲ設ケタリシガ、終ニ確然永久タルノ稅法トハナレリ。

當時爰ニ三種ノ稅法アリ、一ハ市府ヨリ納ムルノ税金ニシテ、都府ニ俸仕スル官吏ノ爲メニ消費シ、二ハ地稅ニシテ國王ノ爲メニ消費シ、三ハ麥酒稅ニシテ國王及府知事ノ爲メニ消費スルモノナリ。然ルニ此ノ三稅ノ費途ハ何レモ其目的ヲ同ジ唯々公債ヲ償還スルノ一途ニ供セリ。一千六百四年ヨリ一千七百十三年ノ間ニ於テハ、王室ニ二種ノ收入アリ「リーガル」及ビ麥酒稅之レナリ。抑モ國王ノ所領地ハ素ヨリ私有ニ歸スベキモノナレバ、其收入ヲ悉ク自家ノ費用ニ充ツベキハ勿論、例之賣却スルモ其所有主タル國王ノ隨意タルベキヲ、一千六百五十二年政府約シテ自由ニ之ヲ賣却シ若クハ他人ニ讓與シ或ハ擅ニ典當スル等ノコトナカラシムルニ

至リ、既ニ賣却シ若クハ典當セシ領地ヲ五千乃至一萬「ターレル」ニテ悉ク買ヒ戻シタリ。然ラバ其領地ハ素ヨリ國王ノ所有ナリト雖ドモ、人民ノ所財トハ少シク異ナルトコロアリ。其收入幾分ヲ國費ニ充ツルノ義務アリシ。彼ノ賢明多才ノ聞ヘアル「フレデリック、ウキリアム」第一世ノ御代ニ於テハ大ニ王領地ノ管理法ヲ改メ、各地ニ官吏ヲ派遣シテ之ヲ所理セシメタリ。一千六百四十年及ビ一千六百八十八年ノ間在位セラレタル「グレット、エレクター」即チ「フレデリック、ウキリアム」ハ尙ホ王領地ニ改良ヲ加ヘ、全ク前法ヲ廢シテ爾來三年若クハ六年ヲ期シテ小作人ヲ配置スルコトトセリ。之レ蓋シ官吏ハ唯々俸給ニ對スルノ義務ヲ以テ務ムル者ナレバ、到底著シキ領地ノ改良期スルコト能ハザルヲ悟リタルガ故ナリ。然レドモ此小作人ノ年限タル餘リ短ナルニ失シタルガ故ニ、地質ノ瘦衰スルヲ顧ミズ充分ノ肥料ヲ施サズシテ頻リニ下種栽培スルノ弊害アルヲ免カレザリシ。

一千七百一年「フレデリック」第一世王領地ノ監督者タル「ミニスター、ルーベジ」ノ諫言ニ因テ大ニ其ノ立法ヲ改メ、小作法有期ヲ廢シテ永住借地人（「フヒー、フワーマー」）ヲ置クコトトナシ、茲ニ屬スルトコロノ農具ハ勿論家畜ニ至ルマデ悉ク賣却セリ。故ニ一時ハ巨額ノ收入アリシト雖ドモ爾來大ニ歳入減少シ更ニ好結果ヲ呈セザリシ。

山林モ亦農場ト均シク國王ノ所領アリテ、其收入ハ單ニ國王消費スルコト能ハズ、其幾分ヲ

國費ニ供スルコトナリ。然ルニ山林ハ大ニ農場ト異ナリ、終始官吏ヲ以テ之ヲ所理セシメ、決シテ人民ニ貸與スル等ノコトナカリシ。蓋シ農場ノ管理法ニ至リテハ政府大ニ困難ヲ極メ、屢々其立法ヲ變ジ、或ハ官吏ヲ以テシ、或ハ定期小作人ヲ置キ、或ハ永住借地人ヲ配置スル等種々工夫ヲ凝シタルハ他ニアラズ、抑モ農場ハ山林ト異ナリ最モ管理ニ注意ヲ要シ、唯々其如何ニ因テ收穫ノ多少アルモノナレバナリ。夫レ當初ニ官吏ヲ各地ノ王領地ニ派遣シテ之ヲ處管セシメタリシモ、素ト之レ官吏ハ全ク義務ヲ以テナルモノナレバ、給料ニ應ジテ務メ、收穫僅少ナルモノハ其責メ薄ク、著シク勉務シテ其地ヲ饒豊タラシメ前年ニ倍スルノ收穫アルモ素ヨリ自己ノ利ナケレバ、其ノ勉ムルトコロ薄シ。因テ官吏ヲ廢シテ定期小作人ヲ置クトキハ其利其不利悉ク自己ノ頭上ニ蒙ルモノナレバ必ズ官吏ニ優ルモノナルベシト信ジ、三ケ年乃至六ケ年ヲ期シテ小作法ヲ實施セシモ、其年限ノ短ナリシガ爲メニ却テ大害ヲ招キタルニ至リタリ。之レ小作人ハ唯自己ノ利ヲ得ルニノミ汲々トシ、定期中可成的多量ノ收穫ヲ得ント欲シ、更ニ地ノ瘦衰スルヲ顧ミザルガ故ナリ。轉ジテ彼ノ永住借地法ヲ施セシモ亦歳入ノ減少セシノミナラズ更ニ好結果ヲ見ルコト能ハザリシ。

關稅ノ法ハ第十七世紀ノ初年ニ創リタルモノニシテ、其稅法終ニ間稅ノ性質トナリ、貢稅法變ジテ保護稅法トハナレリ。抑モ當ニ獨逸國ノミナラズ歐羅巴全國至ルトコロ米國及ビ印度ヨ

リ農産物輸入スルガ爲メニ著シク其地ノ農業上ニ妨害ヲ蒙ルハ世人ノ能ク知ルトコロナリ。夫レ米國ト云ヒ印度ト云フモ廣漠新開ノ地ニシテ、至ルトコロ廣原アリ、漠タル農場アリ、其地價ハ勿論雇給ニ至ルマデ歐羅巴地方ニ比スレバ大ニ廉ナレバ其收穫物モ亦廉價ナルハ論ヲ俟タズ。故ニ例之ヲ船ニ積ミ數千里ノ大洋ヲ超ヘテ遠隔タル地方ニ運送スルモ、其價格極メテ廉ナリトス。然ルヲ獨逸國ノ如ク主ニ農ヲ以テナルノ國土ニ於テ、自由ニ其輸入ヲ許ストキハ如何デカ内地ノ農民ハ其饑ヲ凌ギ利ヲ博スルヲ得シ。實ニ農ハ強兵ヲナスノ基本ナレバ、之ヲ保護スルガ爲メ如斯輸入物ニハ充分ノ稅ヲ課セザルベカラザルトハ彼ノ「ビスマーク」氏ノ持論ナリト。

右ノ理ニ基キ、第十七世紀ノ頃ヒ國內ノ關稅ヲ廢シ、唯ダ國境ニ之ヲ設ケテ嚴ニ輸出品ニ課稅セリ。如斯其稅則ヲ廢シ、之ヲ設クル等ハ素ヨリ國會（一千八百四十八年始メテ開設セリ）ノ議決ニ因ラザルベカラズト雖ドモ、獨逸國ノ國會ハ大ニ英國等ノ國會ト異ナリ、國王大ニ權カヲ有スレバ、國王ヨリ下賜セラレタル原案ニ反對スルコト寔トニ稀ナリト。造幣ノ業タル素ヨリ「リーガル」ナレバ、人民猥リニ之ヲ開設スルコト能ハズト雖ドモ、戰亂等ノ場合ニ於テハ一時其期ヲ限り、且ツ政府會テ定ムルトコロノ和合比例ヲ以テ鑄造スルヲ依托セシコトアリ。食鹽穿鑛ノ業モ亦「リーガル」ニシテ全ク王室專有ノ有様ナリシモ、終ニ之ヲ廢シテ直稅ト

セリ。

租稅ハ元來三種ナリシモ漸次一項ヲ加ヘ、又一項ヲ追加シテ終ニ五種トナセリ。即チ其ノ初年ニ於テハ國民ノ負擔スベキモノ三アリ、第一、王室費ノ缺乏、第二、國民ノ一致ヲ得テ開キタル戰爭費、第三、皇女婚姻ノ進物之レナリ。然ルニ後年ニ至リテ之ニ第四ナル國稅ヲ加フ。之レ特別ナル開戰ニ要スルノ費用ニシテ、往年「トルコ」ト開戰セシガ如ク、又第十六世紀及第十七世紀ニ於テ伊太利ト開戰セシガ如キ場合ニ於テ要スルトコロノ費用之レナリ。以上ノ費目ハ國民決シテ其出金ヲ拒ムコト能ハズト雖ドモ、其金額ハ國會ノ協議ヲ得ルモノトス。一千六百五十四年始メテ防禦稅（各王國互ニ外國ヨリノ侵襲ヲ防護スルノ費用）ヲ設ケタリ。此稅ハ貴族僧及ビ中央政府ノ官吏ハ全ク免稅スルノ制ナリ。

一千六百六十七年「エキサイス」（日用物品ニ課スルノ稅）ヲ主大ナル市府ニ設ケ、飲料、麵包、肉類畜牛及ビ食鹽等ニ課稅セリ。蓋シ食鹽ハ「ブツセル」ニ付四「ペニツヒ」ノ稅ヲ、下種スベキ穀物ハ「ブツシエル」ニ付一「ペニツヒ」ノ稅ヲ徵集セリ。後チ終ニ各食品ニ課稅スルニ至リタリ。此時ニ於ケルモ尙ホ未ダ舊稅法ヲ遺存スルノ地方アリシト雖ドモ、當世紀ノ末年ニ於テハ之ヲ全廢シテ各地ニ「エキサイス」ノ稅法ヲ布設スルニ至リタリ。

一千六百十九年及ビ一千七百十年ノ間ニ於テ人口稅ヲ設ケ、一千六百九十八年始メテ車稅ヲ

布設シ、一千七百四年全國一般消耗及備品ニ課税スルコトナリ、何人タリトモ靴ヲ穿テ靴下ヲ用ユル者必ズ一「ベニツヒ」ヲ納メシメ、又何人タリトモ茶若クハ「チヨコレート」ヲ飲用スルモノハ毎年必ズ六「マーク」ヲ拂ハシメ、金銀細工ノ裝飾ヲ用ユルモノハ毎歲三「マーク」ヲ收メシムルノ制ナリ。

一千六百八十二年一種ノ證券印紙ヲ發行セリ。之レ蓋シ家宅ヲ賣買シ地面ヲ讓リ渡ス等必ズ此印紙ニ認ムルコトナシ、以テ之ニ課税セリ。而シテ第十六世紀ノ半ニ於テ始メテ郵便ノ「リール」ヲ設ケタリ。但往年ヨリシテ既ニ羅馬國ノ如キニ於テハ公用ヲ便スル爲メ恰モ郵便ノ如キ設ケアリ。獨逸國ニ於ケルモ「チャールス、ジ、グレート」ノ御代ニ於テハ一種ノ郵便法ヲ設ケ、其國境ニ住スル國王ニ時々通信スル等ノコトアリシト雖ドモ、之レ全ク公用ヲ便ズルノミニシテ、決シテ人民ノ用ヲ便ズルノ途ナカリシ。扱テ獨逸國ニ於テ公信ハ勿論人民ノ私信ニ至ルマデ郵送スルノ法ヲ設ケタル初年ノ頃ヒハ、總テ官吏ノ信書、其公用ト私用トヲ問ハズ無税ナリシガ、其税今時ニ比スレバ高價ナリシヲ以テ、人多クハ官吏ノ名ヲ借リテ之ヲ郵送スルノ弊害アリシヲ以テ、其收入隨テ僅少ナリ。然レドモ當時ノ國王ハ郵便税ノ爲メ富ミタルモノ多カリシト（此時代ニ於テハ素ヨリ鐵道ノ設ケナケレバ信書ヲ傳送スルモ悉ク馬車ヲ以テセリ。）

一千七百十三年ヨリ一千七百四十年ノ間在位セラレタル「フレデリック、ウキリアム」第一世ハ王領地ニ大改革ヲ施セリ。蓋シ此時迄ハ名ハ國王ノ所有財産ナリシト雖ドモ、其實ハ半私半公ニシテ境界寔ニ判明ナラザリシ。然ルニ該王ハ自ラ農事ノ道ヲ嗜ミ其道ニ明カナリシガ故ニ、大ニ之ヲ改メ一千七百十三年八月三日其領地ノ私有ト公有トヲ問ハズ、又先代ノ之ヲ購求セシヤ否ニ係ラズ悉ク之ヲ政府ノ所有トセリ。然ラバ國王ト雖ドモ擅ニ之ヲ賣却シ若クハ失スルコト能ハザルハ勿論ナリトス。

如斯「フレデリック、ウキリアム」第一世ハ先代ヨリ連々世襲セシ領ヲ到底自ラ所有スルノ不利ナルヲ悟リ、一朝奮テ悉ク之ヲ國有ニ歸セリ。然レドモ元來王家ハ其收入ヲ以テ専ラ其費用ニ供シ來リタルモノナレバ、素ヨリ之ヲ供給スルノ途ナキニ至リタレバ、政府ト約シテ毎年五萬二千「ターレル」ヲ領收スル事トセリ。蓋シ之ヲ十二ヶ月ニ分割シ毎月其定額ヲ王室ノ會計課ニ收ムルコトトナリ、爾來王領地ハ變ジテ官有地トナルニ至リタリ。

王領地ノ官有ニ歸シタル以來、其貸與法ハ依然トシテ永住借地法ヲ固守セシト雖ドモ、此法タル素ヨリ完備セシモノニアラザレバ、忽チ之ヲ廢シテ三年乃至六年ヲ限り小作人ヲ置クコトトセザ。然レドモ亦以テ好結果ヲ呈セザリシガ、一千七百二十七年之ヲ改メテ總請負債借地人「ゼネラル、テナント」（數多ノ農場ヲ資本正シキ一人ノ農者ニ貸與シ、其農者ハ之ヲ數割

シテ種々ノ小作人ヲ設クルヲ云フ)ヲ設クルコトトナシ、政府大ニ之ヲ保護スルトコロアリ、但總テ騎兵ニ要スルトコロノ乾草麥等ハ悉ク此請負人ヨリ購求スルコトトナシ、穀類ヲ粉碎スル等モ亦其粉車ニ於テナスコトトセリ。而シテ請負人ノ資格ハ正然タル中央官吏ニシテ「ロード、リウテナント」ト同格ノ地位ニアリ、傍ラ農場内ニ居住スル人民ヲ管理スルノ役ナリ。

此請負人ハ其農場ヲ適宜ニ區畫シテ適當ナル小作人ヲ配置シ、宜シク下種栽培スル等ハ素ヨリ自任スルノ權ニアリト雖ドモ、充分ナル肥料ヲ施シテ地ヲ豊饒ナラシムル等ハ又政府ニ盡ストコロノ責任ナリトス。而シテ其農場ニ於テ收穫セシ藁ハ決シテ賣却スルコト能ハザルモノナリ。之レ其肥料ニ供セザルベカラザレバナリ、蓋シ地方廳ヨリハ時々官吏ヲ農場ニ派遣シテ管理ノ如何ヲ檢セシム。

農場ニ要スルトコロノ家屋ヲ新築シ、或ハ之ヲ修繕スル等ハ諸負人ヨリノ請求ニ依リ政府其費用ヲ負擔スト雖ドモ、決シテ請負人ヨリ納ムベキ金額ノ内ヲ以テ其費ニ充ツルコト能ハズ。其費用ハ別ニ政府ヨリ支出シ收納金ハ定期ニ納メシムルモノトス。之レ蓋シ弊害ノアルヲ恐レテナリ。而シテ新築修繕ハ必ず官吏ヲ派遣シテ其位置計畫ヲ定メシムルモノト雖ドモ多額ノ費用ヲ要スルノ場合ニ於テハ決シテ下等官吏ニ之ヲ委ヌルコトナク、必ず上等官ヲシテ之ヲ檢案

セシム。之レ家屋ヲ建設スル等ハ其位置計畫ノ宜シキヲ得ズンバ、後來ニ至リ損害不便ヲ訴フルコト尠ナカラザレバナリ。當時八千「マーク」以上ノ費用ヲ要スルノ新築修繕ハ必ず上等官吏ヲシテ實視セシムルノ制ナリ。

山林ハ舊來ノ如ク依然トシテ其法ヲ變ゼズ、國王ハ爰ニ於テ専ラ遊獵セラレタリ。蓋シ國王及ビ貴族タルベキモノハ單ニ遊戯ヲ事トセズ、實ニ武門ノ一ナレバ獵獸ヲナサルベカラザルノ有様ナリ。

一千七百二十年恰モ農場ニ於ケルガ如ク一大改革ヲ施シ、其弊習ヲ矯正セリ。但樹木ハ地方廳ノ命ナクンバ素ヨリ賣却スルコト能ハズ。之ヲ賣却スルニ當テハ看守長其定格ヲ豫定シ、上官立合ノ上公賣スルコトトナシ、賣價ノ大ナルモノハ直チニ之ヲ地方廳ニ納メ其小ナルモノハ之ヲ國有農場ノ支配人ニ納ムルコトトセリ。蓋シ山林ノ會計ハ農場ノ支配人擔任スレバナリ、如斯其賣却法ヲ改メタルハ素ト官吏ナルモノハ何レモ薄給ノモノナレバ間々不正ノ處爲アリテ常ニ其收入僅少ナレバ斷然其法ヲ改メ且ツ大ニ官吏ノ給料ヲ増加セリ。

「リーガル」王領中毎歲最モ多額ノ收入アルハ水稅ナリ。爰ニ二種ノ水稅アリ。一ハ河稅ニシテ船舟通行ノ稅ヲ課シ、他ハ港稅ニシテ艦船ノ入港スルモノニ稅ヲ課セリ。蓋シ課稅スルノ大河六アリ、港六アリシ。當時西部地方ニ於テハ既ニ内地ノ關稅ヲ廢シ、唯水稅ノミヲ施行セシ

モ未ダ東部地方ニ於テハ之ヲ變ズルノ期ニ達セザリシ、之レ西部地方ノ常ニ東部地方ニ比スレバ開明ノ進度速カナリシヲ推知スルニ足ルベシ。然レドモ課税ノ目的ニ至テハ兩ナガラ一ナリ、單ニ國產ヲ保護スルノ主意ナリ。

堀礦「リーガル」ハ往時ト更ニ異ナルコトナシ。食鹽ハ國內專賣ノ目的ヲ以テ猥リニ外國ヨリ輸入スルヲ禁ジタリ。國王ノ主意ハ本邦ニ於テハ國民ノ供給ニ足ルベキ鹽礦アリ、何ゾ外國ヨリ之ヲ仰グニ及バザルベシト、因テ一令ヲ下シ國民タルベキモノハ每歲必ズ其量ノ食鹽ヲ消費スルノ義務アルモノトシ、人民必ズ一小冊子ヲ携ヘ之レニ其消費セシ鹽量ヲ記入シテ時々官吏ノ檢視ヲ受ケタリシト。

王室歳入ノ第三部ハ彼ノ直税トス。抑モ直税ナルモノハ往年ハ種々免税スベキモノアリテ更ニ一定セザリシガ、一千七百十四年始メテ之ヲ一般ニ賦課スルコトトナシ、其税二三ノ市府ニ止マルモノアリシモ亦之ヲ一般ノ市府ニ施スコトトセリ。而シテ後年ニ至リテ又二種ノ税法ヲ設ケタリ。一ハ定税他ハ不定税之レナリ。定税ナルモノハ各自所有スルトコロノ地積歳入ニ應ジテ徵收シ、不定税ハ所謂人口税ニシテ王室若クハ貴族ニ屬スルノ市府村里ヲ問ハズ悉ク其税ヲ課シ、更ニ免税スルトコロナカリシモ其税金消費ノ法ニ至リテハ往時ハ國民殆ンド其金權ヲ掌握セシモ、當時ニ至リテハ國王却テ其權ヲ握ルニ至リタリ。

當世紀ノ半ニ於テハ國民各々騎兵ニ要スルトコロノ物品ヲ供給スルノ義務ヲ負擔セリ。故ニ每歲兵馬ノ食料等ヲ現品ニテ收納セリ。然ルニ一千七百十七年十一月一日兵營ヲ村里ヨリ都府ニ移シテ以來、現品ニ代フルニ價金ヲ納ムル事トナリ、以テ騎兵定税及騎兵不定税ノ二項ヲ加ヘタリ。蓋シ貴族タルベキモノハ其身分ニ應ジ騎兵ノ爲メニ每歲若干ノ金額（馬一頭ニ付四十「ターレル」ノ割）ヲ收メザルベカラザルノ義務アレバ、素ヨリ其税ヲ免ズル事アリ、但往時ハ之レニ代フルニ若干ノ兵員及ビ馬匹ヲ出スノ制アリ。

（間税）既ニ述ブルガ如ク間税ナルモノハ商人及製造場等ニ於テ直チニ其税金ヲ政府ニ納メ、後チ之ヲ其要求者ニ配當スルモノナレバ其税法タル直接ニアラズシテ全ク間接ナリトス。

麥酒税ハ一千五百七十二年始メテ布設シ、既ニ釀造セシ麥酒ノ量ニ因テ課税スルニアラズ、釀母ノ量ニ因ルモノニシテ、八「ブツセル」ニ付六「ベニツヒ」ヲ徵收シ、之ヲ王室ノ財庫ニ納メタリ。當時政府ニ二種ノ財庫アリ、一ハ王室財庫他ハ軍庫之レナリ。王室財庫ハ勿論國王ノ費用ニ供スルモノナリ。

一千六百十八年及ビ一千六百四十八年ノ間、歐巴大陸中宗教ノ爲メニ一大戦争起リ、著シク人民ヲ失ヒタリ。獨逸國ニ於ケルモ亦殆ンド人口ノ半バヲ失スルニ至リ邦土大ニ瘦弊ヲ極メ、王室隨テ貧迫シタレバ一種ノ税則ヲ設ケ、各收穫物一「ブツセル」毎ニ一「ベツク」ナル現品

ヲ納ムル事トセリ、爾來其現品ヲ價金ニ改メ「ベック」ニ代フルニ「ペンニツヒ」ヲ收メシメタリ。其税金ハ元來國庫ニ納メタリシモ後チ王室ノ財庫ニ入ルニ至レリ。而シテ此稅則タル更ニ土質ノ如何ヲ問ハズ全國一般ニ施設セシノミナラズ、終ニハ農事ノ業ヲ營マザル市民ニ至ルニテ負擔セザルベカラザルコトナレリ。然レドモ貴族僧侶及ビ學校教員ハ此稅ヲ免ヌガレタリ。

「エキサイス」ナル稅法ハ既ニ前述セシガ如ク元來某二三ノ市府ニ限り施設セシト雖ドモ、後チ全國一般ニ之ヲ施シ縱令國王ト雖ドモ免稅セザルニ至リタリ。此稅法タル素ヨリ數回ノ改革ヲ遂ゲタリシト雖ドモ、目的ニ至リテハ常ニ同一徹ニ出デ、國產ヲ保護シ外國品ヲ擯斥スルノ主意ニ外ナラザルナリ。故ニ課稅スベキモノハ麥酒「ブランデー」葡萄酒、小麥、大麥、燕麥「バター」及ビ「チース」等ナリ。而シテ其稅ヲ徵收スルノ法ハ各都府ハ必ず壁ヲ以テ周圍シ、五個若クハ六個ノ市門アリテ各々之レニ門吏アレバ、爰ニ於テ市壁内ニ輸入スルノ荷物ヲ検査シ以テ稅ヲ徵收セリ。其收稅本局ハ普魯西國ノ中央ニ設置シ以テ税金ヲ各門吏ヨリ集ムルコトアリ。蓋シ門吏タルベキモノハ讀書習字及ビ算術ヲ能クスルモノニ限ルトアリ。以テ第十八世紀ノ初年ニ於テハ未ダ學術ノ盛ニナラザルヲ推知スルニ足ルベシ。

一千七百十二年「フレデリック、ウイリアム」第一世始メテ會計ノ検査法ヲ設ケ、當初ハ全

ク王室財庫ノ目的ナレバ國王自ラ其適任者ヲ撰拔シテ其任ニ充テ、時々地方ヲ巡廻セシメ、七周ニシテ同一ノ場所ニ再回セシメタリ。後チ終ニ一ノ検査局ヲ設ケ、善ク會計ノ事務ヲ鑑査セシムルコトトナリ、該局ハ全ク獨立一己ノモノニシテ中央政府ト地方廳ノ間ニ立チ、嚴ニ之ヲ検査セリ。一千七百二十二年王室及ビ軍部ノ會計ヲ區分セリ。當年代ノ頃ヒ旅行稅ナルモノヲ始メテ「ブランデンバーク」州ニ限り布設セリ。蓋シ該州ハ伯林府ニ接近スルノ故ヲ以テ官吏公用ノ爲メ屢々往復スルコトアレバ、其費用ヲ人民ニ負擔セシメタリ。此稅法後チ伯林府近傍ノ諸州ニ施シ漸次全國ニ及ボスニ至リタリ。

證券印紙ハ當年代ニ至ルモ更ニ異ナルトコロナシ。費用ノ數及ビ税金ノ額ハ勿論増加セリ。

一千七百十四年始メテ「プレー、カード」即チ骨牌ノ稅ヲ設ク。

「グレート、エレクトター」ノ政代ハ著シク費用ヲ要スルコト多クアリシヲ以テ、一種官吏登用稅ノ如キモノヲ設ケ、人官途ニ就クニ於テハ、等級ノ如何ヲ問ハズ給料ノ多少ヲ論ゼズ、必ず若干ノ金員ヲ納メシムルコトトセリ。

一千七百二十二年以來「フレデリック、ウイリアム」第一世ハ此法ヲ改メ官吏ノ等級給料ニ應ジテ納金セシムルコトトセリ。然ルニ其弊積ンデ大害ヲ醸スニ至リ、恰モ官途ニ就クハ入札法ニ等シキ有様トナリ、小利ヲ搏セント欲シ却テ巨利ヲ失スルノ傾向アルニ至リタリ。夫レ獨

逸國ノ官吏ハ概シテ貧困ノモノ多ク、單ニ其給料ヲ以テ自家ノ生計ヲ營ムノ状態ナルニ、多額ノ金員ヲ投ゼザレバ官途ニ登ルコト能ハザレバ、或ハ一時他人ヨリ其納金ヲ借リテ漸ク志望ヲ全フスルモ素ヨリ富有ノモノニアラザレバ貧、益々貧トナリ、我が生計ノ困難ナルヨリシテ知ラズ識ラズ不正ノ所爲アルニ至リタリ。但此稅ヲ課スルハ唯文官ノミナリ。

郵便稅ハ當年代ニ於ケルモ著大ナル異狀ナシ。未ダ其稅金ハ直接ニ王室ノ財庫ニ收入セリ。然レドモ一千七百十三年ニ至リテハ大ニ其性質ヲ變ジ、恰モ貢稅ノ有様トハナレリ。

會計檢査ノ法タル、素ヨリ英國佛國等ニ於テハ既ニ實施セリト雖ドモ、彼ノ「フレデリックウイリアム」第一世ハ其法ヲ採リテ大ニ改良シ、之ヲ國內ニ施セリ。爾來今日ニ至ル迄聊カ改良セシトコロアリト雖ドモ尙ホ依然トシテ實施スルトコロナリ。

(官有農場) 當年代ニ於ケルモ尙ホ王領地ハ依然トシテ官有ニ歸シ、國王ハ每歲一定ノ費額ヲ國庫ヨリ領收セリ。其管理法モ亦往年ノ如ク請負人ニ托シタリ。而シテ一千七百七十四年ニ於テハ官有農場ノ數四百十五個所アリ多クハ普魯士國ニアリ。

(山林) 山林ハ前年代ト更ニ異ナルトコロナシ。

(リীগアル) 及ビ專賣) 掘礦「リীগアル」ハ當年代ニ於テハ全ク人民ノ手ニ歸セリ。

煙草ノ專賣法ハ第十八世紀ノ初年ニ於テハ殆ンド歐巴各國ニ行ハレシトコロナリシガ、獨逸

國ニ於テハ一千七百六十五年始メテ普魯士國ニ此ノ法ヲ設ケ、當初ハ一人ノ佛人ニ其權ヲ與ヘ每歲百十一萬「ターレル」ノ專賣料ヲ納メシメタリ。然レドモ微力ナルヨリシテ長ク之ヲ持續スルコト能ハズ、終ニ十人ノ有力者協同一致シテ一社ヲ設ケ以テ其專賣權ヲ得タリシモ亦久シク之ヲ保持スルコト能ハザレバ終ニ政府自ラ之ヲ施スニ至リタリ。

「コフヒー」ノ專賣法ハ一千七百八十一年始メテ設ケタルモノニシテ、每歲五十七萬四千「ターレル」ノ專賣料ヲ納メシメタリ。然ルニ「コフヒー」ハ全ク獨逸國ニ於テ栽培スルコト能ハズ、勿論他國ヨリ其輸入ヲ仰ガザルベカラザルモノナレバ其效極メテ薄カリシ。

(搖會) 搖會ノ法ハ一千七百六十三年始メテ「イタリア」人ニ由テ獨逸ヘ入レタルモノニシテ亦專賣ノ法ナリ。

磁器ハ昔シ多ク支那ヨリ輸入セシモノニシテ、人之ヲ珍重スレバ隨テ其價格モ不廉ナリシガ、誰レアリテ之ヲ製スルノ道ヲ知ルモノナカリシ。然ルニ終ニ獨逸國ニ於テ其祕術ヲ發見シ、容易ニ之ヲ製スルヲ得ルニ至リタリ。再來其專賣法ヲ設ケ每歲二十二萬五千「ターレル」ノ專賣料ヲ納メシメタリ。

一千七百八十五年薪ノ專賣法ヲ西部地方ニ施シタリ。

郵便「リীগアル」ハ一千七百八十二年大ニ改革ヲ施シ、更ニ免稅スルモノナキニ至リ、私ニ

信書物品ヲ運送スルモノハ嚴罰ニ處スルノ制ナリ。

(直税) 一千七百四十八年「マークレーブ」ヨリ毎歲五千「ターレル」ノ金ヲ納メシムル一種ノ税法ヲ設ケ後チ之ヲ八千「ターレル」トセリ。而シテ彼ノ官吏登用ノ際納金セシムルノ法モ依然トシテ連施セシト雖ドモ、大ニ之ヲ改良シ、務メテ有識ノ人ヲ採用スルノ主義トナシ、以テ恰モ公賣落札ノ弊害ヲ破リタリ。

(間税) 當時未ダ新舊ノ麥酒稅「エキサイス」及ビ「ヘックオフ、ウワー」(軍費ノ爲メ收穫物各八「ブツセル」ニ付一「ペック」ヲ納メシムルノ稅ヲ云フ) 等ノ諸稅法依然トシテ實施セシモ、一千七百六十六年全ク之ヲ廢シテ單ニ「エキサイス」ノ一稅ノミヲ存スルコトトセリ。蓋シ麥酒ハ各樽ニ付十八「ペニツヒ」ヲ納メシメ、後チ再ビ新麥酒稅法ヲ設クルニ至リタリ。而シテ往年ハ其稅法區々ニシテ自ラ其性質ヲ異ニセシモ、爾來各種ノ稅ヲ混ジテ一トセリ。然レドモ僻地ニ至リテハ未ダ之ヲ混一スルニ至ラザルトコロアリ。

一千七百六十五年國庫ノ收入ハ三百九十二萬五千五百二十八「ターレル」、其純收入ハ三百四十三萬七千八百二十「ターレル」ナリ(因ニ曰ク稅金ハ百分ノ十ヲ以テ最モ重稅ナリトスルト雖ドモ、獨逸國ニ於テハ當時百分ノ十二ナリト云) 然ルニ當時ノ國王未ダ既定ノ收入ヲ以テ足レリトセズ、尙ホ二百萬「ターレル」ノ收入ヲ增加セント欲シ之ヲ其主務卿ニ協議セシモ容易ニ承

諾セザリシガ故ニ、終ニ憤懣ノ餘リ五人ノ佛人ヲ舉ゲテ收稅官トナシ、大ニ稅法ヲ改良セシメタリ(佛國ハ當時歐巴州中最モ開明ノ地位ニアリ事々物々他ニ卓越スレバ必ズ稅法ニ至ルモ良法アルベシト信ゼラレタルガ故ナリ) 然ルニ果シテ良結果ヲ呈シ、國王ヲシテ大ニ満足セシメタリト雖モ、國民ハ常ニ佛人ト軋轢ノ心アレバ更ニ快トセザリシ。(兎モ角モ獨逸國租稅法ノ基礎ハ大ニ佛人ノ預ルトコロナリシヲ知ルベシ)

一千七百八十六年ヨリ一千八百七年ノ間ニ至ル「フレデリツク、ジ、グレート」ノ卒去後)

「フレデリツク、ジ、グレート」ノ在位中、普通法規即チ「コンモン、ロー」ヲ編纂センコトヲ企テ、之ニ着手セラレタリシガ未ダ全ク了ラザルニ卒去セラル、ノ不幸ニ遭ヘリ。此法規中ニハ王領地ノ事ニ至ルマデ精密ニ記載スルト雖ドモ、其主意トスルトコロハ既ニ記述セシトコロノモノト異ナルトコロナシ。蓋シ曾テ王室ニ屬シタルノ所領地ハ之ヲ政府ニ委ネ、其收入内ヨリ王室ノ費用ヲ領スルヲ得ベシト雖ドモ、國王擅ニ之ヲ失スルコト能ハザルモノトス。然レドモ爾來國王自ラ之ヲ購求シ、若クハ人民ヨリ貰ヒ受タルトコロノモノハ素ヨリ之ヲ自由ニシ得ベシト雖ドモ、後世ニ至レバ王室ノ不動產トナリ、先王ノ遺言ナキニ於テハ之ヲ動かスコト

能ハザルモノトス。

當年代ノ頃ニハ屢々外國ト戦端ヲ開キ、夥多ノ邦土ヲ掠奪セシガ故ニ王領地モ亦隨テ増加セリ。蓋シ外國ヨリ掠奪セシ邦土中元ト王領地ナリシモノハ依然トシテ王領地トスレバナリ。彼ノ「コロニア」國中普魯士ニ屬シタルノ邦土中ニハ夥多ノ王領地アリ、二人ノ貴族ヲシテ之ヲ管轄セシメタリシニ、此輩更ニ施政ノ道ニ暗ク農業ヲ改進セシムルノ念乏シク、經濟ノ何者タルヲ知ラズシテ擅ニ奢侈懶惰ノ日ヲ送り、爲メニ地ハ益々瘦衰シ且多クノ領地ヲ失シタリシ。然レドモ「フレデリック」三世ハ著シク國民ニ人望アル有徳ノ人ナレバ、夥多ノ地面ヲ人民ヨリ王室ニ納メタリシ。此時ニ於ケルモ總テ領地ハ以前ノ如ク請負人ニ委ヌルノ法ナリシモ、彼ノ「コロニアル」地方ノ如キハ土地瘦衰ナレバ隨テ富農ナク、之ヲ負擔スルノ任ニ堪ユベキモノナカリシガ故ニ、止ムコトヲ得ズ廣大ナルノ地ハ之ヲ分割シテ小作人ヲ置キ、其内一人ヲ該地小作人ノ監督者トナシ、地方廳ノ會計官ヲシテ之ヲ總括セシメタリ。而シテ小作人ノ年限ハ九年乃至十二ケ年トナシ、六年ヲ超ヘ九年ニ至ルノ間ハ元祖ニ尙ホ百分ノ四ヲ加シ、九年ヲ超ヘテ十二年ニ至ルノ間ハ又元祖ニ百分ノ十二ヲ加スルコトトセリ。此追稅徵金ハ直チニ王室ノ財庫ニ納メシメ、元祖ハ國庫ニ納ムルコトトセリ。

(山林) 山林ノ管理法ハ更ニ前代ト異ナルトコロナシ。ト雖ドモ、一千七百九十八年ニ至リ會テ官有農場ノ處理ト合併セシモノヲ別テ獨立セシ山林ノ一局ヲ設立セリ。然レドモ尙ホ農場ニ要スルトコロノ修繕新築ハ關係ヲ離レザリシ。

(「リーガル」及ビ專賣) 「フレデリック、ジ、グレート」ノ卒去後煙草及ビ「コフヒー」ノ專賣ヲ解テ全ク自由ナラシメタリシト雖ドモ、煙草ニ「エキサイス」稅ヲ課シ、煙草一磅ニ付「ペニツヒ」ヲ納メシムルコトトセリ。然ルニ一千七百九十七年再ビ煙草ノ專賣法ヲ設ケタリ。其法タル少シク往年ノ法ト異ナリ、煙草ヲ栽培スルハ全ク自由トシ、唯之ヲ製スルハ官立ノ製造場ニ限ルコトトセリ。故ニ農民ハ之ヲ栽培シテ其煙草葉ヲ彼ノ製造場ニ賣却セリ。

一千七百九十九年食鹽及ビ硝石ノ掘鑛及ビ其製造場ノ專有法ヲ解キ全ク自由トセリ。搖會ノ專有法ハ尙ホ依然トシテ變ズルコトナシト雖ドモ、一千七百九十四年以來政府自ラ之ヲ直轄シ人民ニ委ヌルノ法ヲ廢セリ。

郵便「リーガル」ノ法タル彼ノ普通法規中ニ八十ケ條ノ細則アリト雖ドモ、其主意トスルトコロ往時ト異ナルトコロナシ。

一千七百十九年一種ノ稅法ヲ設ケ、會テ「エキサイス」ヲ免稅スルノ人、縱令ハ貴族ノ如キモ總テ外國ヨリ輸入セシ物品ヲ使用スルモノハ必ズ若干ノ稅金ヲ納メシムルコトトセリ。之レ蓋シ其名ハ異ナルモ其實ニ至リテハ「エキサイス」ト更ニ異ナルトコロナシ。但一千七百九十

十九年ニ至リテハ何人タリトモ免税スルコトナキニ至リタリ。

一千八百五年内地ノ關稅ヲ廢シ、唯河稅及ビ國境ニノミ之ヲ存セリ。

(官領地) 官有地ノ管理法ハ一千八百七年以來今日ニ至ルマデ更ニ異ナルトコロナシ、蓋シ其領地ハ國王ノ所有ニアラズシテ全ク官有ニ歸セリ。故ニ國王ハ國會ノ同意ヲ得ズンバ之ヲ如何トモスルコト能ハズ。又例令官領地ヨリノ收入ト雖ドモ之ヲ混ジテ一トナシ、以テ一タビ國庫ニ納メ後チ國王ノ費額ヲ支出スルモノナリ。然ルニ王室ノ定額ハ「フレデリック」第一世以降漸次増額シ、一千八百二十年二月十七日ニ至リテハ増シテ其額二千五百萬「ターレル」トナレリ。蓋シ國王ハ此金額ヲ以テ王家ノ費用ハ勿論皇族ノ費用ニ至ルマデ自ラ支辨セラレタリ。如斯ナレバ元來王領地タリシモノハ今ハ全ク官有ニ歸シ、之ヲ以テ王室ノ費用ヲ造リ毎歲之ヲ國王ニ呈スルノ有様トナレリ。

一千八百五十九年及ビ一千八百六十八年ノ間ニ於テハ國會ノ同意ヲ得テ王室ノ定額尙ホ一千五百萬「ターレル」ヲ増加セリ。此ノ増額ハ官有地ヨリノ收入ニアラズ、全ク他ノ歲入ヨリ支拂タリ。蓋シ普魯西國王ハ大ニ英國ノ皇室等ニハ異ナリ、國王其領收セラル、トコロノ定額ヲ以テ皇族家ノ費用ハ勿論皇女ノ婚姻費、皇子皇女ノ旅行費、其他臨時費ニ至ルマデ悉ク支辨セラレ決シテ國會ニ乞フテ臨時ニ其費用ヲ請求セラル、コトナシ。

以上記スルトコロノモノハ主ニ普魯士國ノ經歷ナリシガ之レヨリ進ンデ他邦ノ有様ヲ述ントス。然レドモ多クハ普魯西ノ法規ニ倣フモノ多シ。但「バーバリー」「サクソニー」及「バーデンベルヒ」ニ於テハ王領地又國有ニ屬シ、其收入ハ國庫ニ納メテ各種ノ收入ト混一シ、後チ國庫ヨリ王室ノ費額ヲ支出スルモノナリ。然ルニ國庫ノ歲入中他ヲ顧ミズ、第一ニ其定額ナル王室額ヲ支出スルノ制ナリシト、而シテ「バーバリー」ニ於テハ一千八百三十四年法律ニ因テ國王ノ費額ヲ二百三十五萬五千八百八十「フロリン」(「フロリン」ハ二「マーク」ニ當ル)ト定メ、「バーデンベルヒ」及ビ「サクソニー」ニ於テハ王室ノ定額ハ國王ト國會ト協議ノ上定ムルモノナリトス。蓋シ「サクソニー」ニ於テハ王室ノ世襲不動産ナル王領地ヨリノ收入ヲ以テ一定ノ王室費ヲ供スルモノナリ。

「ペーアン」「ハシア」及ビ「サクソン、バイマー」等ニ於テハ王領地ハ未ダ全ク國王ノ所有ニ歸スルト雖ドモ、其管理法ニ至リテハ更ニ他邦ト異ナルコトナク、恰モ國有ト一般國王ハ常ニ其收入中ヨリ一定ノ費額ヲ領收セリ。

他ノ諸邦ニ於テハ概ネ王領地ヨリノ收入ヲ二分シ、一分ハ王室ノ費用ニ充テ、一ハ國費ニ供スルノ制ナリ。

「ハーバーク」ニ於テハ「オルデンバーク」等ノ國ニ於テハ尙ホ今時ト雖ドモ王

領地ノ處理ハ舊法ヲ固守ス、其他小國ニ至リテハ更ニ一定セシトコロナシ。

「メクレンバーク」ニ於ケルモ尙ホ王領地ノ管理ハ舊法ヲ固守シ、更ニ昔日ト異ナルコトナシ。蓋シ國王ハ王領地ヨリノ收入ヲ領シ尙ホ足ラザルハ税金ヲ以テ之ヲ補フノ有様ナリ。然ルニ一千八百四十九年十月十七日王領地ヲ別チテ王室ノ所有ト固有トスト區分セシモ、一千八百五十年ニ至リ再ビ原法ニ復シタリ。

現時ニ於テハ獨逸國中何レノ邦土ト雖ドモ概ネ一定シ二種ノ領地アルニ至リタリ。即チ一ハ國有ニ屬シ、他ハ王室ノ所有地之レナリ。王室ノ所有地ヲ亦別チ甲乙二種トス。甲ハ王室世襲財産ニシテ先代ヨリ遺傳セシモノナレバ、國王ト雖ドモ之ヲ如何トモスルコト能ハズ。乙ハ現時ノ國王自ラ購得セラレタルモノナレバ、素ヨリ之レヲ賣却セラル、モ亦自由ナルベシ。然レドモ後代ニ至レバ所謂世襲財産ノ部類ニ入ルモノナレバ之ヲ動スコト能ハザルモノトス。

當時「ブランデンバーク」ニ四ヶ所ノ官領地アリ「ポバレンジア」ニ二「ボセン」ニ二「セレシア」ニ二「オキソン」ニ六ヶ所アリ。東部地方ノ領地ハ悉ク固有ナリトス。而シテ王室所屬ノ地即チ「プリンスリー、フワミリー、エンテール」ハ管ニ宮内卿ノ預ルノミナラズ、司法卿モ亦之ニ關係セリ。

(王領地) 第九世紀ニ在位セラレタル帝王「チャールレス、ジ、グレート」ハ抑モ國基ヲ固メタ

ルノ人ナレバ、王領地モ當世ヲ基トシ辯明セントス。扱「チャールレス、ジ、グレート」ノ政代ニ於テハ人多クノ不動産ヲ所有セザレバ、縱令國王ト雖ドモ其威ヲ轟スコト能ハザルノ時世ナレバ、人皆不動産ヲ増加スルコトニ汲々シ、且其地質ヲ豐饒ナラシメ多額ノ收穫ヲ求メンコトヲ務メ、自ラ農事ヲ掌リ之ヲ他人ニ預ルモノトテハナカリシ。而シテ人金錢ヲ以テ物品ヲ購求スルモノナク、多クハ穀菜等ヲ以テ交換スルノ有様ナレバ、王領地ノ年貢モ亦皆收穫物ヲ以テ納ムルコトアリシ故ニ、當時政府ニ奉仕スル官吏ノ俸給モ亦農民ヨリ收メタル穀菜ヲ以テ支給セリ。然ルニ高官ノ人例令バ「ゼネラル」ノ如キ官ニアルノ人ニシテ、主府本廳ヲ隔離スルノ地ニ奉仕スルモノハ勿論、未ダ鐵道等ノ設ケナケレバ現品ヲ送致スルコト能ハザレバ、奉仕地ノ某一部若クハ全部ノ年貢ヲ直チニ支給スルコトトセリ。故ニ恰モ其地領主トナリ追年帝王ノ威力衰退スルニ隨ヒ各地ニ散在スル彼ノ官吏輩ハ終ニ其地ヲ領シテ獨立スルニ至リタリ。之レ蓋シ「チャールレス、ジ、グレート」ノ薨御セラル、ヤ忽チ帝國ノ名ヲ失シテ合衆王國トナルニ至リタル所以ナリ。

(ブラデンボルヒ) 當年代ノ頃ヒハ強キハ以テ國ヲ領シ、弱キハ以テ之ヲ失スルノ有様ニシテ宛モ盜賊ト一般、理ナクシテ人ノ所有地ヲ領シ、人若シ意ニ隨ハザレバ刀劍ノ下ニ斃シテ之ヲ強奪スルノ有様ナリ。之レ蓋シ多クハ貴族ノ所爲ニシテ彼ノ「ブランデンボルヒ」ノ國王當時

其威力輩下タル貴族ニ及バザリシノ故ヲ以テ、漸次王領地ヲ掠奪セラレタリ。且ツ國王「イオドコス」ハ自ラ權威ノ微々タルヲ憂ヒ、運命ヲ聖神ニ祈ント欲シ、多クノ領地ヲ寺院ニ投與セリ。此國王ハ一千三百八十八年ヨリ一千四百十年迄在位セシモノニシテ、現時ノ王家「フーソラン」此地ノ國王ニ舉ゲラレタルノ時ハ殆ド王領ノ地ナカリシト。然カルヲ「フーソラン」家第一ノ國王「フレデリック」第一世ハ大ニ施政ノ道ヲ改メ、曾テ理ナクシテ貴族ノ爲メニ掠奪セラレタルノ領地ハ悉ク之ヲ取り戻シ、王家ニ反逆スルノ貴族ハ國境外ニ追放スル等大ニ惡弊ヲ一洗セリ。一千四百九十九年ヨリ一千五百三十五年ノ間在位セラレタル「ジェームス」第一世ハ著シク邦土ノ瘦衰不饒ナルヲ憂ヒ、之ヲ回復センコトヲ務メ、大ニ農事ノ道ヲ獎勵セラレタリ。爾來漸次ニ收穫物ヲ以テ年貢ヲ收メ、或ハ之ヲ以テ其雇費ニ供スル等ノ法自ラ廢棄シ金錢ヲ以テスルニ至リ、王領地ヨリノ收入モ亦金ヲ以テ納ムルノ時運トハナレリ。

「ジェームス」第一世ノ政代中王領地ヲ總轄スル「バーンズ、ホン、アーニム」ナル人アリ。氏ハ農事ノ道ニ長ジ、大ニ王領地ノ處理法ヲ改革セント欲シ、自ラ一ノ施法ヲ編ミタリシト雖ドモ、「ジェームス」第一世ノ薨御セラレタルヲ以テ終ニ其志望ヲ達スルコト能ハザリシ、其法タル實ニ巧ヲ盡シ妙ヲ極メ、更ニ一點ノ非ヲ容ル、トコロナシ。然ルニ當時ノ人其ノ良法タルヲ知ラザレバトシテ採用セラレタルモノナカリシト雖、左ニ記シテ參考ニ供ス、蓋シ現時ニ

至リテハ氏ノ計畫ニ倣ヒ實施スルトコロ多クアレバナリ。

抑モ王室ハ勿論總テ政府ニ屬スルトコロノ農場ハ之ヲ直轄スルハ決シテ得策ニアラズ、故ニ左ニ述ルトコロノ概算ヲ基トシ農民ニ貸與スルニ加カズ。

- 一、小麦 一「ウエック」ニ付 十二「ターレル」
- 一、裸麥 一「ウエック」ニ付 十「ターレル」
- 一、大麥 八「ウエック」ニ付 六十四「ターレル」
- 一、燕麥 二「ウエック」ニ付 八「ターレル」
- 一、羊 六百頭 六十「ターレル」
- 一、牛 二十頭 四十「ターレル」
- 一、豚家禽及果物園 十「ターレル」

合計二百九十四「ターレル」

一、修繕費

一、收穫ノ不作牛疫等ノ爲メ損失 十「ターレル」

合計二十「ターレル」

但收入合計二百九十四「ターレル」ヨリ費額二十「ターレル」ヲ除ケバ殘金七十四「ターレル」

獨逸帝室財産一斑

一「タール」タルベシ。之ヲ概ネ一農場ヨリノ現収入トス。

今マ、農場ヲ區畫シテ四十四人ノ小作人ヲ配置スルモノトセバ、各々ヨリ納ムル所ノ諸税金概
ネ左ノ如クナルベシ。

- 一、國 税 六「タール」
- 一、借地料 二「タール」
- 一、畜牛税 二「タール」
- 一、家禽税 一「タール」
- 一、戸數割税 四「タール」
- 一、兵役税 二「タール」
- 一、山林税 一「タール」

右費額ヲ合スレバ各納場ヨリ納ムルトコロノモノ十八「タール」四十四農場ノモノヲ
合スレバ七百九十二「タール」ニ達スベシ。

以上ノモノノ他ニ果物園、食品、食鹽、衣服、宅地内ノ圍圍及ビ家飾物等ニ課税シ且ツ馬且
師、繩職、桶師、郵便等ニ特別ノ税ヲ課セザルベカラズ。

氏ノ子息ナル「フランセス、オフ、アーニムス」氏ハ當時ノ國王薨御セラル、ノ後チ、父「バ

ーンズ、ホン、アーニムス」亦世ヲ去リタルヲ以テ、父ノ遺業ヲ試ントセシモ後代ノ國王之ヲ
容レザルヲ以テ斷然去リテ「センニー」ニ其居ヲ轉ジ、三百有餘ノ農場ニ之ヲ試ミタリシト雖
ドモ、實ニ瘦衰タルノ地ナレバ不幸ニシテ好結果ヲ得ルコト能ハザリシ。

當時ノ國王ハ實ニ貧迫ナリシガ爲メ、多クノ領地ヲ典當シ若クハ賣却シテ其大半ヲ失シタリ。
一千六百十七年六月八日大ニ領地ノ管理法ヲ改メ、適任タル官吏ニ其處理ヲ委ネ、確然タル簿
記ノ法ヲ設ケ領地ノ境界ヲ判明ニスル等大ニ體裁ヲ改メタリ。

一千六百十八年ヨリ一千六百四十八年迄三十ヶ年間、戰亂打チ續キ多クノ國民ヲ失セシノミ
ナラズ、人民ハ何レモ不安ノ思ヲ抱キ誰レアリテ自己ノ所有地等ヲ顧ミルモノナク、唯各地自
ノ安全無事ヲ聖神ニ禱ルノ外他事ナカリシ。故ニ人多クハ財産ヲ失シ、王領地モ亦多クハ賣却
シ、若クハ典當シテ軍費ニ供シタリ。戰亂靜スルノ時ニ於テハ邦土ノ疲弊實ニ名狀スベカラザ
ルノ有様ナレバ、當時ノ國王「グレート、エレクトアー」大ニ之ヲ憂ヒ、且ツ國威ヲ回復センコ
トヲ慮リ、大ニ心ヲ農事ノ道ニ注ギ、隨テ王領地ノ管理法ヲ改良セリ。但當時未ダ收穫物ヲ以
テ年貢ヲ納ムルノ例ナレバ、王室ニ要スルトコロノモノヲ伯林ノ居城ハ勿論他府ノ舊城ニ送致
セシメタリ。之レ蓋シ國王タルベキモノハ唯其主府ニノミ潛居セズ、屢々地方ヲ巡廻シテ親シ
ク人民ノ苦業ヲ實視シ以テ之ヲ獎勵セザルベカラザルノ主意ナリ。

「グレイト、エレクトアー」ハ王領地ノ整備セザルヲ憂ヒ、各領地ノ境界ヲ正シ面積ヲ判明シ、最モ必適ナルノ施法收穫ノ如何等精密ニ調査セシムルノ目的ヲ以テ官吏ヲ各地方ニ派遣セシモ、不幸ニシテ其官吏適任ノ人ニアラザルノミナラズ、更ニ學識權威ナカリシヲ以テ、貴族若シ其調査ヲ拒ムコトアレバ強テ之ヲ檢スルノ見識ナク、又領地ノ面積境界ヲ整頓セントスルモ自ラ之ヲ實施スルノ學識ナケレバ、漸ク農民ニ質シ其云フトコロヲ採リテ之ヲ定ムルノ有様ナレバ、決シテ其實ヲ得ルコト能ハザリシ。故ニ素ヨリ國王ノ志望ヲ全フスルコト能ハズ、收入ハ依然トシテ増加スルコトナク、或ハ建築或ハ修繕或ハ不作ナル等ノ故ヲ以テ年貢ヲ減ズル等、現收入ハ僅少タリ。且領地ノ請負人ハ小作人ヨリ可成的多額ノ收入ヲ得ントスルガ故ニ、小作人ハ止ムコトヲ得ズ肥料ヲ節減シテ多量ノ收穫ヲ得ンコトヲ務メ、地質ハ益々疲衰ニ陥リ家屋ヲ新築修繕スルモ唯請負人ノ開申ニ因リ其要費ヲ下賜スルコトナケレバ、或ハ王室ヨリ支出スルハ例令バ一千「マーク」ナルモ、實際之ヲ費スハ七百若クハ八百「マーク」ニ過ギザルガ如キ有様ナリ。故ニ其改良ヲ試ミタルモ全ク有名無實タルヲ免レザリシ、一千六百八十年再ビ官吏ヲ各地方ノ領地ニ派遣シテ實況ヲ視察セシメ、且其收入支出等ヲ調査セシメタリシモ亦好結果ナカリシニ、一千六百七十六年當時王領地ノ監督者タリシ某氏大ニ領地管理ノ法ヲ改メ、彼ノ請負法ヲ廢シテ王室直接ニ之ヲ管轄スルコトトセリ。氏思ラク實ニ王領地ノ直轄セズシテ

之ヲ請負人ニ委ヌルハ愚ノ極ト云フベシ。如何ゾ請負人ノ得ルベキ利益ヲ合シテ王室ノ財庫ニ投ゼザルヤト、之レ氏ハ當時未ダ歴史等ノアラザリシガ爲メ往來此法ヲ施行シテ好結果ナカリシヲ知ラザリシガ故ナリ。今マ爰ニ一例ヲ掲グ直接ニ所有地ヲ管理スルヨリモ、賓口請負人ニ托スルニ加カザルヲ示サントス。扱某一ノ貴族アリ、其所領ヲ請負人ニ托シテ管理セシメタルニ、一千六百八十四年ニハ其收入一萬五千「ターレル」一千六百九十年ニハ増シテ一萬七千「ターレル」一千六百九十六年ニハ尙ホ増シテ二萬六千「ターレル」ニ達シタリ。然ルニ請負人ノ得ルトコロノ利益ヲ合テ我が金囊ニ投ゼント欲シ、斷然請負法ヲ廢シテ自ラ之ヲ直轄セシニ、却テ收入前年ニ比スレバ大ニ減少スルニ至リタリト。之ヲ以テスルモ直轄ノ利ナキヲ知ルニ足ルベシ。然ルニ彼ノ王領地ノ監督者某氏ハ慢然請負法ヲ廢シテ王室直接ヲ管轄スルノ法ヲ設ケ爾來暫ク之ヲ試ミタリシモ、素ヨリ好結果ナキヲ以テ、先ヅ「バーデンボルヒ」ノ王領地ニ六年間ヲ期シテ小作法ヲ設ケ、漸次此法ヲ他邦ノ王領地ニ施シ寧ロ好結果ヲ奏シタリシト。「フレデリック」三世ノ政代ニ至ルモ尙ホ前法即チ定規小作法ヲ施行セシト雖ドモ、當時王領地ノ監督者「クロート」氏其法ヲ改メテ再ビ請負人ヲ置クコトトセリ。然ルニ此時ニ於テハ廣大ナル農場ハ數割シテ各々之ニ小作人ヲ配置セリ。此法タル素ヨリ多少ノ變革アリシト雖ドモ、今時ニ至ルマデ實施スルトコロナリ。

一千六百九十八年彼ノ「クロート」氏其職ヲ退キ、後チ王領地ヲ總括スベキヤ四人ノ高官ヲ設ケタリ。然ルニ當時ノ國王「フレデリック」第三世ハ著シク多費ヲ要シ、隨テ王財ノ乏ヲ告グルノ有様ナレバ如何シテカ領地ヨリノ歳入ヲ増加ナラシメンコトヲ務メ、頻リニ良法ヲ研究シ其道ニ長ジタルノ人アレバ之ニ就テ其説ヲ聞カレタリ。然ルニ當時有名ナル「ルーベン」氏一説ヲ呈シテ曰ク、農場ヲ數分シテ各々之ニ「フヒトフワイマー」即チ土着農者ヲ置クニ優ルモノナシ。如斯スレバ曾テ三十年間ノ戰亂及ビ往年役病ノ爲メ大ニ國民ヲ失シタルモ亦之ヲ償フニ足ルベシ。強兵ハ農者ヨリセズンバ到底得ルコト難シ、然ラバ前法ヲ施スニ於テハ一ハ國民ヲ増殖シ、一ハ以テ強兵ヲ得ルニ足リ一ハ以テ荒蕪ノ地ヲシテ豐饒ノ地タラシムルニ至ルベシ。其説寔ニ良法タルモノノ如クナリシヲ以テ、國王終ニ之ヲ採用セラレタリ。然ルニ請負人等ハ更ニ同意ヲ表セザルノミナラズ、小作人等ヨリハ頻リニ愁訴スルニ至リシト雖ドモ、更ニ之ヲ顧ミズシテ實施セントセシモ、益々衰訴スルコト甚シキニ至リ、一千七百四年之レガ爲メ特ニ一ノ官吏ヲ各領地ニ派遣シテ小作人等ヲ説諭セシメタリシモ、亦以テ好結果ナカリシ。一千七百五年終ニ「ルーベン」氏ノ法ヲ施スニ至リタリ。爾來其收入ハ曾テ豫定セシガ如ク、増加セシト雖ドモ全ク名アリテ實ナク更ニ現金ノ收納ナキヲ以テ漸ク良法ナラザルヲ語り、一千七百十一年其法ヲ廢シ「ルーベン」氏モ亦職ヲ退キタリ。此時ニ當リ再ビ小作人ヲ置クコトトナシ、

曾テ「ルーベン」ノ推舉シテ移住セシメタル土着農者ハ悉ク其地ヲ逐放シ、國王ハ更ニ逐放者ニ要償金ヲ與ヘザリシガ故ニ前農者ニ代リテ新ニ爰ニ移住スルトコロノ小作人ヨリ之ヲ拂フノ有様ナリ。

一千七百十三年「フレデリック、ウイリアム」第一世ハ王室中ニ王領局ヲ設ケ、專ラ其事務ヲ掌ラシメ、官吏ハ當日其事務ヲ了ラザレバ決シテ退出スルヲ許サザリシ。之レ會計上不正ノ所爲アルヲ恐レテナリ。一千七百十七年王領地ヨリ納ムル年貢ノ法ヲ整理シ、一千七百十八年定期小作人ノ年限ヲ短縮シ、毎年各農場ヨリ精密ナル報告ヲ王室ニ送呈スルコトトナシ、以テ各農場ノ景況收入支出等ヲ詳カニセリ。一千七百十七年彼ノ會計検査局ヲ設ケ會計上事々物々其官吏ヲシテ詳密ニ調査セシムルコトトセリ。

既ニ述ベタルガ如ク當時ノ國王「フレデリック、ウイリアム」第一世ハ自ら農事ノ業ヲ嗜ミ隨テ其道ニ通ジタルノ人ナレバ、大ニ其改良ヲ務メ殖民ノ道ヲ講ジ、荒蕪ノ地方殊ニ東部普魯西ノ殖民ヲ謀リタリ。一千七百十一年農事ノ改良進歩ヲ獎勵スルガ爲メ官吏ヲ地方ニ派遣セリ。

一千七百十四年彼ノ「カンリツク」宗徒ノ爲メニ其地ヲ逐放セラレタル「プロテスタン」宗ノ人民諸國特ニ佛國ヨリ多ク東部普魯西ニ移住セリ。此人民タル何レモ學識アルモノナレバ能

ク國王ノ志望ヲ全フシ實ニ好結果ヲ呈シタリト。

「フレデリック、ジ、グレート」モ亦先王ノ法ニ倣ヒ更ニ宗旨ノ如何ヲ問ハズ荒蕪ナルノ地方殊ニ「コロニスト」ニ人民ノ移住ヲ許シ能ク其志望ヲ達シタリシ。

一千七百二年「フレデリック、ウキリアム」第一世ハ各王領地ニ住スル人民ノ壓ヲ解キ一千七百九年一ノ法令ヲ下シ官吏タルベキモノハ如何ナル場合ニ於ケルモ農民ヲ鞭撻スルコト能ハズ、若シ其命ニ隨ハザルモノアレバ捕ヘテ之ヲ入牢セシムベシト、而シテ既定ノ年貢ハ必ズ一定ノ期限ニ納ムベシ。若シ之レニ背クモノアレバ豊饒ナルノ地ヨリ荒蕪ナルノ地ニ轉ゼシムベキコトトセリ。

王領地ノ大ナルモノハ數割シテ各々之レニ有期小作人ヲ置クノ法ハ今時ニ至ルマデ尙ホ執行スルトコロナリト雖ドモ、其期限ハ概ネ十八年トス。而シテ間々地方廳直接ニ管轄スルトコロアリト雖ドモ、之レ全ク止ムヲ得ザルニ出デタルモノニシテ、其地方ニ之ヲ擔任スルニ堪ユベキ農者ノアラザルガ爲ナリ。又往年ハ總テ農民ヨリ納ムベキ税金ハ悉ク請負人ニ其徵集ヲ委ネタリシモ、近時ハ特ニ收稅官ヲ派出セシメテ徵集スルコトトセリ。然レドモ王領地僅少ナルノ地方ニ於テハ尙ホ舊法ヲ實行スルトコロアリ。

「フレデリック、ウキリアム」第一世ノ在位中始メテ官吏ヲ各領地ニ派遣シテ其處理ヲ掌ラシメ

タリシ、當時王領地ト軍務ノ管轄ヲ兼ヌルトコロノ長官ヲ設ケ、一千七百二十三年軍務領地ノ一局ヲ設ケ中央收稅局之ヲ管轄セリ。而シテ各主府ニハ其出張所ヲ設ケテ之レガ事務ヲ掌ラシメタリ。蓋シ以所ハ領地實原上ノ事務ト政務ト混一セシト雖ドモ、此時ニ於テハ各々其所管ヲ異ニシ、實業上ノ事務ハ全ク請負人ニ委ネ施政上ノ事ニ至リテハ地方官ノ預ルトコロトセリ。然ルニ人民直接ノ關係アルト下等官吏ハ大ニ人民ノ思想ヲ養育改良ナラシムルノ要具ナレバ、最モ學識多才ノモノヲ撰バザルベカラズトノ主意ヲ以テ其適任者ヲ推舉スルヲ務メタリ。

一千八百八年當ニ領地ノミナラズ百般ノ事ニ至ルマデ一大改革ヲ施シ、五人ノ「ミニスタ」ヲ設ケ一人ハ專ラ王領地ノ事務ヲ掌ルコトトセリ。

一千八百三十五年再ビ王領地ノ管理法ヲ改メ、曾テ收稅局ノ管理下ニ屬シタリシモ以來王室ニ屬スルコトトナシ、之ヲ處理スベキ特別ノ長官ヲ設ケ宮内卿之ヲ總括セリ。

一千八百四十八年再ビ王領地ハ山林ト俱ニ收稅局ノ處管ニ歸スルコトトナレリ。一千八百七十八年迄ハ其法依然トシテ變更スルコトナカリシモ、爾來領地及ビ山林ヲ收稅局ヨリ割テ農務省ニ管轄セシムルコトトセリ。之レ尙ホ今時ニ至ルモ專ラ實行スルトコロナリ。蓋シ以前ハ國庫ノ歲入ト云ヘバ主ニ王領地ヨリノ收入ナリシモ、今時ハ然ラズ、勿論收稅ヲ以テ大ナリト

シ、主領地ノ收入ハ寔ニ僅少ノモノナリトス。故ニ現時ハ王領地ヨリノ收入ハ主ニ王室ノ費用ニ供シ、一ハ以テ模範農場トナシ農事ノ改良ヲ謀ルヲカム。故ニ其目的タル大ニ往時トハ異ナレリ。

(現時ノ官領地往) 往古ハ二種ノ農場アリ一ハ專有農場ニシテ一人一個ニテ之ヲ專領シ、他ハ補給農場ニシテ其所有權ハ勿論一人一個ニ歸スルト雖ドモ、之レニ隣接スル農場ノ缺ヲ補フノ義務アルモノトス、例令バ其隣接スル農場ニ樹木ナケレバ之ヲ補給農場ヨリ供給スル等ヲ云フ然ルニ未ダ農事盛ンナラザルノ時ニ於テハ之レガ爲メ補給農場ニ損害ヲ蒙ムルコトナカリシト雖ドモ、漸次農業ノ道開達スルニ隨ビ、著シク之レガ損害ヲ蒙ムルニ至リタリ。故ニ政府其農場ヲ借りテ損害ヲ償フヲカメタリ。

普魯西國ハ其地景上ヨリスルモ四壁ニ敵國アリ、且概シテ平坦ノ地ナレバ最モ騎兵ノ備ヘ宜シキヲ得ザルベカラズ。故ニ往古ヨリ爰ニ注目シ、騎兵ニ要スルトコロノ馬ハ毎歲一回若クハ二回騎兵士官及ビ獸醫官ヲシテ主ニ東部普魯西ニ派遣セシメ 兵馬ニ適スル四歳若クハ五歳ノ馬ヲ購求シテ之ヲ伯林府ノ兵營ニ送致スルヲ例トス。然ルヲ如斯シテ購得セシモノハ彼ノ騎兵ノ主眼トスル一塊トナリテ、敵兵ヲ衝クノ要ヲナスコト能ハザルハ數回ノ實驗ニ徴シテ明カナリ。蓋シ富農ヨリ購得セシモノハ更ニ費用ヲ顧ミズ之ヲ泰養セシヲ

以テ體格能ク整備シ、且強大ナリト雖ドモ、使役ニ供スルコト稀レナリシガ故ニ戰場ニ臨ミテ苦ニ堪ヘズ貧農ヨリ購求セシモノハ營ニ目下ノ利ニノミ走リ、幼齡ノ時充分泰養セザリシガ爲メニ其體格虛弱ナリトス。因テ斷然此法ヲ廢シ「レモン」トデボット」(養馬場ノ意味ナリ)ヲ全國特ニ產馬地方ニ十六ヶ場設立シ爾來幼馬ヲ、購求シテ爰ニ 養シ其適齡ニ達スルヲ俟テ兵營ニ送致スルコトトセリ。官領地(當時ハ全ク國有ニ屬シタルヲ以テ官領地ト譯ス)ヲ此養馬場トセシトコロ多シ。

一千八百二十四年會計検査局ヨリ一令ヲ下シ、以來開墾セシ官有農産ハ必ズ政府直轄スルコトナリ。悉ク人民ニ貸與スルコトトセリ。然レドモ止ムヲ得ザルノ場合ニ於テハ收稅卿ノ許諾ヲ得ベシト、此法令時ニ至ルモ尙ホ實施スルトコロナリ。

官有地ヲ貸與スルニ當テハ豫メ精細ナル命令書ヲ作り、農場ノ圖面ナキモノハ更ニ之ヲ製シ既ニ製圖アルモノハ再ビ之ヲ現場ニ照シテ其異ナルトコロトキヤ否ヤヲ實驗セシメ、若シ其一部ヲ賣却シ或ハ購求スル等舊來ノ圖面ニ照シ異ナルトコロアレバ、更ニ製圖シテ之ヲ其借地人ニ示ヲ要スト、第二之ヲ所管スルノ上官ハ能ク農場ヲ實視シ耕耘上不便ナルノ地アラバ之ヲ賣却スル乎、或ハ之ヲ其隣接スルトコロノ他ノ官有地ニ合スルヲ便トスルヤ否ヤヲ點檢シ不便ヲ棄テ便ヲ採ルノ考按ヲ下シ之ヲ實行スルヲ要トス。第三農場ノ地理後來ノ目的等ヲ考按シ、之

ヲ數分シテ廉價ニ貧民ニ賣却スルヲ得策トスルヤ否ヲ査定スルヲ要ス。

因ニ曰ク現時獨逸國ニ於テハ地價ノ日ニ騰貴スルト、農産物ノ廉ナルヨリシテ農民大ニ活路ニ苦ミ、爲メニ益々米國へ移住スルモノ多シ。之レ國體ニ對シテハ實ニ歎ズベキコトナリト雖ドモ、勿論大古ニ於ケルガ如ク法律ヲ以テ之ヲ制スルコト能ハザレバ又如何トモスルコト能ハズ。然ルニ先輩等ハ何レモ郷里ヲ棄テ、他邦ニ移リ、到底一事業ヲ起シテ其志望ヲ達セントスル有望ノ民ナルノミナラズ、若干ノ財産ヲ他邦ニ失スルノ理ナレバ、政府如何シテカ先輩ヲ入地ニ遺存セシメンコトヲ務メ、屢々官有農場ヲ分割シテ廉價ニ賣却スルコトアリ、然レドモ之レ全ク一時ノ窮策ニシテ更ニ好結果ナキモノノ如シ。

以上ノ如キ計畫ハ一農場ヲ貸與スルノ前年八月中ニ完了シ、農務卿ハ之ヲ地方廳ニ送致シテ意見ヲ問ヒ、地方官ヨリハ小科目タル管理法ノ條目及ビ其意見ヲ編ンデ再ビ之ヲ農務卿ニ呈スルモノトス。扱農務卿ハ之ヲ點檢シ、準備全ク整頓スレバ其農場ヲ前法ニ因テ貸與スル旨ヲ新聞紙ニテ公告スルモノトス。而シテ九月其志願人ヲ招集シテ各々ヨリ年貢高ヲ計ラシメ農務卿ハ適當ト認定スルモノニ之レヲ委ヌルヲ例トス。然ルニ毎年九月ハ農事繁忙ナルノ時ナレバ、一千八百八十二年之ヲ八月ト改メタリ。

爰ニ官有地貸與法ニ二様アリ。一ハ多クノ農場ヲ一人ニ貸與シ他ハ單ニ一部位ノ農場ヲ貸與

スル之レナリ。而シテ一千八百六十二年マデハ東部及ビ西部トモニ地方ノ異ナルニ隨テ農場貸與ノ法等ヲ異ニセシモ、一千八百八十二年五月二十二日之ヲ改メ更ニ地方ヲ問ハズ貸與期限ハ六月二十四日ニ起算シ、翌年ノ同月同日ニ了ルコトトシ政府ノ都合ニ因リ一週間ノ短縮延長ハ自由タルモノトセリ。

貸與年期ハ必ず十八ケ年ヲ期トスルト雖ドモ特ニ其事由ヲ開申シ、止ムヲ得ザル場合ニ於テハ或ハ之ヲ延期スルコトアルベシ(例令ハ水車若クハ他ノ事業ヲ起サントスルモ、年期ノ短ナルガ爲メ其利ヲ得ルノ目的ナキモ、今マ五ケ年若クハ八ケ年延期スレバ此業ヲ起スモ利アル等ノ場合ニ於テハ或ハ許可スルコトアリ)而シテ小農場ニ於テハ其期限或ハ尙ホ短ナルトコロアリ。

扱テ定期ノ前年ニ達スレバ前述セシガ如ク農務卿ハ該農場ノ圖面ト共ニ詳細ナル命令書ヲ編シ、夫々準備ヲ整へ、新舊ノ借地人交代スルノ時ニ當リ新借地人ニハ詳カニ後來ノ法案ヲ示シ、舊借地人ノ所有タリシ飼畜、種子(既ニ農場ニ下種セシモノヲ云フ)及ビ農具等ハ新借地人ノ望ミニ任セ購求シ得ルモノナレバ政府其媒介ヲナシ代價ハ結約後一週間以内ニ拂フベキモノトス。

往時ハ縱令人民ノ所有地内ト雖ドモ決シテ遊獵スルコト能ハザルノ制アリシガ、近時之ヲ廢

シ、獵銃鑑札ヲ所持スルモノハ其所有地内ニ限り之ヲ許スコトナセリ。故ニ官領地ノ借地人ハ之ヲナスノ權アリト雖ドモ鹿等ヲ保養スル山林ニ接近スルノ場所ニ於テハ唯二等遊獵ノミヲ許スコトアリ（一等遊獵トハ鹿ノ如キモノヲ獵スルヲ云ヒ二等遊獵トハ鳥類ノミニ限ルヲ云フ）

（官有農場借地人ハ心得方ヲ左ニ掲グ）

新借地人ノ舊借地人ヨリ購得セシモノニ就テハ例令後來ニ至リ紛議ヲ生ズルトモ政府更ニ之レニ關セザルモノトス。

新借地人ハ舊借地人ト謀リ農場改良ノ計畫ヲ議スベキモノトス。

舊借地人ノ雇使セシ農夫ハ借主交代ノ時俱ニ該場ヲ去ルコト能ハズ。必ズ數週間新借地人ノ手ニ就クベキモノトス。之レ舊借地人ト俱ニ一時ニ農場ヲ去ルニ於テハ管理上困難ヲ告グルノ憂ヒアレバナリ。

農場ノ一部分ヲ鐵道線路等ノ爲メ賣却シ、其他積ヲ減ズルノ場合ニ於テハ之ニ應ジテ年貢ヲ減ズルモノトス（政府ハ其賣價ヲ以テ可成之レニ隣接スルノ地ヲ購求スルヲ例トス）

農場内ニ於テ粘土、石炭若クハ他ノ礦物ヲ發見スルモ借地人擅ニ之ヲ掘採スルヲ得ザルモノトス。

農場ノ管理即チ開墾下種栽培スルノ法ハ其村里ノ施法ニ隨ハザルベカラズ決シテ他法ヲ施スヲ得ズ。

借地人ハ政府ノ許可ナクシテ猥リニ「シユガーターニツプ」（砂糖蕪菁ヲ云フ）ヲ栽培スルヲ得ズ、縱令許可ヲ得タルモノト雖ドモ三年ニ一回ヲ超ユベカラズ。若シ之レニ違背スルニ於テハ一「ヘクタ」毎ニ五百「マーク」ノ罰金ヲ科スルモノトス。

借地人ハ農場中ニアル泥炭粘土、石炭及ビ石灰等ヲ猥リニ掘採スルヲ得ズ。尤モ泥炭等ヲ肥料ニ供スルハ妨ゲナシ。之レニ違背スルモノハ一「エークル」毎ニ五十「マーク」ノ罰金ヲ科ス（因ニ曰ク獨逸國ニ於テハ石炭ノ僅少ナルヨリシテ泥炭ヲ薪料トスルモノ多シ、凡ソ今ヲ去ルコト十年前迄ハ多ク肥料ニ用ヒ且ツ厩床ノ敷キ藁ニ代用スルモノアリシ）

農場ニ於テ泥炭ヲ發見シ掘採ヲ望ムモノハ其方法ヲ編ミテ政府ニ出願スベシ。政府ハ特ニ之レガ命令書ヲ下附スルモノトス。其税金ハ勿論場合ニ因テ異ナレバ豫メ一定スルヲ得ズ。

借地人ハ勿論自費ヲ以テ農場ノ改良ヲ謀ルベキモノト雖ドモ、除水管ヲ農場ニ設クルノ場合ニ於テハ政府一時其費用ヲ貸與スベシ。然レドモ之ヲ設置スルニ於テハ其道ニ長シタル土木師ヲ聘シテ能ク其計畫ヲナサシメ、以テ政府ニ出願スルモノトス。貸與金返納ノ方法ハ毎年全額ニ對シ五割ノ利子ヲ納メ、且全額百分ノ二ヲ返納スルモノトス。然ルニ一千八百七十五年之レヲ

改メ毎年五米ノ利子ヲ納メ全額百分ノ一ヲ返納スベキコトトセリ。

借地人ヨリ除水管設置ノ計畫書ヲ添ヘ政府ニ出願スルニ於テハ、官吏ヲ派遣シテ現状ヲ調査セシメ、計畫果シテ其宜シキヲ得タルモノト認定スルニ於テハ之ヲ許容シ、政府ヨリ其要スルトコロノ土管ハ何レノ場所ニ於テ購求スベキカヲ命ズルモノトス。其設置セシ除水管ハ素ヨリ政府ノ所有ニ歸スルモノナレバ、決シテ之ヲ掘除シ若クハ破毀スベカラズ。其儘繼續借地人ニ譲リ渡シテ爲スベキモノトス。

借地人ハ曾テ政府ト約セシトコロノ家畜及ビ農具等ヲ速ニ求ムベキモノトス。而シテ農場ニ於テ收穫セシ青草、乾草「シユガー、ターニツプ」馬鈴薯、蘆葦、藁及ビ糞尿ヲ猥リニ賣却スルコト能ハズ。之レニ違背スルニ於テハ馬車一輛ニ付一百「マーク」ノ罰金ニ處ス又夜間牧羊ヲ農場外ニ驅出スルヲ禁ズ、之レニ反スルモノハ羊一群ニ付一百「マーク」ノ罰金ヲ科スルモノトス（因ニ曰ク牧羊ヲ夜間農場外ニ驅出セシメザルノ主意ハ可成的農場内ニ止マラシメ、其糞尿ヲ以テ地ヲ豊饒ナラシムルノ主意ナリトス。然ルヲ夜間トアルハ日中ハ之ヲ豢養スルガ爲メ屢々他ノ農場ニ放牧セザルベカラザルノ場合アレバナリ）

農場ノ有様ニ因テ「シユガー、ターニツプ」ヲ賣却スルヲ禁ズルコトアリ、之レニ反スルニ於テハ一回毎ニ一百「マーク」ノ罰金ヲ拂ハシムルモノトス。

一千八百七十一年以來借地人能ク勉務シテ著シク農場改良ノ結果ヲ顯ハシタルノ場合ニ於テハ馬鈴薯「シユガー、ターニツプ」藁乾草及ビ二番刈ノ青草ニ限リ賣却スルヲ許可スルコトトセリ。

農場内ノ樹木ハ猥リニ截伐スルヲ禁ズ。尤モ柳楊ノ枝及ビ他ノ野生灌木ノ枝ハ政府ヨリ特ニ示定スルトコロノ法ニ隨ヒ截伐スルヲ得ベシト雖ドモ其適度ヲ超ユルヲ得ズ。

樹木ハ枯死セシモノノ他決シテ截伐スルヲ得ズ。蓋シ枯死セシモノヲ截伐スルニ於テハ必ず其近隣ニ可成的同種ノ幼木ヲ植ユルモノトス。之レニ背クモノハ一樹ニ付二十「マーク」若クハ之レニ倍スルノ罰金ヲ科スルモノトス。

政府ハ時々官吏ヲ派遣シテ農場内ノ樹木ヲ點檢セシメ、若シ其數ニ不足ヲ生ズルアラバ左ノ割合ニ因テ罰金ヲ科シ且其不足スベキ樹木ヲ植エシムルモノトス。

- 一、桃、櫻、桑 一本ニ付 一「マーク」
- 一、林檎、梨、葡萄 同 二「マーク」
- 一、「ホツプ」 一株ニ付 三「マーク」
- 一、野生木若クハ灌木 一本ニ付 五十「ペニツヒ」

因ニ曰ク普魯士國ニ於テハ元來櫻樹ナカリシモ、昔シ「エーシャ、マイナー」ヨリ輸入

シ大ニ其栽培法ヲ工夫シ、以テ今日ノ盛ヲ見ルニ至リタリ。林檎ト雖ドモ亦然リ、元ト土産ノモノアリシト雖ドモ、其質寔ニ堅ク、且小果ナルモノニシテ到底食用ニ供スルコト能ハザリシモ、佛國等ヨリ其苗木ヲ移シ、終ニ自生ノ良果ヲ得ルニ至リタリト云フ。又獨逸國ニ於テ今日ノ如ク山林ノ盛大ヲ致シタル一話ヲ聞クニ、其因國王「フレデリック、ウキリアム」第一世及ビ「フレデリック、ジ、グレート」ニアリ。蓋シ當時普魯士國ノ氣候宜シカラザルヲ憂ヒ到底山林ヲ盛ンニセズンバ其改良ヲ見ルコト能ハザルヲ悟リ、大ニ之ヲ獎勵シ人婚姻スルニ於テハ男女トモニ一定ノ樹木ヲ植エ了ラズンバ寺院ニ於テ之ヲ許サ、リシト云フ。

獨逸國ハ昔シヨリシテ牧場及ビ農場ノ欄柵ハ多クハ石垣ヲ以テスルノ慣習ニシテ、英國ニ於ケルガ如ク生垣ヲ以テスルコトナカリシ、然ルヲ政府其要ヲ悟リ一千八百四十三年官有地ノ借地人ニ令シテ每歲必ズ若干ノ生垣ヲ造ラシムルコトトセリ。

粘土ヲ採掘スルノ許可ヲ受クルニ於テハ之ヲ他ニ送致スルハ政府示定スルノ場所ニ限ルベシ、決シテ示定外ノ場所ニ運搬スルヲ得ズ。而シテ採掘セシ後ハ直チニ其穴ヲ埋ムベシ。之レニ違背スルモノハ「アー」(一ヘクタール)ノ百分ノ一ヲ云フ)ニ五十「マーク」ノ罰金ニ處シ、煉瓦若クハ瓦百枚ニ付「マーク」ノ罰金ヲ科ス。蓋シ煉瓦ヲ製スルノ目的ヲ以テ粘土ヲ採掘スルモノハ、一ノ帳簿ヲ備ヘ之レニ製造高ヲ記載シ其數ニ因テ毎年末ニ税金ヲ納ムルノ法ナリトス。農場内ニ泉水アルニ於テハ、其借地人ハ漁獵スルヲ得ベシト雖ドモ、全廢ニ至ラシムルガ如キ器械ヲ使用スルヲ禁ズ。但他ニ定ムルコロノ漁獵規則ニ隨フモノトス。

政府ハ農場内ノ家屋ヲ修繕シ、若クハ爰ニ要スルコロノ家屋ヲ新築スルノ義務ナキモノトス。因テ借地人ハ自費ヲ以テ之ヲ新築修繕シ、特ニ借地滿期ノ年ニ於テハ各家屋ハ勿論他ニ之ヲ要スルコロアレバ必ズ修繕ヲ加フベキモノトス。而シテ警察官若クハ他ノ検査官ヨリ火災防禦ノ爲メ改築ヲ命ズルノ場合ニ於テハ借地人ノ自費ヲ以テ其令ニ隨フベキモノトス。蓋シ總テ修繕ヲ加フルノ場合ニ於テハ必ズ同一ナル物質ヲ用ユベシ。

往古ハ管ニ官有農場ノミナラズ、村里ノ農家ハ木造ノ家屋ヲ以テ普通トセリ。然ルニ政府官有農場ノ借地人ニ令シ、爾來新築ノ家屋ハ必ズ煉瓦若クハ石造トスルコトトナシ、木造ノ家屋ニ要スルコロノ價金ニ超過スルノ費用ハ政府ヨリ下賜スルト雖ドモ、其用材ヲ運搬スルハ借地人ノ負擔トセリ、蓋シ農家ニ於テハ必ズ馬匹ヲ畜養シ馬車ヲ供フルガ故ナリ。

官有地ノ借地人ハ家屋等ヲ修繕スルノ他ニ每歲幾分ノ家根ヲ改築スベキコトトセリ。即チ第一三十分ノ家屋ヲ蘆葦ヲ以テ造リ、第二、三十分ヲ乾瓦(唯太陽ニテ乾シタルモノヲ云)第三、二十四分ヲ瓦、第四、二十分ヲ藁、第五、十五分ノ家根ハ板瓦ヲ以テ造ルノ制ナリ。

以上述ブルトコロノ改築ハ例令特ニ政府ヨリ令ヲ下サルモ怠リナク必ズ實施スベキモノトス。若シ之レニ悖ルモノアラバ百「マーク」ノ罰金ニ處シ重キハ一時ニ其改築ヲ命ズルコトアルベシ。

借地人自己ノ失誤ヨリスルニアラズシテ火災ニ罹ルノ場合ニ於テハ、火災保險會社ヨリ受クルトコロノ保險金ノ他ニ、政府ヨリ其損失全額百分ノ五乃至十五ノ償金ヲ下賜スルモノトス。

沍水暴風等天災ノ爲メニ家屋ヲ崩破シ、若クハ家畜傳染病ノ爲メニ厩舎ヲ破毀スル等ノ場合ニ於テハ、政府其百分ノ中十五ノ費用ヲ下賜スルモノトス。尤モ用財ヲ運搬スル車馬ノ費用ハ借地人ノ自辨タルベシ。該場ノ借地人煉瓦ヲ業トスルモノナレバ、其建築ニ要スルトコロノ煉瓦及瓦ハ市價ヨリ百分ノ二十廉價ニテ納ムルモノトス。而シテ此建築ニ要スルトコロノ用材等ハ政府ヨリ示定スルノ場所ニ於テ購求スベシ。

一千八百六十七年以來農場家屋ノ家根ハ可成的火災ヲ防禦スルニ足ルベキ物質ヲ用フルコトトシ。其近傍ニ「スレート」アルノ地ハ之ヲ用ヒ其不便ナルノ地ニ於テハ瓦ヲ以テシ木板若クハ藁ヲ用ユルヲ禁ジタリ。

借地人ハ火災防禦ニ要スベキ器具ハ必ズ備ヘザルベカラズ。之ヲ購求スルノ場合ニ於テハ政府ヨリ其半額ヲ下賜ス。

借地人ヨリ納ムルトコロノ年貢ハ曾テ定ムルトコロノ歲額ヲ四分シ、之ヲ四回即チ六月一日九月一日十二月一日及ビ三月一日ニ政府ヨリ特ニ命ズルトコロノ官廳ニ收納スルモノトス。借地人交迭スルノ年ニ於テハ新借人ハ一期前ノ分ヨリ上納スベキモノトス。

官有農場ノ爲メニ要スルトコロノ税金ハ政府負擔スベキモノノ他借地人ヨリ納ムルハ勿論ナリトス。政府ヨリ支出スベキモノモ一時借地人ヨリ納メ置キ後チ之ヲ購求スベシ。

人或ハ曰ク獨逸國ニ於テハ軍事ノ爲メ人民負擔スルトコロノ稅實ニ重シ、然ルヲ今マ國ノ状態ヲ鑑ミルニ政府未ダ他ニ資金ヲ擲テ改良進歩ヲ獎勵セザルベカラザルモノ枚擧スルニ暇アラズ。然ラバ兵ノ爲ニ費ストコロノモノヲ減ジテ其費ニ當ルコソ良策ナルベシト、此言誤謬ノ甚シキモノト云ツベシ。見ヨ獨逸國ノ如キハ四壁敵ヲ以テ周匝スレバ、常ニ精兵ヲ備ヘテ其侵襲ヲ防禦セザルベカラズ。素ヨリ進侵攻略ノ主意ニアラズ、防禦ノ主意ナレバ所謂兵ハ國ノ保險會社ト一ナリ。國アラズンバ一工事ヲ起スモ何ゾ益アラン其盛大ヲ謀ルモ亦利アラザルベシ、一步ヲ退テ平時ヲ顧ミルモ亦兵ハ國民ノ教育上須要ナルヲ識ルベシ。夫レ全國至ルトコロニ學校アリ、人幼齡ナルノ時ハ必ズ幾分ノ知識ヲ茲ニ於テ養成スベシト雖ドモ、後チ業ニ就キ全ク學事ヲ放任スルガ故ニ終ニ姓名スラ自書スルコト能ハザルニ至ルモノ多シ。然ルヲ徵兵ニ應ジ兵營ニ入ルニ於テハ營ニ兵法ノ如何ヲ識ルノミナ

ラズ、書スルコト能ハザルモノハ之ヲ習ヒ、先王ノ歴史獨逸國史等ノ教育ヲ受ルヲ以テ、歸村スルノ時ニ於テハ今帝ハ勿論先王ノ歴史ヲ談ズルヲ得ルニ至ル、此益實ニ僅少ノ事ニアラズ。今帝ハ尤モ茲ニ注目セラレ屢々兵營ニ親臨シ賜ヒ、自ラ兵卒輩ニ種々ノ問題ヲ下シテ其道ヲ獎勵セラル、コト多シ。

戰亂等ノ場合ニ際シ借地人擅ニ爰ヲ辭退スルコトヲ得ズ。又敵軍ノ爲メニ損害ヲ蒙ルコトアルモ其賠償ヲ政府ニ訴フルコトヲ得ズ。

一千八百八十二年四州即チ「バーテンボルヒ」「ボマレニア」「サキノニー」及ビ普魯士中ニアル官有農場ノ借人ハ必ズ公立保險會社ニ入ルコトトセリ。蓋シ此四州ニ於テハ特ニ官有農場ノ爲メニ此會社ヲ設立セリ。因テ新ニ該地方ノ農場ヲ貸與スルモノニハ農務省ヨリ命令書ト共ニ該會社ノ規則書ヲ渡スヲ例トス。他州ニ於テハ特ニ之レガ爲メニ設クルトコロノ保險會社ナキヲ以テ、普通ノ會社ニ因テ保險セシムベキモノトス。其保險ヲ要スベキ家屋ノ價格ハ政府示定スルトコロニ因リ、何人タリトモ之レニ異議ヲ容ル、コト能ハズ。如斯其家屋ヲ保險スルハ勿論亦其收穫物ノ電害ヲ保險セシム。但電害ヲ蒙ルノ恐レアル收穫物ハ例之バ麥類油菜及ビ豆類等ニ限ル。而シテ毎年七月一日此保險ヲナサシムベシ。若シ之レニ背クモノアレバ前年ノ保險料ニ倍スルノ罰金ヲ科ス。然レドモ借地人交渉ノ年ナレバ一ヶ月若クハ數ヶ月ヲ限り保險セ

シムルヲ得ルモノトス。

借地人ハ中央政府若クハ地方廳ヨリ官吏農場視察ノ爲メ巡回スルニ於テハ其隨員ト俱ニ農場内ニ可成的快樂ニ宿セシムルノ義務アリトス。官吏馬ヲ連レ來ルニ於テハ厩舎ヲ供シ、之ヲ飼養スベシ。其飼料ハ前月ノ市價ニ因リ該官吏ヨリ支拂フベシ。若シ馬ヲ隨ヘザルノ場合ニ於テハ農場ヨリ馬車ヲ供シ其近傍ノ停車場迄送ルベキモノトス。

一千八百四十八年以來檢査官ハ可成的農場内ニ止宿セズ。近傍ニ宿屋アレバ之レニ投宿スルコトトセリ。之レ蓋シ農場内ニ止宿スレバ借地人著シク響應シ爲メニ充分ナル取調ヲナスコト能ハザルノ弊害アレバナリ。

官有農場ヲ官馬通行スルノ場合ニ於テハ、其付添人ト俱ニ農場内ニ宿セシムベシ。其飼料ハ前月ノ市價ニ因リ政府ヨリ支拂フベキモノトス。

農場借地人ハ馬ノ交尾期ニ際シ、地方ヲ巡回スルトコロノ官有胤牡馬ヲ一ヶ月乃至四ヶ月間其場内ニ止宿セシムルモノトス。(官有胤牡馬ヲ畜養スルノ場處ハ全國ニ四ヶ所アリ、交尾期ニ際スレバ各地方ヲ巡回セシメテ馬匹ノ改良ヲ謀ル)

各借地人ハ必ズ一ノ帳簿ヲ所持シ左ノ件々ヲ記入スベキモノトス。

第一、政府負擔スベキノ税金ヲ一時借地人ヨリ納メ置キ、其金額ヲ記入シ領收證ヲ以テ政府

ニ請求スルモノトス。

第二、牧羊ノ業ヲ營ムニ當リ、羊若シ誤テ其柵外ニ脱シ、他人ノ農場ニ損害ヲ與フル等ノ場合ニ於テハ政府ヨリ其償金ヲ下賜ス。因テ借地人ヨリ之ヲ支拂ヒ置キ此帳簿ニ記入シテ、後チ請求スベシ、尤モ政府ヨリ其償金ヲ下賜スルハ農場ノ周圍二十「キロメートル」以内ニ限ルベシ。

雇夫若シ遊獵規則若クハ山林規則等ニ違背シ刑ヲ受ケタルモノハ、借地人即チ雇主其後期ノ來ルヲ待テ解雇スベキモノトス。

各借地人ハ亦一ノ帳簿ヲ備ヘ左ノ件々ヲ明記スベキモノトス。

第一、收穫セシトコロノ「スイート、ターニツプ」ノ量及其使用ノ道ヲ詳記スベシ。

第二、家根ヲ修繕改築セシ容積ヲ記ス。

第三、農場内ニアル樹木ノ積類及ビ其數ヲ明記スベシ。

検査官其農場ヲ視察スルノ場合ニ於テハ此帳簿ニ照シテ實查ヲ受ケ決シテ事ヲ祕スベカラズ。

借地人ハ擅ニ其地所ヲ他人ニ貸與スルヲ得ズ。例令政府ニ乞フテ許可ヲ受クルモ、全農場十分ノ一ヲ超過スルヲ得ザルモノトス。而シテ借地人ハ必ズ其場内ニ居住シ決シテ他所ニ住スル

ヲ得ズ。又該農場ノ近傍二十「キロメートル」以内ノ場所ニ於テ私有地ヲ購求スルヲ許サズ。

借地人家族ノモノト雖ドモ政府定ムルトコロノ規則ニ違背スルニ於テハ借主ト均シク處分スルモノトス。

違算等總テ政府ニ開申スベキコトアルトキハ、六月二十四日ヨリ八月一日迄ノ間ニ限ルベシ此期ヲ過レバ政府其責ニ任ゼズ。

借地人若シ期限内ニ死去スルニ於テハ、其管理ヲ寡婦若クハ一子ニ傳フルヲ得ベシト雖ドモ寡婦ハ一人獨個ニテ之ヲ處管スルヲ許サズ。必ズ適任ナル後見人ヲ要スルモノトス。其後見者ハ政府ニ出頭シテ許可ヲ受ケ特ニ定ムルトコロノ規則ニ從フベキモノトス。

借地人ニシテ政府會テ定ムルトコロノ命令書ヲ遵奉セズ、且懶惰ニシテ到底目的ナキモノト認定スルニ於テハ六ヶ月ノ猶豫ヲ與ヘ臨時ニ放逐スルモノトス。

借地人ノ交迭スルノ年ニ於テハ舊借地人下種栽培ノ道ヲ怠ルノ恐レアレバ此年ニ限り下種スベキ種類段別等政府ヨリ命ズルモノトス。新借地人ハ未ダ交迭ノ時期來ラザルモ其農場ニ於テ下種栽培ノ準備ヲナスヲ得ルモノトス。

舊借地人若干ノ資金ヲ費シ、起業セシモノニシテ其利新借地人ニ遺存スベキモノアルニ於テハ、之ヲ政府ニ開申スベシ。政府ハ新借地人ニ命ジテ相當ノ價金ヲ拂ハシム。尤モ泉水中ニ幼

魚ヲ放ツガ如ク其價格ヲ定ムルニ當時困難ナルノ場合ニ於テハ收穫高ニ應ジ後チ拂ハシムルモ
ノトス。

總テ約束上ヨリ成リ立ツベキモノハ必書面ヲ以テスベシ口約ハ、全ク無効ノモノトス。

官有地ヲ貸與スルハ必ズ公糶法ニ依ルモノトス。之ヲ貸與スルニ當リテハ地方廳ヨリ農務省
ニ伺出ツベキモノト雖ドモ、其歲入一千五百「ターレル」ニ滿タザルモノニシテ期限六ケ年以
下ノモノハ地方廳限リ處分スルヲ得ベシ。

一千八百五十年ノ頃ヒ迄ハ更ニ整然タル規則ナキヲ以テ、或ハ一農者一期ヲ終レバ又之レヲ
繼續シ一代若クハ子孫ニ至ルマデ官有農場ヲ預カルモノ多カリシモ、爾來其舊慣ヲ破リ、必ズ公
糶法ニ依テ其繼續者ヲ定ムル事トセリ。故ニ一農場ヲ貸與スルニ當リテハ曾テ其旨ヲ官報縣報
及ビ二三ノ新聞紙（政府ニ反對スル黨ノ新聞紙ニハ之ヲ掲載セズ）ニ掲ゲテ公告スルコトトセ
リ（余一ノ官有農場貸與ノ公告文ヲ見ルニ出願者ハ農學ノ實地及學理ニ通ジ其證明書ヲ所持シ
若干ノ資金（農場ノ廣狹ニ應ジ其金額ヲ異ニス）アルモノニシテ該農場ノ近傍ニ私有地ナキモ
ノニ限ル云々トアリ）。扱テ其定日來レバ出願者ヲ招集シテ先ヅ第一ニ農學ノ證明書ヲ所持ス
ルヤ、又曾テ公告セシトコロノ資金ヲ所持スルヤ、否ヲ問フアリテ必ズ一時間以上年貢高ヲ糶
ラシメ、最モ多額ナルモノ三名ヲ採リテ農務卿ニ開申シ其三者ヨリ撰拔スルノ法ナリトス。

如斯借地人タルベキモノハ必ズ若干ノ資金ヲ所持スルモノニ限ルト雖モ、之ヲ確認スルハ甚
ダ難ク又屢々訛譌アレバ官吏ヲ其地方ニ派遣シテ密ニ探究セシメ、或ハ毎年上納スルトコロノ
歲入税金ノ額ヲ調査シ以テ其信僞ヲ糺サシム。

以上述ブルガ如ク政府其農場ヲ貸與スルノ時ニ當リテハ堅ク約ヲ結び、借地人タルベキモノ
ハ私金ヲ擲テ農場ノ改良ヲ謀ラザルベカラズ。例令之ガ爲メ家屋ヲ要スルモ政府決シテ其費用
ノ幾分ヲ補佐スルコトナシト、之レ寔ニ盡セリト云ツベシ。政府若シ其費用ノ幾分ヲ補給スル
コトトセバ可成的官金ヲ消費センコトヲ謀リ、政府ヨリ支出スルノ金額ハ殆ンド其金額ヲ償フ
ニ足ルガ如キ訛計アルヲ免ヌカレズ。例之ハ粉車ノ業ヲ起シ、之ガ爲メ若干ノ費用ヲ要スルモ
其期十八ケ年ナレバ利ヲ得ルニ足ルベシ。又借地人若干ノ資金ヲ費シ、一事業ヲ起スニ於テハ
交迭ノ時ニ臨ミ他人ニ比スレバ多額ニテ其繼續ヲナサントスルノ傾向アレバナリ。

王領地ハ既ニ頻々記述セシガ如ク今ハ全ク國有ニ歸シ、更ニ帝室ニ關係ナク唯其收入ヲ以
テ帝室費ニ供スルノミトス。然ルニ現時ニ於テハ帝室ニ屬スル二種ノ領地アリ、之レ全ク宮
内省ニ於テ管轄スルトコロニシテ、更ニ農務省ノ關係ナキモノトス。即チ一ハ先王ヨリ傳リ
タル帝室世襲財產、一ハ今帝自ら購得セラレタル帝王ノ私財之レナリ。乙ハ素ヨリ今帝ノ私
有物ナレバ自由ノ權アリト雖ドモ、臣下ハ勿論例令皇子皇女ト雖ドモ之ヲ讓與セラル、コ

ト能ハズ。必ズ世襲財産トセラルベキ制ナリトス。故ニ皇子皇女ニハ唯某帝領地ノ收入ヲ分與セラル、ト云フ。往年今帝ヨリ「プリンス、ビスマーク」ニ贈ラレタル土地ノ如キハ特ニ其目的ヲ以テ購求セラレタルモノニシテ、決シテ帝室ノ不動産ヲ下賜セラレタルニ非ズト。一千八百二十六年六月十七日官有地ヲ他省ニ於テ使用セントスレバ無代價ニテ之ヲ讓與スルコトトセリ。然ルニ一千八百三十六年（普魯西國へ始メテ鐵道ヲ布設セシノ年）其法ヲ改メ例之官用ノ爲メ他省ニ於テ之ヲ使用スルモ相當ノ借地料ヲ拂ハシメ、其有ニ於テ不用トナルニ於テハ曾テ貸與セシ地積ヲ主務省へ返戻スベキコトトセリ。

（公規）官有農場ノ稅ハ政府其三稅即チ「パツロン」（寺院學校稅ノ類ヲ云）地稅及ビ貧民救助稅ヲ負擔シ、他ハ悉ク借地人ヨリ納ムベキモノトス。然ルニ又政府他ニ負擔スベキモノ種々アリ。

道路橋梁ノ修繕等所有地内ニ横ハルモノハ其地主負擔スルノ制ナレバ官有地ニ横ハルモノハ地主ナル政府之ヲ負擔セザルベカラズ。且ツ當時政府ニ關係ナキ他ノ村里ニ於ケルモノ之ヲ負擔スルトコロ多シ。之レ蓋シ往時官有地ヲ割テ賣却セシノ時人民其修繕保護ニ堪ヘザルヨリシテ政府之ヲ負擔シタルモノナレバ、亦以テ免ヌカルベカラザルモノトス。然ルニ如斯場合ニ於テハ其全費ヲ負擔スルニアラズ、多クハ全額ノ四分ノ一ヲ補佐シ、或ハ之レニ現費ヲ給シ、或ハ

修繕ニ要スルトコロノ石材ヲ與ヘ、或ハ材木ヲ給スル等種々約束ニ因テ異レリ。又政府多ク水門及ビ堤防ノ修繕ヲ負擔スルトコロアリ。之レ往年政府多クノ水車ヲ所持セシモ漸次之ヲ人民ニ賣却セリ。此時ニ當リ其修繕費ノ幾分ヲ補給スルヲ約シタレバ又以テ免ヌカルベカラザルモノナリトス。然レドモ其約タルヤ寔ニ漠然トシテ今ハ其證據ヲ尋ヌルニ由ナキ有様ナレバ、各其經歷ヲ正フシ其源ニ溯リ其理由ヲ判明ニシ、後チ人民ト協議シテ政府一時ニ若干ノ金ヲ投ジ後來其責任ヲ免ヌガレタルトコロ多シ。

（貧民救助）一千八百十七年五月六日及ビ一千八百七十一年三月八日政府一令ヲ下シ各府各村ニ至ルマデ組合中貧民アラバ互ニ之ヲ救助セザルベカラズト、蓋シ伯林府ノ如キハ倫敦府ト異ナリ全府ノ市民一ノ組合ヲナシ二年以上居住スルモノハ外國人ニアラザレバ皆ナ之ニ入り、貧迫スルモノアレバ舉テ之ヲ救助セザルベカラズ。此組合救助法タル各市府ハ勿論村里ニ至ルマデ實施スルトコロナリト雖ドモ、官有地ニ至リテハ唯其居民一部ノ組合ヲナシ、以テ互救スルノ例ナリ。如斯組織スル農場ノ一部ヲ割テ賣却スルノ場合ニ於テハ、其遺殘スル官有農場ノ人民ハ勿論互ニ救助スルト雖ドモ、賣却セシ部位ノ農場ニ居住スルノ人民ヲ互救スルノ義務ヲ失スレバ、政府之ヲ救ハザルベカラザルコトトナレリ。然ルニ貧民多ク爰ニ移住スルノ弊アリ。政府之レガ爲メ費ストコロ多額ナレバ時々官吏ヲ派遣シテ新ニ貧民ノ爰ニ移住セシモノヲ逐放ス

ルコト多シ。夫レ如斯例令地ヲ賣却スルモ責任ノ後來ニ遺存スルコト多クアレバ、政府土地ヲ賣却スルハ決シテ得策ニアラズ。

(聯合縣費) 夫レ國民互ニ組合ヲ設ケ救助スルト一般亦數縣聯合シテ互ニ相扶助スルノ義務アリ。然ルニ縣ヨリ支出スベキモノハ人民ヨリセズンバ誰ヲカ之ヲ負擔セン。因テ之レガ爲メ第一財產歲入高ニ應ジテ其幾分ヲ徵收ス。第二各所有スル不動産ノ價格ニ因リ其稅ヲ納メシム即チ地稅及ビ家屋稅之レナリ。蓋シ政府第一種ノ稅ヲ拂フコトナシト雖ドモ、地稅及ビ家屋稅等ハ素ヨリ負擔スルノミナラズ。人民ヨリモ尙一分五厘多額ヲ納ムルモノトス。

夫レ獨逸國ニ於テハ各州ニ州會アリ。人民ヨリ議員ヲ撰舉シテ之レニ會セシメ、以テ州中ノ事ヲ議ス、然ルニ官有地ハ何レノ州何レノ都ニ至ルモ其大部位ヲ占有スレバ地方中最モ權威ヲ掌握シ隨テ議員ニ選舉セラル、コト多シ。因テ茲ニ官吏ヲ派遣スルヲ常トス。然ルニ一千八百七十三年農務卿ノ命ニ因リ毎回必ズ官有農場ヨリ官吏ヲ派遣スルコトトナリ、諸員ト答議シテ一州ノ費額ヲ定ム。

(道路) 官有地ノ便ヲ謀リ道路ヲ造設セントスレバ政府單リ其費用ヲ負擔スルハ勿論、修繕ニ至ルマデ永久政府ノ預ルトコロナリト雖モ、公衆ノ爲メニ設クルトコロノモノハ又人民共同シテ其新築修繕ノ費用ヲ負擔セザルベカラズ。但茲ニ一ノ道路アリ、之レガ爲メ官有地ニ最モ便ヲ與フルノ場合ニ於テハ政府人民ニ比スレバ多額ヲ拂ハザルベカラザルノ例ナリトス。茲ニ一會社アリ、屢々公衆ノ便ヲ謀リ一群若クハ數郡ヲ貫テ道路ヲ造設スルコトアリ、如斯場合ニ於テハ其請求ニ應ジテ之ニ接近スルノ官有山林若クハ農場ヨリ要材ヲ採ラシムルヲ例トス。然ラバ恩酬ノ爲メ官有地ニ幾分ノ便益ヲ與ヘザルベカラザレバ、其造設セントスルノ計畫ヲ政府ト協議シ、或ハ官有地ノ爲メニ其線路ヲ轉ゼシムルコトアリ。單リ官有地ノ便ヲ謀リ之レヲ造設セントスルニ於テハ、農務卿ヨリ其工事ヲ工務省ニ委ネ、該省ヨリハ特ニ官吏ヲ派遣シテ先ヅ第一ニ該場ノ歲入額ヲ調査セシメ、第二ニハ茲ニ道路ヲ造設セバ果シテ益アルヤヲ檢セシメ以テ線路ノ方向ヲ議シ之レニ着手スルモノトス。

(官有地家屋ノ新築及ビ修繕) 夫レ農務卿タルベキモノハ官有地ニ家屋ヲ新築シ若クハ其修繕ヲナスニ當リテハ該場ノ收入ニ隨テ金額ヲ費サザルベカラザルノ點ニ着眼セザルベカラズ。素ヨリ家屋ハ煉瓦石造ヲ以テ宜シトスルト雖ドモ、其收入僅少ナレバ木造モ止ムヲ得ザルベシ。收入多額ナルノ農場ニ於テハ石造モ亦可ナル可シ。決シテ其收入ニ超過スルノ費額ヲ費スベカラザルハ一般ノ經濟法ナリトス。因テ毎歲各官有地ヨリノ收入一部ヲ此費目ニ充テ、恰モ各官廳ノ定額ヲ定ムルト一般前年ニ官吏ヲ派遣シテ現狀ヲ巡視セシメ、其要スルトコロノ新築修繕及ビ費額等ヲ調査セシム。蓋シ一千七百九十六年以降毎歲地方廳ヨリ官吏ヲ派遣シテ其計畫ヲ

ナサシメ、毎秋期中ニ其ノ見ルトコロヲ農務省ニ報道ス。茲ニ於テ其費用ノ少ナルハ全ク之ヲ實行シ、大ナルモノニ至リテハ或ハ翌年度ノ費額ヲ以テ施ス等ノコトアリトス。而シテ家屋ノ新築修繕ニ就キテハ地方廳ニ放任スルモノトセザルモノトアリ。即チ左ニ掲グルトコロノモノハ必ズ農務卿ノ許可ヲ得ザレバ實施スルコト能ハザルモノトス。

- 一、巨大ノ新築及ビ城郭若クハ他ノ歴史アルベキ古傳ノ家屋ヲ修繕スルモノ。
- 二、借地人及ビ農夫等居住ノ爲メ要スルトコロノ家屋ノ新築。

三、製造場等ニ要スル竈場ノ造設。

四、農業上須要ナラザル各建築物。

五、五百「ターレル」以上ノ費額ヲ要スル建築物。

以上掲グルトコロノモノハ農務卿ニ開申シ、且建築師ヲシテ其計畫ヲナサシムルモノトス。一千八百八十年六月二十日政府建築規範ノ一令ヲ下シタルヲ以テ、農務省ハ勿論各省ニ至ルマデ之レニ基テ各々建築規則ヲ設ケタリ。即チ農務省ニ於テハ一千八百八十年八月廿日以前ノ法ヲ改メテ左ノ如キ法規ヲ定メタリ。

左ニ掲グルトコロノ條目ノ他三萬「マーク」以下ノ費額ヲ要スル建築修繕ハ地方廳官ノ見込ニ因テ實施スルヲ得ルモノトス。

- 一、五千「マーク」以上ノ費額ヲ要スルモノニシテ「リীগアル」ニ關シ若クハ學理ヲ要スルノ水工ヲ起スモノ。
 - 二、一萬「マーク」以上ノ費用ヲ要スルモノニシテ地上ヲ隔テ建設スルモノ若クハ水工ニシテ特ニ學術ヲ要シ或ハ未ダ經驗ナキノ新法ヲ施シ若クハ物質ヲ用ユルモノ。
 - 三、寺院若クハ他ノ建築物ニシテ特ニ工藝美術ヲ要スルモノ。
- 一千八百八十年八月廿日山林ニ要スル建築修繕ノ法規ヲ下シタリ蓋シ建築修繕トモニ三萬「マーク」以下ノ費額ニテ足ルベキモノハ地方廳官ニ委任スルト雖ドモ、其額ヲ超エ若クハ左ニ掲グルトコロノモノハ農務卿ニ開申スルモノトス。
- 一、工場ノ新設及ビ曾テ定ムルトコロノ費額ヲ超過スルモノ。
 - 二、地位ノ宜シカラザリシガ爲メニ破毀シ又ハ火災ニ罹リ若クハ暴風其他天災ノ爲メニ崩毀シタル家屋ヲ新築修繕スルモノ。
 - 三、在來ノ家屋ニ附築スルモノ。
 - 四、新築修繕トモ三萬「マーク」以上ノ費ヲ要スルモノ。
- 但五百「マーク」以上ノ費用ヲ要スルモノハ必ズ其地方便宜ノ建築師ニ因テ計畫セシムルモノトス縱令其費額ヲ超エザルモノト雖ドモ烟筒ヲ設ケ火爐ヲ建設スル等危險ノ恐レアル

モノハ必ズ之レニ委スベシ。

總テ官有地ノ建築修繕ニシテ五百「マーク」以上ノ費ヲ要スルモノハ必ズ入札セシメ、其最モ廉ナルモノニ請負ハシムルモノトス。尤モ特ニ學術ヲ要シ或ハ最モ至急ヲ要スルノ修繕等ハ此限リニアラズ。又一千「マーク」以下ノ費額ヲ要スルモノハ建築師ノ意見ニ由リ或ハ入札法ヲ行ハザルコトアルベシ。但入札法ハ如何ナルモノト雖ドモ入札シ得ルニアラズ、未ダ曾テ政府ノ經驗ナキモノニハ多クハ之ヲ許サザルコトトス。之レ蓋シ或ハ廉價ニ入札スルモノアルベシト雖ドモ更ニ後來ノ事ヲ謀ラズ單ニ廉價ヲ旨トシ粗造ナル建築ヲナスノ恐レアレバナリ。故ニ新築修繕アル毎ニ新聞紙ニテ之ヲ公告シ、其出願者中ヨリ尤モ正直ナルモノト認定スル若干ノ人ヲ選抜シ、之レニ入札セシムルヲ常トス。決シテ政府經驗ナキノ人ニ猥リニ其入札ヲ許スコトナシ。

一千八百四十三年九月廿五日各地方廳ニ令ヲ下シ、官有地内ノ新築修繕ハ其借地人等ニ入札セシメ、之ヲ請負シムルヲ得ルモノトセリ。之レ全ク便利上ヨリ出デタルモノニシテ、其用材ヲ運搬スルモ農場ノ都合ヲ謀リ牛馬ヲ使用スル等其利其便一ニシテ足ラザレバナリ。

官有地家屋ノ新築修繕ニ要スルノ用材ハ其價格ノ如何ヲ問ハズ市價最下落ノ時ト雖ドモ官有山林ヨリ供給スルノ例ナリシガ、一千八百五十九年以來其法ヲ改メ官有山林ト雖ドモ一己人民

ノ所有ト均シク利ヲ得ザルベカラザレバ、材木ノ市價下落スルノ時ニ於テハ之ヲ貯藏シテ其價格騰貴スルノ時ヲ待テ賣却スルモ可ナリ。故ニ縱令官有地ノ爲メニ材木ヲ要スルト雖ドモ、或ハ山林看守長ノ意見ニ由リ其請求ニ應ゼザルコトトセリ。

一千八百七十九年迄ハ總テ官有地ノ建築ハ必ズ煉瓦若クハ石造トスルノ制ナリシモ、氣候風土ニ因リ乾草等ヲ貯藏スルニハ木造ノ家屋能ク之レニ適スルノ邦土アレバ爾來其目的ヲ以テ建設スルノ家屋ニ限り木造トスルモ妨ゲナキコトトセリ。然レドモ總テ家根ハ火災ヲ防禦スルニ足ルベキ物質特ニ瓦ヲ以テ構造スベキコトトセリ。

一千八百七十九年六月廿九日當時ノ農務卿「フリーデンセル」氏大ニ官有地ノ改革ヲ施シタリ。氏ハ曾テ豪農ノ聞エアル人ナレバ素ヨリ夥多ノ農場山林等ヲ所有シ、最モ實驗ニ富ムノ人ナレバ、氏ノ言フトコロ行フトコロトシテ世人ニ感ゼシメザルモノトテハナカリシ。即チ左ニ主意トセシトコロヲ述ベン。

抑モ農ヲ以テ事トシ之ヲ以テ利ヲ博セントスレバ己レノ金囊ヨリ金塊ヲ支出スルヲ憂ヘザルベカラズ之レ經濟ノ本源ニシテ他辯ヲ費サザルモ、世人能ク其理ヲ識ルナラン。而シテ農者ノ最モ費用ヲ要スルハ常ニ家屋ノ新築修繕ニアリ。之レガ爲メ經濟ノ困難ヲ訴フルコト多シ、之レ他ナシ其農場ノ收入分限ニ超ユルノ美且宏大ナル建築ヲナスニアラズシテ何ゾヤ。故ニ其土

質ノ饒瘦ニ應ジ、收入ニ適スルノ構造ヲナスコソ最モ要點ト云ツベシ。然ルヲ官有農場現時ノ状態ヲ察スルニ、一トシテ其構造分限ニ超エザルモノナシ。例令バ茲ニ一ノ豪農アリ、其歳入ハ管ニ農場ヨリノミナラズ鑛山アリ山林アリテ農場ノ收入ハ僅ニ歳入ノ一小部ヲナス等ノ場合ニ於テハ、農場内ニ石造ノ美屋ヲ建設スルモ可ナリ。グリソ、ハウス」ヲ造設シテ自ラ樂ムモ亦可ナリ。然ルニ官有農場ノ如キニ至リテハ彼ノ豪農所有ノ農場ト大ニ趣キヲ異ニシ、一農場ハ單ニ其收入ノミヲ以テ經濟ヲ維持セザルベカラズ、決シテ他ニ收入アラザレバ到底彼ノ豪農輩ノ農場ニ模シテ結構ヲ盡スコト能ハズ。況ヤ官有農場ハ政府ニ屬スルノ地ニシテ、各州ノ大部位ヲ占有スルモノナレバ、宜シク其管理ヲ整頓シ人民ノ模範ニ供セザルベカラズ。人アリ曰ク人民ノ模範トスルノ意アレバ如何ゾ其費用ヲ顧ミズ農場ノ結構ヲ盡サルベカラズト、嗚呼誤謬モ亦甚シト云ツベシ。夫レ一農場ハ一農場ノ收入ヲ基トシ、宜シク其經濟ヲ立テ利アリテ整頓スルノ管理ヲ施サズンバ決シテ農民ノ模範トナラザルノミナラズ、却テ慘毒ヲ全國ニ普流スルト何ゾ異ナラン。因テ特ニ官有地ニ於テハ一己人民ノ所有地ヨリモ尙ホ利益アルノ良法ヲ施サルベカラズ。農場ト云ヒ山林ト云フモ茲ニ要スルコロノ家屋ハ所謂農ヲ起シ山林ヲ保護繁茂ナラシムルノ一器械ナルベシ。然ラバ家屋ハ美ヲ盡スニ足ラズ、借地人ト云ヒ農夫ト云ヒ家畜ト云フモ唯寒ニ凌ギ雨雪ニ堪ユレバ足ルベシト云フノ思想ヲ抱クニ至ルベシ。之レ最モ

要トスルトコロナリ。

氏ハ又建築師ノ持論ニ反對シテ一説ヲナス。夫レ建築師ニ煉瓦石造ト木造ノ建築何レガ利ナルヤヲ問ヘバ必ズ云ハン、煉瓦石造ノ家屋ニ優ルモノナシ。煉瓦石造ノ家屋ハ二百年若クハ三百年保維スルト雖ドモ、木造ハ漸ク五十年或ハ六十年ニ過ギザルベシ。其利容易ニ鑑別スルヲ得ベシト、蓋シ建築師タルベキモノハ一ハ宏大美麗ナル家屋ヲ建設シテ自己ノ名望ヲ博シ、一ハ以テ自己ノ金囊ニ利ヲ博セントスルノ主意ナレバ、一人トシテ前説ノ利ナルヲ説カザルモノナシト雖ドモ、農場ノ經濟上ヨリスレバ決シテ然ラズ。例令バ三百年間ニ二回若クハ三回木造ノ家屋ヲ建設スルヨリモ、寧ロ一タビ堅牢ナル煉瓦石造ノ家屋ヲ建設スルハ寔ニ利アルモノ如シト雖ドモ、余ノ説ハ然ラズ。夫レ今日ノ農法ハ依然トシテ決シテ今ヨリ三百年間連續スルモノニアラズ。且現時穀作スルノ農場モ或ハ山林ト變ジ、或ハ製造場ト化シ或ハ今日ノ位置ハ後年ニ至リ不便ヲ訴フルニ至ル等千變萬化アルモノナレバ、五十年維持シ得ル木造ノ家屋ヲ以テ足レリトス。現ニ今時農場ノ状態ヲ熟視スベシ、曩キニ建設セシ家屋ノ位置不便ナルヨリシテ改築スルモノ多クアルニアラズヤ。

以上ノ主意ニ基キ氏ハ既定ノ法ヲ廢棄シテ更ニ建築修繕ノ一法ヲ設ケタリ。且ツ之ヲ實行スルニ當リ全官有農場ヲ別テ二種トセリ。即チ、

第一種ノ農場（單ニ耕耘ノミヲ業トスルモノヲ云フ）

第二種ノ農場（製造所ヲ設ケ土質豐饒ナルノ農場ヲ云フ）

第一種ノ農場ハ單ニ耕耘ノミヲ事トスルコロナレバ、其建築物ハ極メテ粗造ヲ旨トシ、務メテ費用ヲ省減スルニ着目ス。第二種ノ農場ハ其地饒豐ニシテ「スウキート、ターニツプ」等能ク茲ニ生育シ、以テ製糖場等ヲ設立スルコロナレバ其收入モ亦第一種ノ農場ニ比スレバ巨額ナレバ煉瓦若クハ石造ノ家屋ヲ建設スルモ妨ゲナシ。

第一種農場ノ建築法ハ概ネ左ノ如クスベシ。

- 一、家屋ノ基礎ハ地平ヨリ凡ソ「一メートル」高クシ堅牢ナル石ヲ以テ造リ後「タイル」未ダ焼カザルノ煉瓦ヲ云フ）ニテ築クベシ。其要アルニ於テハ外壁ノミ板瓦ヲ以テ單ニ覆フベシ。兎モ角モ其地方最モ廉價ナルノ物質ヲ用ユルモノトス。
- 二、農具若クハ馬車等ヲ置クトコロノ小舎ハ木造トシ其壁ハ粘土ヲ以テナスヲ足レリトス。
- 三、借地人及ビ農夫等居住スルノ家屋ハ粗末ナル煉瓦ヲ以テ造ルベシ。
- 四、羊舎ハ基礎石ヲ地平ヨリ凡ソ「一メートル」高クシ壁ハ粘土ヲ以テ造リ其内面ハ板ヲ以テ覆ヒ可成的羊糞中安謨仁亞ノ發散スルヲ防グベシ。
- 五、厩舎ハ其天井ヲ窪形ニ建築スルハ宜シト雖ドモ、費用ノ多キヲ以テ收入多額ナルノ農場

ニアラズンバ建設スルコト能ハズ故ニ止ムヲ得ズ木造ニシテ壁ハ粘土ヲ以テシ、天井ハ木匡ヲ造リ之レニ粘土ヲ填メ後チ家根ヲ造ルベシ。其乾燥ニシテ割レ目ヲ生ズルアレバ再ビ粘土ヲ以テ之ヲ填ムベシ。

往時ハ農場在來ノ建築物ヲ破毀スルノ場合ニ於テハ、政府更ニ之ヲ顧ミザレバ全ク借地人ノ所得ナリシモ、後チ相當ノ價金ヲ納メシムルコトトセリ。一千八百七十八年以來舊來ノ家屋ヲ破毀スルニ於テハ建築師ヲシテ其價格ヲ定メシメ、借地人之ヲ望メバ拂ヒ渡スベシト雖ドモ、若シ之ヲ欲セザレバ入札法ニテ賣却スルコトトセリ。又往年ハ一場ノ定額既ニ消費スルノ時ニ臨ミ家屋ノ修繕ヲ要スルトキハ止ムコトヲ得ズ翌年度ノ費額ヲ以テ施スノ法ナリシモ、近時ハ猶豫スベカラザルモノト認定スルニ於テハ中央政府ニ請求シ其費額ヲ支出スベキコトトセリ。近頃政府官有農場ニ一令ヲ下シ、厩廠ハカメテ空氣ノ流通ヲ宜シクスベシト、蓋シ當時「ハラー」ノ農學校教師ノ說ニ動物ハ可成的舍外ニ於ケルガ如ク開活シタル空氣中ニ棲息セシメザルベカラズト、政府特ニ此一令ヲ下シタルモ亦此理ニ因ルモノナラン。

獨逸國中官有地ノ敷地積地名及ビ其收入等ハ左表ノ如シ。

地	名	農場ノ數	一ヘクター借地料平均	借	地	料	地	積

クイニツスバー	四二	二五、一一	八一二、八九	一五九七八
ガシビネン	六九	一七、三一	四五九三、九九	二八八六六
ダンジツク	一二	二九、九〇	二二六九八四、六九	三七四八
アリエンウワード	三一	二七、七二	七三五〇八、一五	一五一〇六
ポツダム	五七	三一、一八	一二〇三三三、八〇	二四一〇三
フランクフォート	八一	三八、〇一	三三二五八六、〇五	三〇三四二
ステテン	六〇	二八、三二	一一〇八七九、五〇	二六六五九
コスリン	一六	二七、〇九	一三九四〇、三〇	五九二七
スツラルザンド	七七	三一、四一	九四七七八、一三	二八七三六
ポセ	五一	二〇、七一	九七三一、五七	一七六五〇
ブロンバーク	二六	二二、四七	一四六三五、八〇	九八七五
ブレスロ	五七	四四、八一	一八二八四、九一	一五七八〇
リグニチ	九	四二、七三	二一四七、三五	一九〇四
オベルン	三三	三三、七一	一七九九六、八六	七五〇六
マグデバーク	七七	八五、四七	二五九五八一、四五	三三一八九

憲法

五五六

マーセバーク	五七	六七、一八	九五〇〇七、八九	一八三三三
アフリート	一五	四一、五六	五五九五、四四	三二七九
スクレスバーク	三	七八、七一	五二七九二五、三五	五七一
ハノーバト	二六	六二、二二	二三六一六三、八六	七九二六
ヒデスベーム	四五	五二、四二	一四八四三八、三四	一四六四五
ロンバーク	二三	三二、三八	三七四六、二〇	五三〇四
ステープ	一六	三七、二四	三八五六四三、六二	二二八九
オトリツク	八二	七七、五〇	四〇二二四〇、七三	五五一〇
ミンデン	二	二三、九五	六四、二一	九九八
カセル	八一	四七、七〇	二六五五六六、三六	一二二九八
ウイースバデン	二三	四七、九四	七六九八四五、九五	二一六五

以上ノ表ニ掲グルガ如ク、全國ニ官有地一千零六十九アリ、其全地積ハ三十三萬八千五百九十七「ヘクタール」ナリトス。而シテ全農場ヨリノ歳入ハ二千九百九十八萬九千三百二十「マー」ク「アリ、之ニ山林ヨリノ歳入額五千六百零七萬「マー」ク「ヲ合スレバ其全額八千六百零五萬

獨逸帝室財産一斑

五五七

九千三百二十「マーク」ナリトス。此全收入ヨリ帝室費七百七十一萬九千二百九十六「マーク」ヲ省減スレバ七千八百三十四萬零々二十四「マーク」タルベシ。然ルニ各官有地及ビ農務省ノ爲メニ毎歳費ストコロノモノハ左ノ如シ。

農場

一千八百八十五年

定額六百九十七萬七千七百四十「マーク」

別途費 拾萬九千七百八十「マーク」

合計 七百零八萬七千五百二十「マーク」

一千八百八十六年

定額 七百零八萬七千五百二十「マーク」

別途費 八十五萬七千六百四十三「マーク」七十五「ベニツヒ」

合計 七百九十四萬五千六百六十三「マーク」七十五「ベニツヒ」

山林

一千八百八十五年

定額 二千七百六十六萬四千四百四十「マーク」

別途費 四十三萬六千三百「マーク」

合計 二千八百十萬零々四百四十「マーク」

一千八百八十六年

定額 二千八百十萬零々四百四十「マーク」

別途費 四十五萬四千二百二十一「マーク」

合計 二千八百五十五萬四千五百六十一「マーク」

農務省定額

一千八百八十五年

四十二萬六千零二十「マーク」

一千八百八十六年

四十二萬六千九百「マーク」

一千八百八十六年ノ總費三千六百九十二萬六千六百二十四「マーク」ヲ全歳入七千八百三十四萬零々二十四「マーク」(帝室費ヲ除減セシ殘餘)ヨリ省減スレバ未ダ四千四百四十一萬三千四百「マーク」ノ剩餘アリ之レ全ク國庫ノ歳入ト知ルベシ。

今茲ニ一千八百八十六年獨逸國官廳ノ定額表ヲ得タレバ左ニ掲ゲテ參考ニ供ス

憲法	收稅省	一百七十萬六千二百「マーク」
	商務省	二十八萬二千二百十五「マーク」
	工務省	七十六萬五千四十「マーク」
	內務省	十一萬四千三百三十一「マーク」
	裁判所	五十六萬二千二百十「マーク」

憲法資料中卷

人名索引

(イ)

井上 毅

(ハ)

バルベイラツク 一〇四、一〇五
 ハルデンベルヒ 二九七、三八三
 ハットセル 一八七、
 ハル ト 二八七、

(ホ)

ホアンナード 一九三、
 ホーリウ 一八八、一九〇、一九三、一九六、

索引

(ト)

ヘンリ 三六六、
 ヘンリ一世 四三七、
 ヘンリ二世 四三六、
 ヘンリ三世 一五九、
 ヘンリ八世 一五九、四六八、
 ペアルツ 二九五、
 ヘツテル 一〇七、
 ペルボンチエール 三八八、

(チ)

トレール 一六〇、
 トニツセント 二五五、
 トツド 一八〇、一八七、
 トラジヤン 一〇七、
 豊臣 秀吉 五、
 チャールス 二五九、
 チャーレス一世 四三六、
 チルースー 二六一、

チヨールブル 六二、

(リ)

リオンネ 一九五、

(ル)

ルイ二世 四三九、四五五、

ルイ十四世 四四四、四三六、四二七、

ルウドルフ一世 四一〇、

ルウドウイヒ十一世 四〇九、

ルウドウイヒ十四世 四二一、四三三、四三二、

ルウドウイヒ十八世 四一〇、

ルウドウイヒ十六世 四三三、

ルイ十八世 二六〇、

ルードルフ 二七一、

ルンネ 三三〇、

(オ)

オットー 四四〇、四四一、

オホダラシヒコ 大帯日子於斯呂和氣 二、

(ネ)

ネツセルロード 三九〇、

ネルソン 一八二、

(ナ)

ナポレオン一世 二九五、二九六、二九七、二九八、三〇八、四二一、

四一九、四二〇、四二六、四三一、四三三、四三四、四三九、

四四五、四五八、

ナポレオン二世 三一、四一九、四三三、四三二、四三三、四三三、

中島 信行 二七、

(ラ)

ラインフハルツ 四四一、

ラ オ 一〇、

(ウ)

ウイルヘルム三世 三〇九、四三八、

ウイルヘルム(皇孫) 三九五、

ウイルヘルム四世 四〇四、

ウイルソン 一八一、

索引

(ワ)

ワールケーニヒ 四二七、

和氣清麻呂 五五、

(カ)

カメハメード 四三三、

カタリーナ 四三八、

カルル一世 四〇八、四二六、四三〇、四三三、四二七、

カルル二世 四三〇、

柿本人麻呂 五五、五七、

蠣崎慶廣 五、

神日本磐余彦 三、

(ヨ)

ヨセフ 四二二、

ヨセフヒーネ 四三八、

(タ)

タビード 四三三、

ダイシー 一五七、一〇、

ウキリヤム 一三〇、

ウエートン 一〇七、一〇八、一〇九、

ウルゼー 一一三、

ウエンツェル 四四〇、

ウキリアム一世 五三四、

ウアルレンスタイン 四二七、

(ク)

クルメツキー 四六四、

グナイゼンナウ 二九七、

クールフェルステン 二八三、二八四、二八五、二〇、

クールフェルステンブランデンブルグ 二八四、

グナイスト 三三七、

グロシユス 一〇一、一〇二、一〇八、

(ヤ)

ヤーコップ二世 四三八、

倭建命 二、

(マ)

索引

馬理斯去亞爾的

マツキス 四四〇、

マガレット 四三二、

マリア、テレシア 三九六、四〇四、

マツキス一世 四一六、

マルホロー 四二二、

(ケ)

ゲオルグ 三七三、

ケニヨン 六〇、

景行天皇 五、

(フ)

フレデリック四世 四四〇、

フヒリビーネ 四三五、

フレデリック、ウキリアム 四九四、四九九、五〇五、五〇六、

フレデリック一世 四九四、五三三、

フレデリック、ジ、グレート 五〇九、五二二、

フレデリック三世 五二〇、

ブラクストラン 五九、六〇、一〇三、一一一、五〇一、

ブラランチュウイーク 三二七、

フリドリヒ大王 二八九、二九一、二九二、二九三、二九四、一

二九五、二九九、三〇三、三〇四、三〇五、三〇六、三〇七、

三〇八、三〇九、三一一、三二四、

フリドリヒ一世 二八三、二八九、

フリドリヒ六世 二八三、

フリドリヒ、ウイルヘルム一世 二八九、三三三、

古澤 滋 二〇七、

ブロンチユリー 二六一、

ブルグラフ六世 二八一、

フランツ二世 四二一、

フリドリヒ 二七三、

プロツク 二六〇、

ブルーハム 一八八、

ブラヂェー 二〇七、

フォデレー 二〇七、

ブリーヌ 二〇七、

フィロン 一〇四、

天智天皇 一五、

(ア)

天照大御神 五、

天忍穗耳命 五、

足利義教 五、

アンソン 一八〇、

アヒルレス 二八三、

アンキサンドル 四四三、

アルフォンス十世 四三九、

アウグウチウス 四〇〇、

アルホンソン八世 四三六、

(キ)

欽明天皇 三、

(メ)

メ 一八六、

メ 二二〇、

(シ)

プリモース 一〇四、
バイランジエリ 六四、
ブルンチリ 三、六、一〇、二二、
フリーデンセール 五五、

(コ)

孝安 天皇 三、
孝徳 天皇 三、
後花園天皇 五、
皇極 天皇 五、
コンスタン 六三、
コツクス 一六〇、一八七、
コロムウエル 四二〇、四三六、四三三、
コツチヨバイ 三八八、

(エ)

エミルセチウ 六五、
エリザベス 一四〇、二五〇、
エルザベツト 四三二、

(テ)

シヤルンホルスト 二九七、
 ジエームス一世 四九〇、
 ジエームス二世 四八九、
 聖徳太子 二五九、
 聖武天皇 五、
 島津忠園 五、
 島津家久 六、
 シユルチエ 一〇八、
 神武天皇 三、

(ヒ)

ビスマルク 二九八、三六〇、四九六、五四四、
 ビツピン 四〇八、四二七、
 ヒューゴロシユス 一〇八、
 ヒリップ 二六〇、

(モ)

文武天皇 五四、
 モンテスキュー 二九九、

(セ)

セシ 一六〇、
 セザル 一〇二、
 セヂル 四三三、
 (ス)
 スタイン 二九五、二九六、二九七、三五二、五五九、三六〇、
 三八三、

索引終

昭和十年八月十日印刷
 昭和十年八月十五日發行



秘憲 不
 書法 許
 類資 復
 纂料 製

【非賣品】

校訂者 平塚篤

東京市杉並區上荻窪九六三

發行者 平塚篤

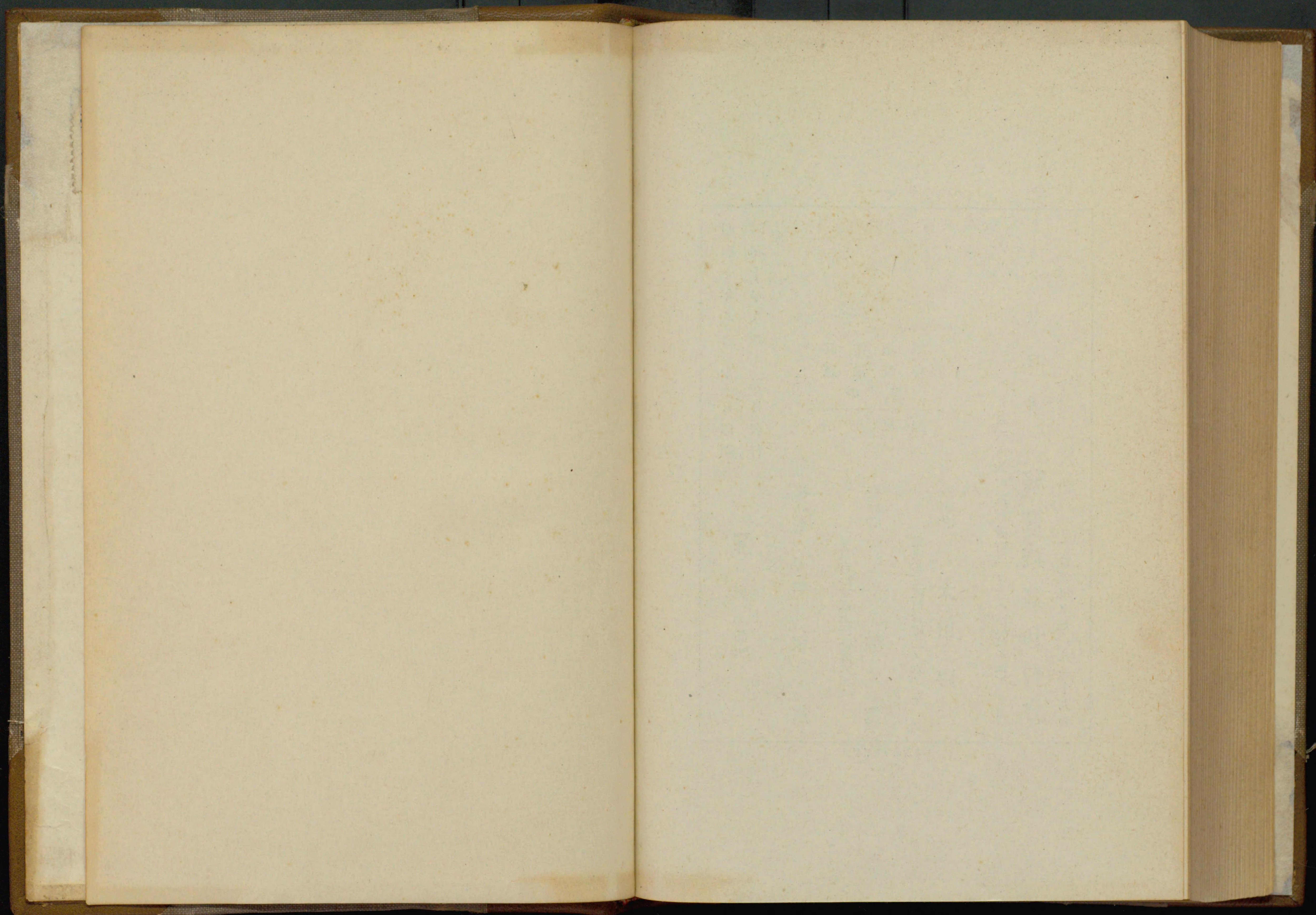
東京市芝區田村町二ノ六ノ五

印刷者 太田勝三

東京市麴町區内幸町一ノ三(大阪ビル内)

發行所 秘書類纂刊行會

電話銀座五一八一―九番



649
162

4

